

2 第2回アンケートの調査結果

2.1 定住状況について

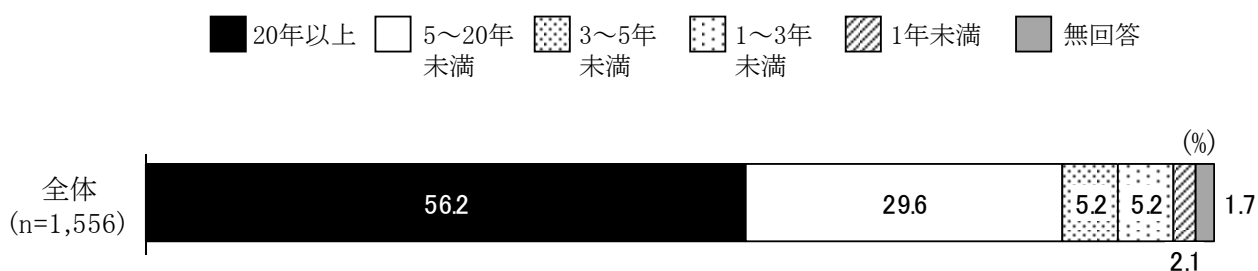
(1) 居住年数

問1. あなたは川崎市及び現在のお住まいの区に、通算、何年間居住していますか。また、現在のお住まいには、何年間、居住していますか。

① 川崎市

居住年数「20年以上」は56.2%、5年以上の居住者は85.8%となっている。

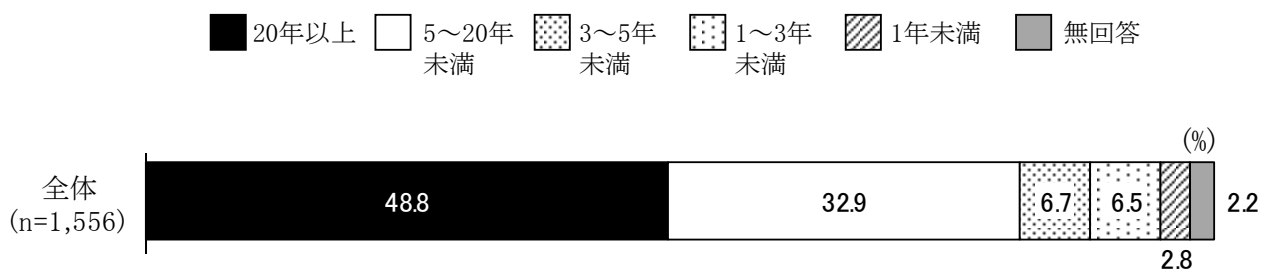
【図表 69】 居住年数（川崎市）



② 現在お住まいの区

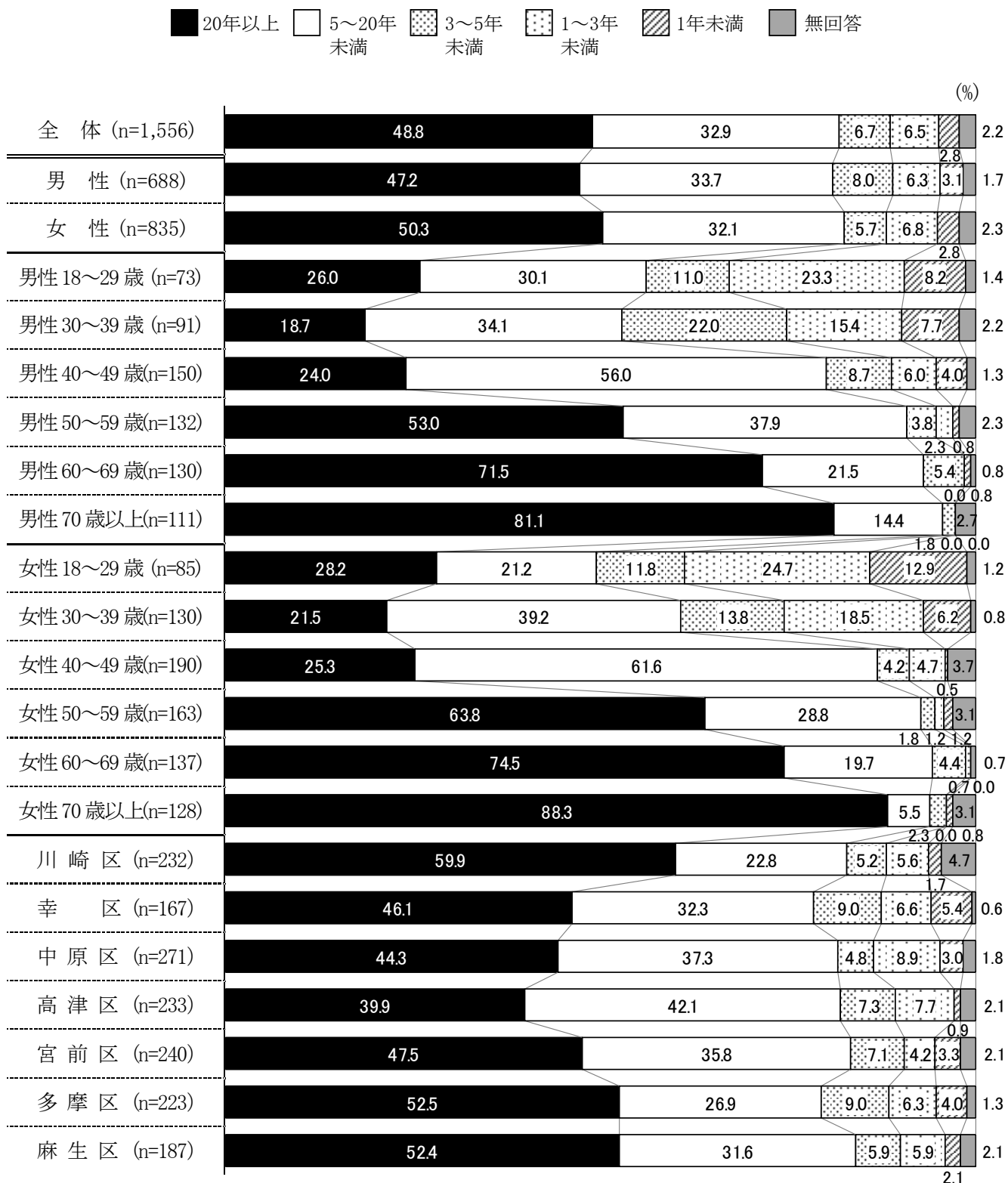
居住年数「20年以上」は48.8%、5年以上の居住者は81.7%となっている。

【図表 70】 居住年数（現在お住まいの区）



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で「20年以上」が5割を上回っている。
 居住区別では、「20年以上」は川崎区(59.9%)が最も多く、次いで多摩区(52.5%)、麻生区(52.4%)、宮前区(47.5%)と続き、最も少ないのは高津区(39.9%)であった。

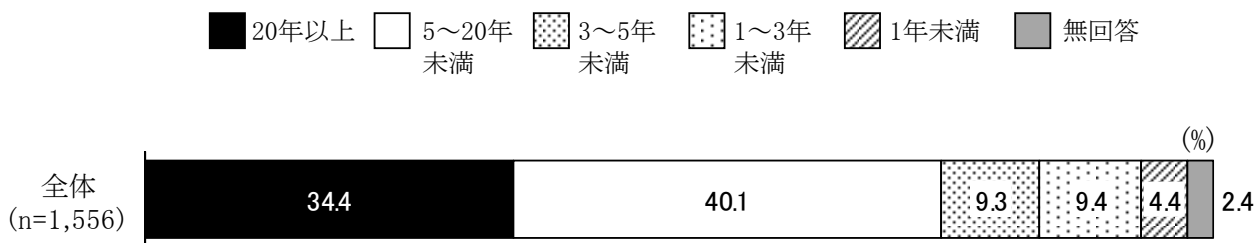
【図表 71】 居住年数（現在お住まいの区）
 （性／年齢別、居住区別）



③ 現在のお住まい

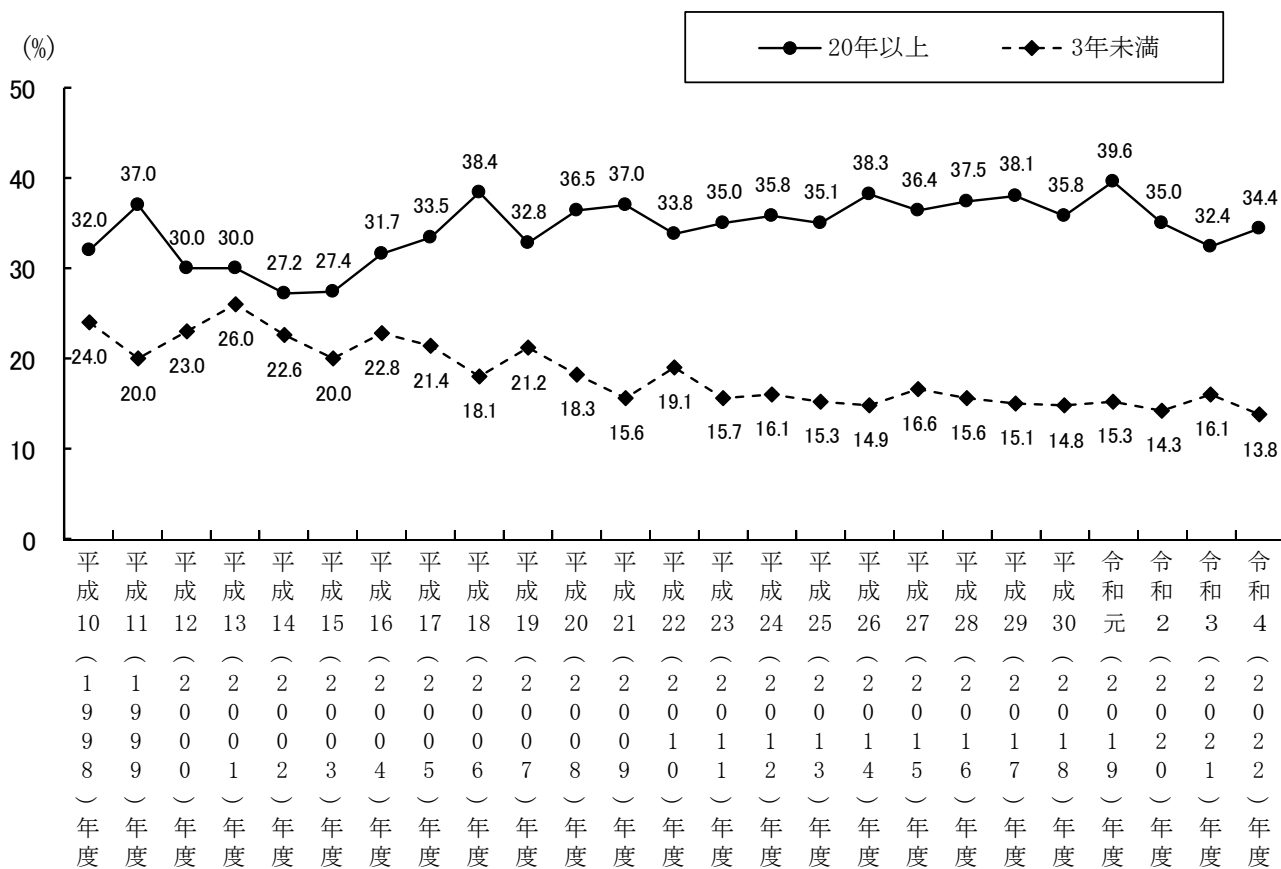
居住年数「20年以上」は34.4%、5年以上の居住者は74.6%となっている。

【図表 72】居住年数（現在のお住まい）



過去の推移では、昨年度（令和3年度）と比較すると、「20年以上」は2.0ポイント増加して34.4%と、令和元年度以降の減少傾向は下げ止まった感がある。「3年未満」は昨年度（令和3年度）から2.3ポイント減少し、13.8%となった。「20年以上」と「3年未満」の割合の差は20.6ポイントと、令和2年度調査とほぼ同程度となっている。

【図表 73】居住年数（経年比較）



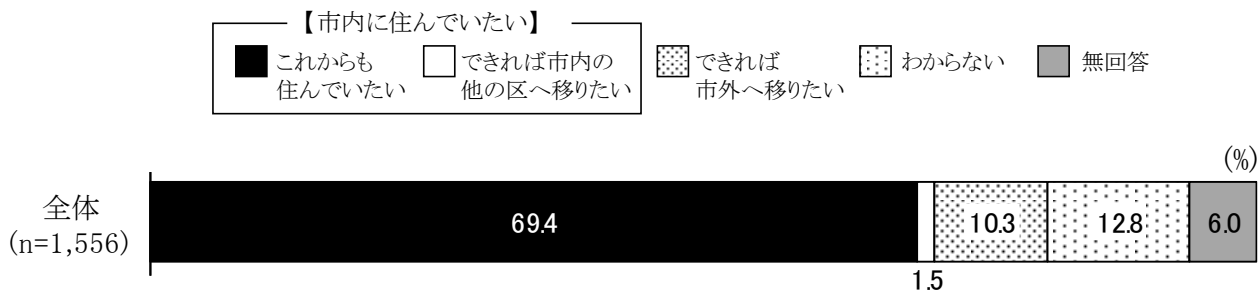
※令和2年度までの設問文は「今のところにお住まいになって何年になりますか」で実施。

(2) 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

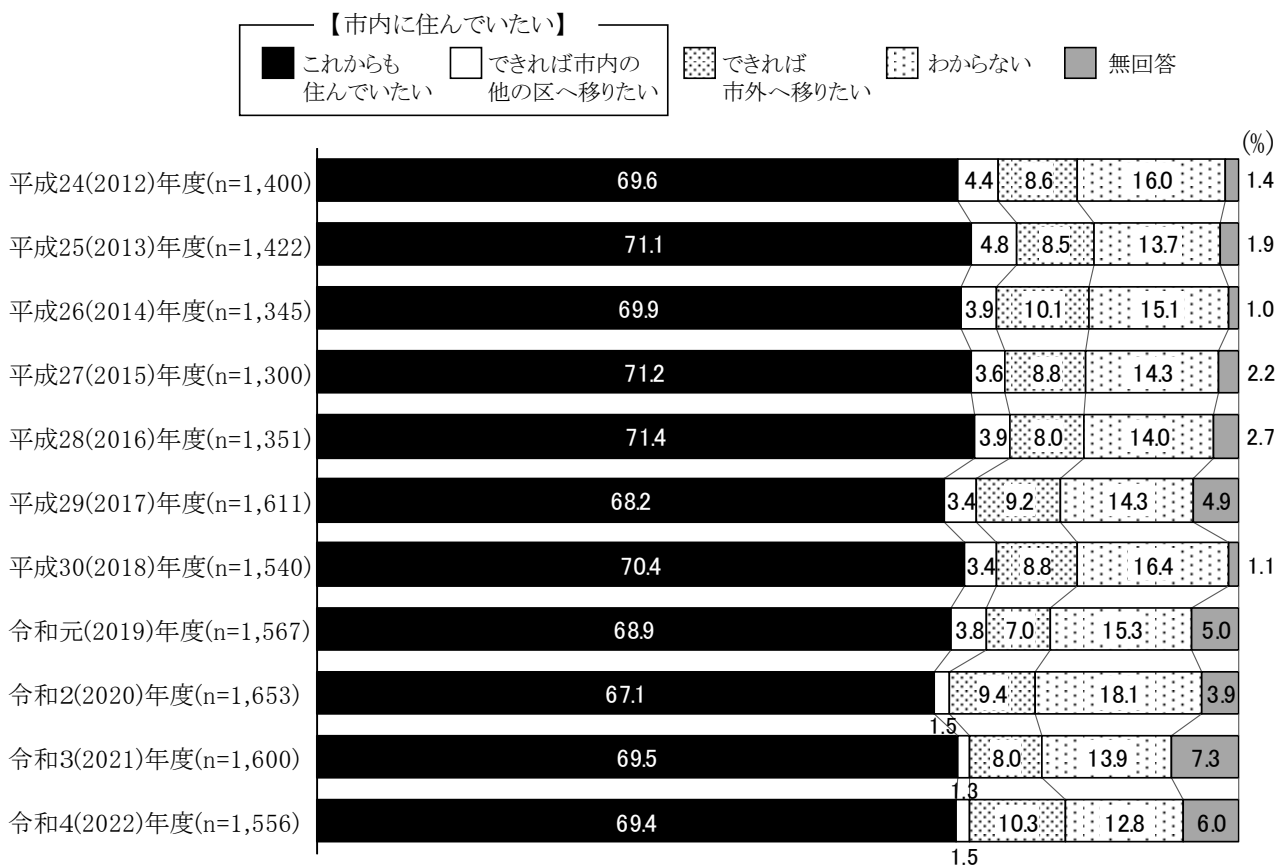
「これからも住んでいたい」(69.4%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.5%)を合計した【市内に住んでいたい】は71.0%であった。「できれば市外へ移りたい」は10.3%であった。

【図表 74】定住意向



この10年間において、「これからも住んでいたい」は70%前後で推移しており、今年度は昨年度(令和3年度)とほぼ同程度であった。

【図表 75】定住意向 (経年比較)

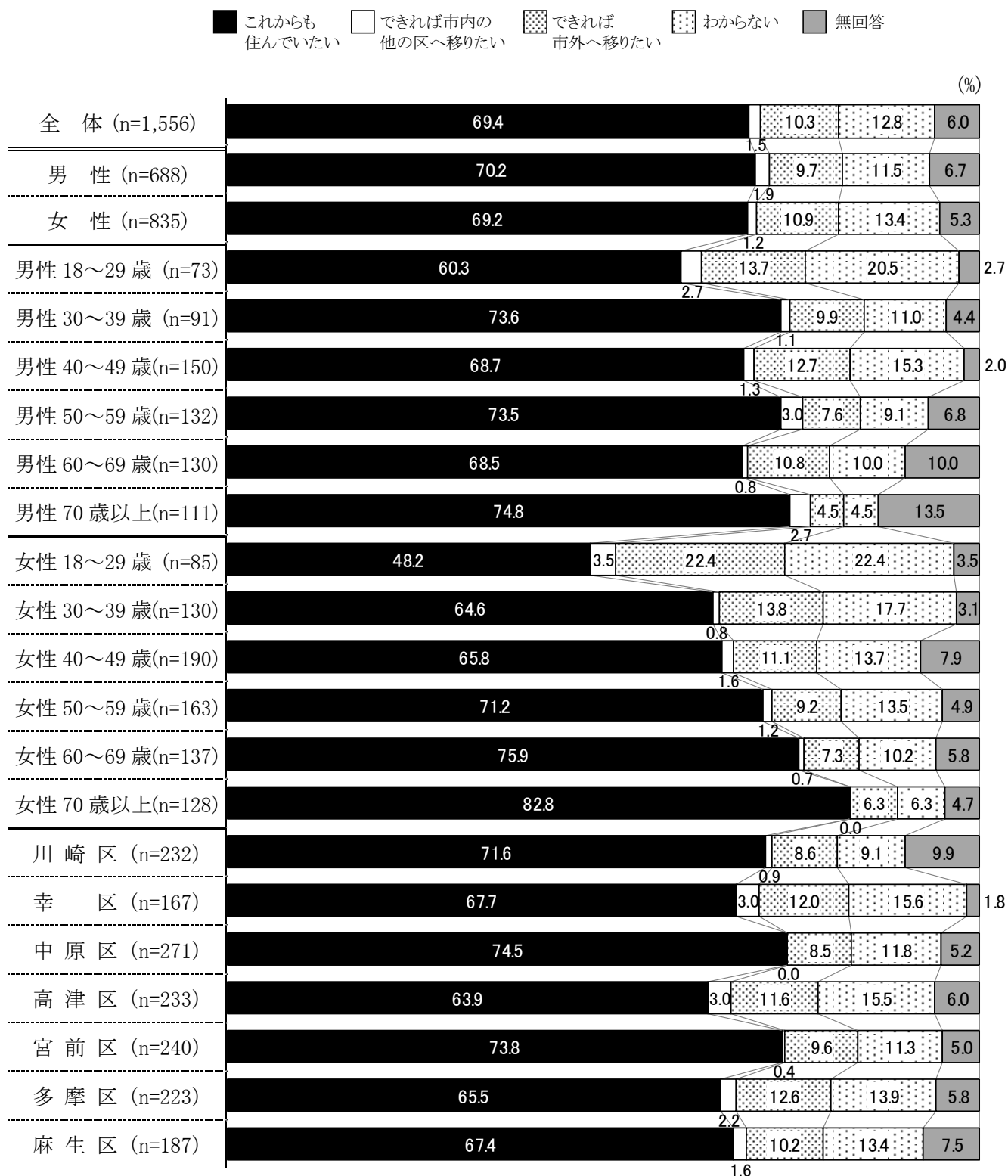


※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施。

性／年齢別に見ると、「これからも住んでいたい」は女性では18～29歳で48.2%と5割を下回っているが、年齢が高くなるほど多くなっており、70歳以上では82.8%と8割を超えている。男性は30～39歳、50～59歳、70歳以上で7割を超えている。

居住区別では、「これからも住んでいたい」は中原区(74.5%)、宮前区(73.8%)、川崎区(71.6%)で7割を超えている。

【図表 76】定住意向（性／年齢別、居住区別）

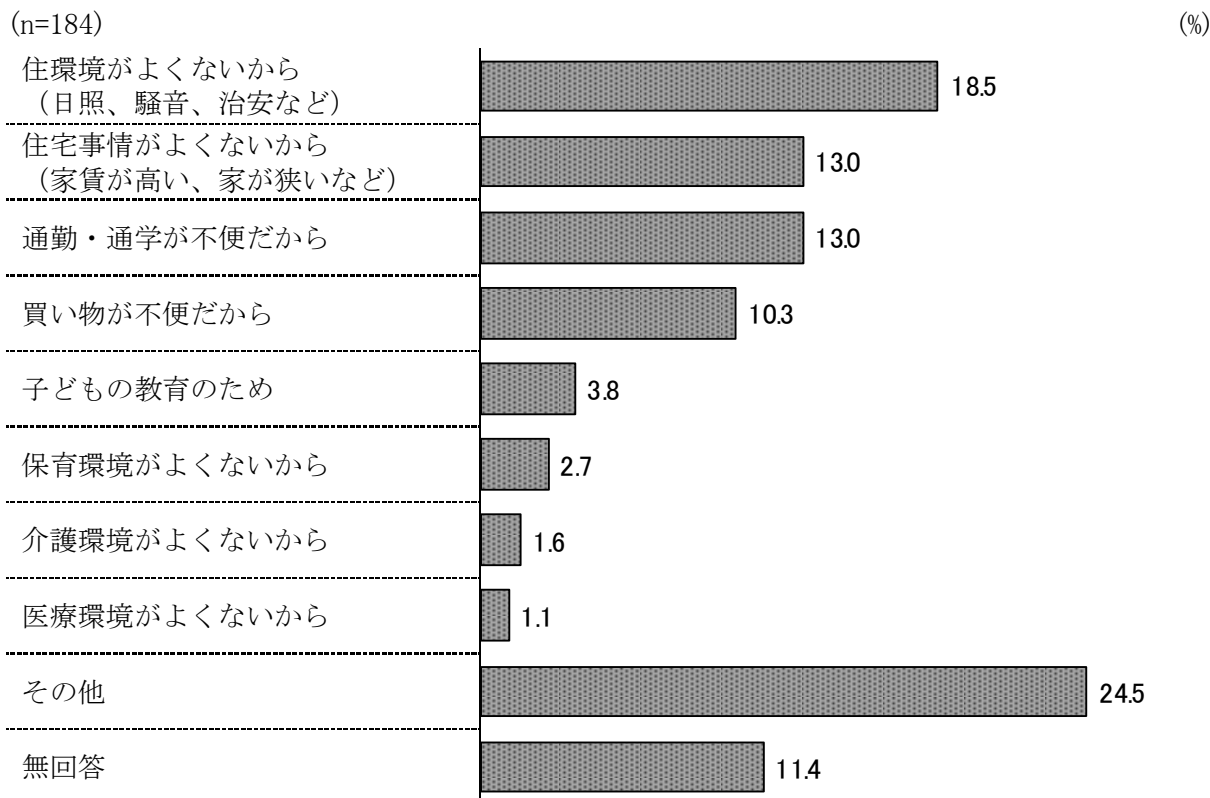


(3) 転居意向の理由

問3. あなたが、今のところから移りたい、または移る主な理由は何ですか。最もあてはまる理由を1つだけ選んでください。

「できれば市内の他の区へ移りたい」と「できれば市外へ移りたい」を合計した転居意向がある人に転居意向の理由を聞いたところ、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」（18.5%）が最も多く、次いで「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」、「通勤・通学が不便だから」（共に13.0%）、「買い物が不便だから」（10.3%）と続いている。

【図表 77】 転居意向の理由

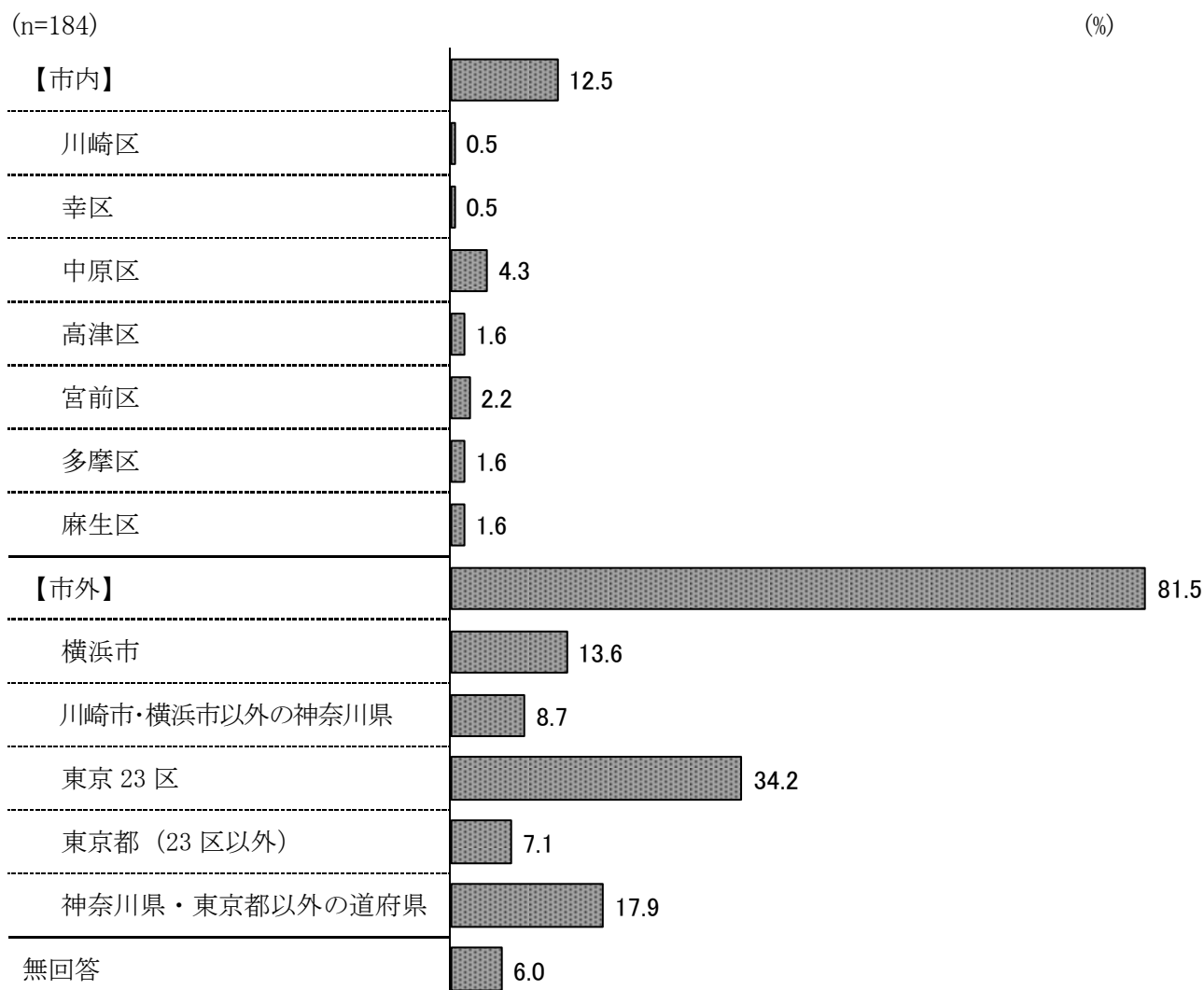


(4) 転居先の希望

問4. あなたは、どこに住みたいと思いますか。最も住みたいと思う地域を1つだけ選んでください。

転居意向がある人の転居先の希望では、【市内】が12.5%で【市外】が81.5%であった。【市内】では「中原区」(4.3%)が最も多く、次いで「宮前区」(2.2%)であった。【市外】では「東京23区」(34.2%)が最も多く、次いで「神奈川県・東京都以外の道府県」(17.9%)、「横浜市」(13.6%)と続いている。

【図表 78】 転居先の希望



居住区別の転居先の希望は、回答者数が少ないため参考にとどめる。

【図表 79】 転居先の希望（居住区別）

(%)

	全体	居住区						
		川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ベース: 転居意向がある人	(184)	(22)	(25)	(23)	(34)	(24)	(33)	(22)
【市内】	12.5	9.1	20.0	0.0	17.6	4.2	15.2	13.6
川崎区	0.5	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
幸区	0.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中原区	4.3	0.0	12.0	0.0	5.9	4.2	3.0	0.0
高津区	1.6	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.5
宮前区	2.2	0.0	4.0	0.0	5.9	0.0	3.0	0.0
多摩区	1.6	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	9.1
麻生区	1.6	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	6.1	0.0
【市外】	81.5	90.9	72.0	91.3	70.6	95.8	78.3	81.8
横浜市	13.6	18.2	16.0	4.3	17.6	41.7	0.0	0.0
川崎市・横浜市以外の神奈川県	8.7	13.6	4.0	4.3	8.8	12.5	9.1	9.1
東京23区	34.2	27.3	28.0	47.8	26.5	25.0	42.4	45.5
東京都(23区以外)	7.1	9.1	8.0	4.3	0.0	0.0	15.2	13.6
神奈川県・東京都以外の道府県	17.9	22.7	16.0	30.4	17.6	16.7	12.1	13.6
無回答	6.0	0.0	8.0	8.7	11.8	0.0	6.1	4.5

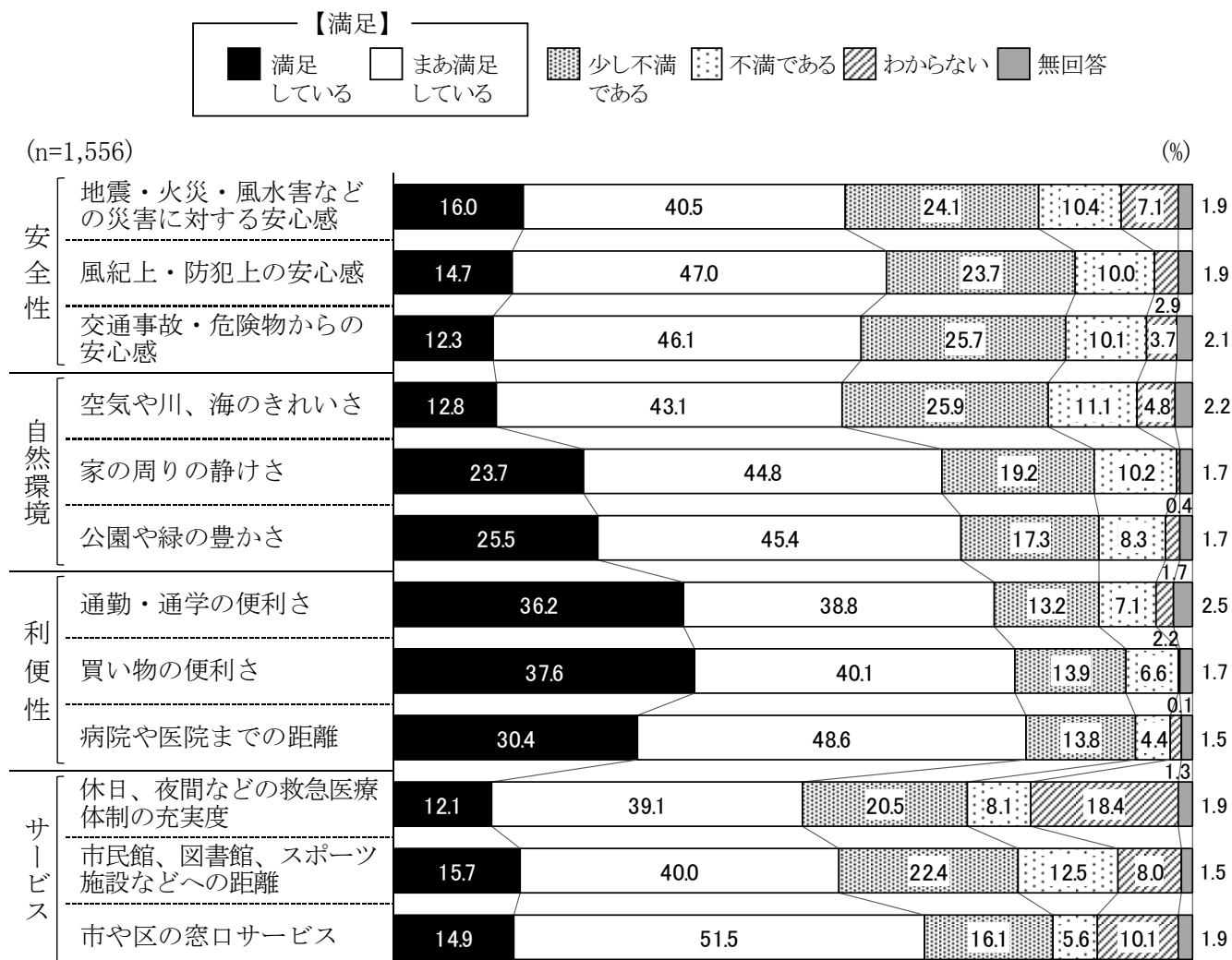
2.2 生活環境の評価について

(1) 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目で高く、「病院や医院までの距離」(79.0%)、「買い物の便利さ」(77.7%)、「通勤・通学の便利さ」(75.0%)で75%を超えている。一方、5割は越えているものの、【満足】が最も低いのは「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(51.2%)であった。

【図表 80】生活環境の満足度

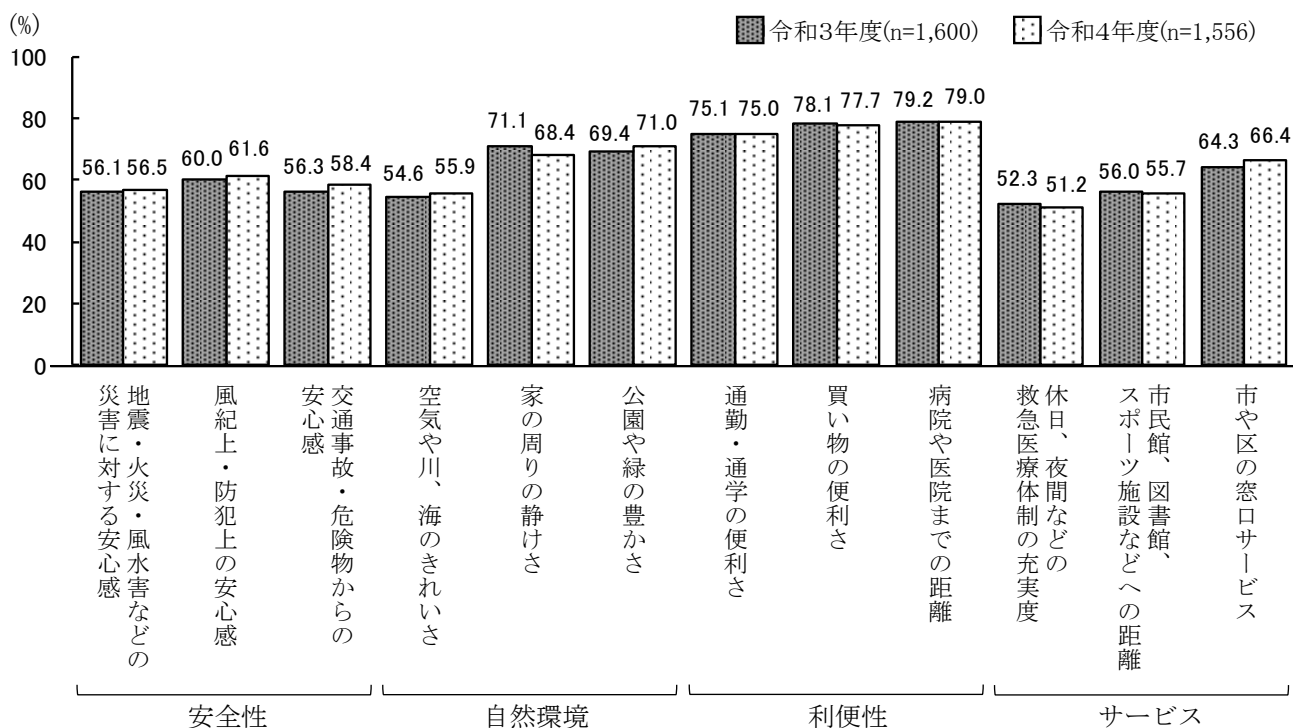


昨年度(令和3年度)と【満足】を比較すると、傾向に大きな変化はないが、「交通事故・危険物からの安心感」と「市や区の窓口サービス」で2.1ポイント高くなり、「家の周りの静けさ」では2.7ポイント低くなっている。

【図表 81】生活環境の満足度(経年比較)

※【満足】(「満足している」と「まあ満足している」の合計)で表示 (%)

	災害に対する安心感	地震・火災・風水害などの	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
平成29年度(n=1,611)	54.3	57.9	55.3	52.4	67.6	66.2	69.1	73.5	73.9	53.6	53.1	61.6	
平成30年度(n=1,540)	56.6	57.2	55.6	52.1	66.9	68.2	70.3	71.8	74.9	51.3	51.6	63.4	
令和元年度(n=1,567)	56.4	60.4	58.6	53.9	69.7	69.1	73.4	77.7	78.0	55.4	52.5	65.3	
令和2年度(n=1,653)	54.9	60.7	58.2	54.2	68.6	69.4	75.3	78.0	78.2	54.1	55.2	65.3	
令和3年度(n=1,600)	56.1	60.0	56.3	54.6	71.1	69.4	75.1	78.1	79.2	52.3	56.0	64.3	
令和4年度(n=1,556)	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4	



性／年齢別に見ると、男女ともに70歳以上で「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」、「風紀上・防犯上の安心感」、「交通事故・危険物からの安心感」といった『安全性』の面での満足度が他の年齢層と比べて高かった。

【図表 82】生活環境の満足度（【満足】回答者、性／年齢別）

(%)

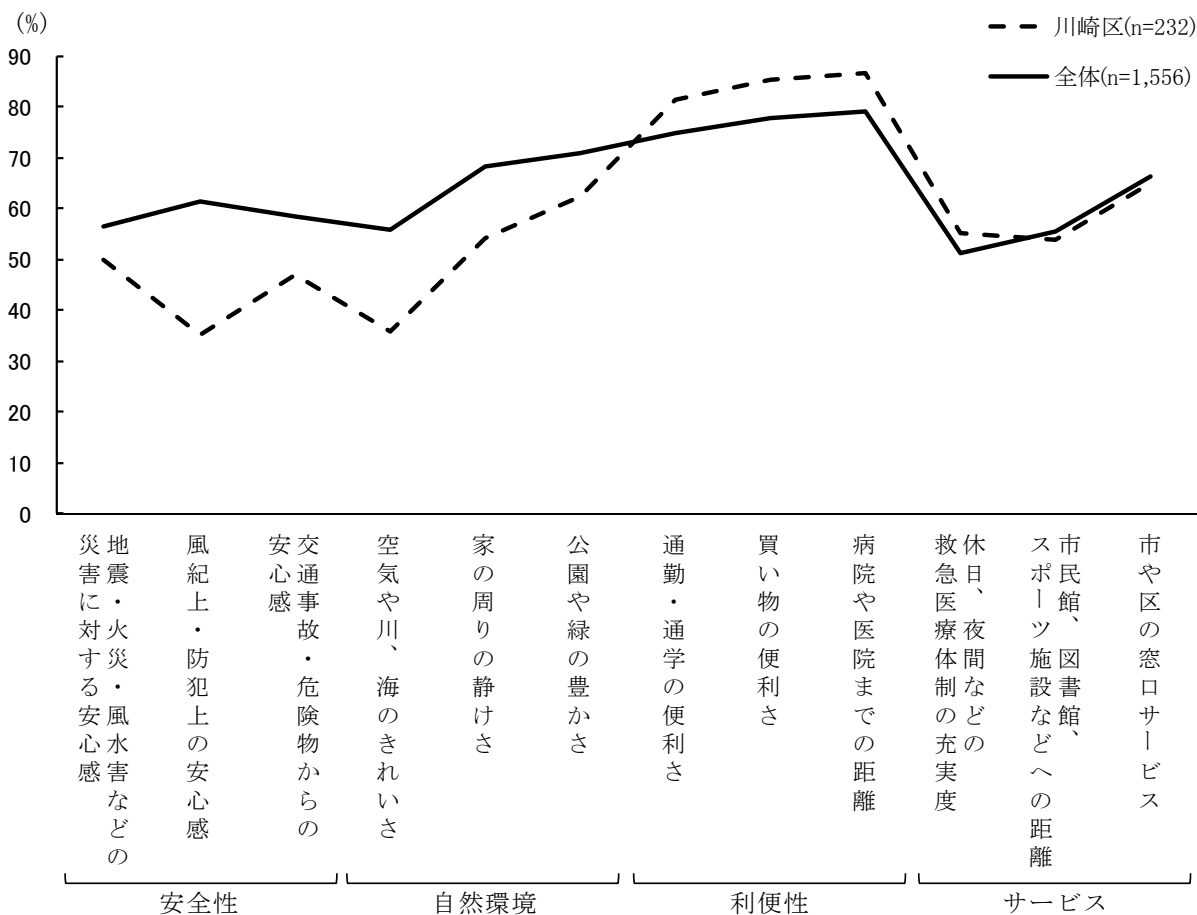
	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(688)	(73)	(91)	(150)	(132)	(130)	(111)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	56.5	61.3	64.4	51.6	60.7	61.4	60.8	69.4
風紀上・防犯上の安心感	61.6	62.8	56.2	60.4	60.0	64.4	62.3	72.1
交通事故・危険物からの安心感	58.4	59.6	65.8	54.9	50.7	62.1	60.8	67.6
空気や川、海のきれいさ	55.9	57.4	58.9	50.5	55.3	53.8	60.8	64.9
家の周りの静けさ	68.4	67.7	65.8	63.7	70.0	65.9	68.5	70.3
公園や緑の豊かさ	71.0	69.9	71.2	76.9	66.7	65.2	72.3	70.3
通勤・通学の便利さ	75.0	74.4	79.5	87.9	72.7	72.7	71.5	68.5
買い物の便利さ	77.7	76.9	82.2	87.9	79.3	75.8	72.3	68.5
病院や医院までの距離	79.0	76.7	76.7	91.2	76.7	75.8	71.5	73.0
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	51.2	50.3	46.6	50.5	49.3	53.0	49.2	52.3
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	55.7	54.2	56.2	68.1	61.3	45.5	51.5	45.9
市や区の窓口サービス	66.4	67.6	68.5	71.4	64.0	68.9	70.8	64.0

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(835)	(85)	(130)	(190)	(163)	(137)	(128)
地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	56.5	52.9	50.6	43.1	51.6	57.1	53.3	60.9
風紀上・防犯上の安心感	61.6	61.3	60.0	46.2	62.6	60.7	64.2	73.4
交通事故・危険物からの安心感	58.4	58.0	58.8	40.0	55.8	63.2	62.0	68.0
空気や川、海のきれいさ	55.9	54.5	47.1	38.5	53.7	57.7	60.6	66.4
家の周りの静けさ	68.4	68.9	63.5	64.6	68.9	73.0	68.6	71.1
公園や緑の豊かさ	71.0	71.7	78.8	65.4	71.1	76.7	67.9	71.9
通勤・通学の便利さ	75.0	75.9	72.9	80.8	75.3	82.2	73.7	68.0
買い物の便利さ	77.7	78.6	81.2	80.8	79.5	81.0	71.5	78.1
病院や医院までの距離	79.0	80.6	81.2	82.3	80.5	82.2	74.5	82.8
休日、夜間などの救急医療体制の充実度	51.2	51.7	47.1	46.9	55.8	55.8	47.4	53.1
市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	55.7	57.0	57.6	50.0	62.6	63.8	48.2	56.3
市や区の窓口サービス	66.4	65.4	63.5	63.8	64.2	71.8	62.0	66.4

川崎区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を6～7ポイント上回っている。

一方、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「風紀上・防犯上の安心感」は26.3ポイント、「空気や川、海のきれいさ」は20.1ポイント下回った。『サービス』では特に目立った点は見られなかった。

【図表 83】生活環境の満足度（【満足】回答者、川崎区）

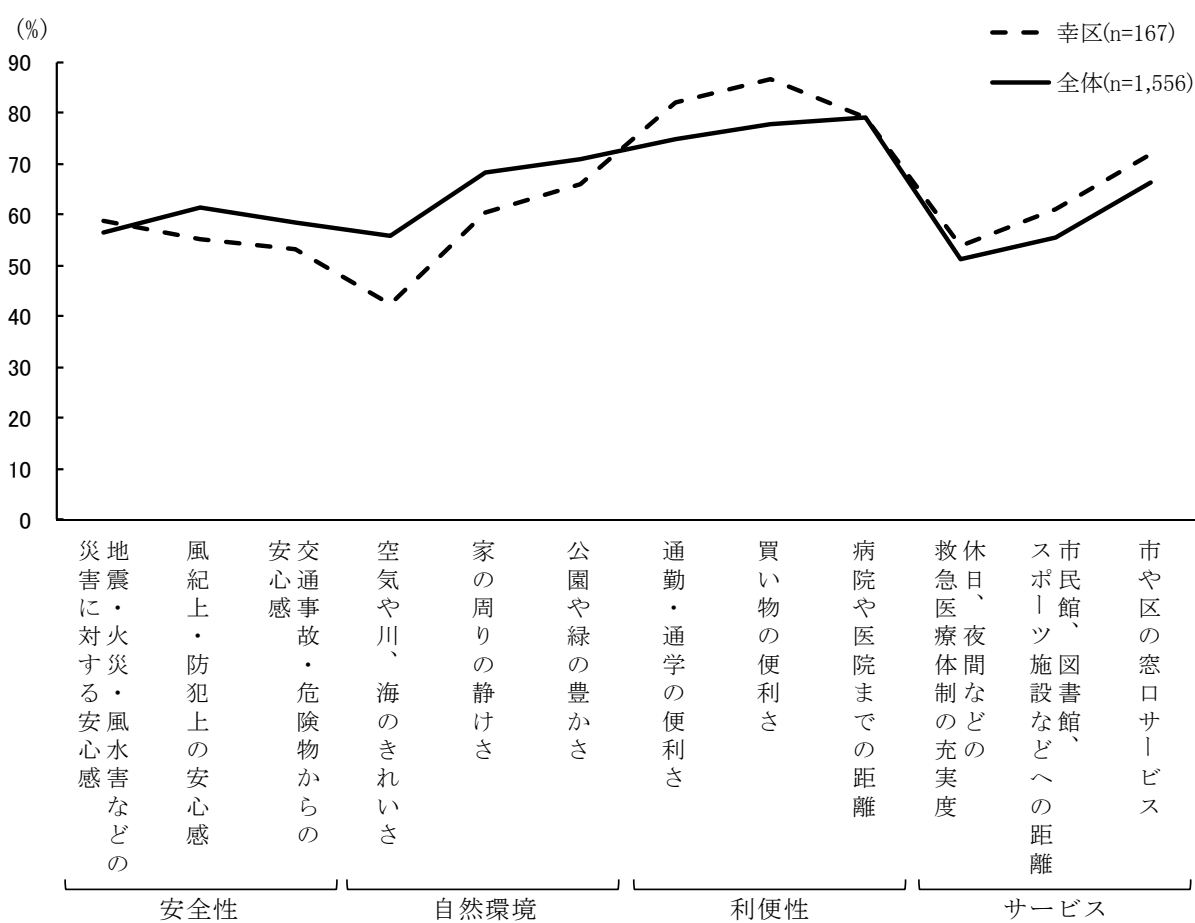


	安全性			自然環境			利便性			サービス		
川崎区	50.0	35.3	47.0	35.8	54.3	62.5	81.5	85.3	86.6	55.2	53.9	65.1
全体	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4

幸区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「買い物の便利さ」は9.1ポイント、「通勤・通学の便利さ」は7.0ポイント上回った。

一方、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「空気や川、海のきれいさ」は13.4ポイント、「家の周りの静けさ」は7.9ポイント下回っている。『安全性』では「風紀上・防犯上の安心感」と「交通事故・危険物からの安心感」で市全体の満足度を5～6ポイント程度下回った。

【図表 84】生活環境の満足度（【満足】回答者、幸区）

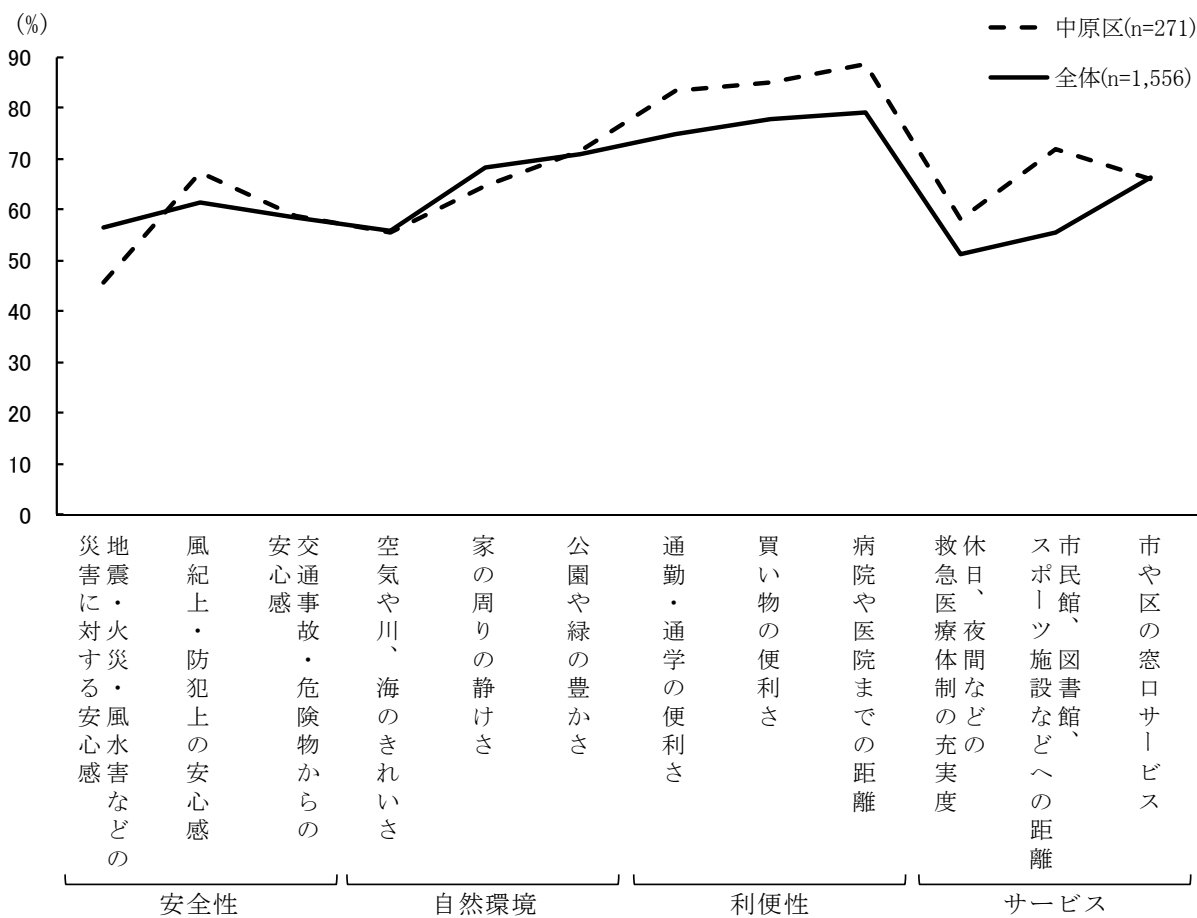


	安全性			自然環境			利便性			サービス		
幸区	58.7	55.1	53.3	42.5	60.5	65.9	82.0	86.8	79.0	53.9	61.1	71.9
全体	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4

中原区と市全体の満足度を比較すると、『利便性』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度と同水準か上回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」は16.3ポイント、「病院や医院までの距離」は9.6ポイント上回った。

一方、『安全性』の「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」では市全体の満足度を10.7ポイント下回った。『自然環境』では特に目立った点は見られなかった。

【図表 85】生活環境の満足度（【満足】回答者、中原区）

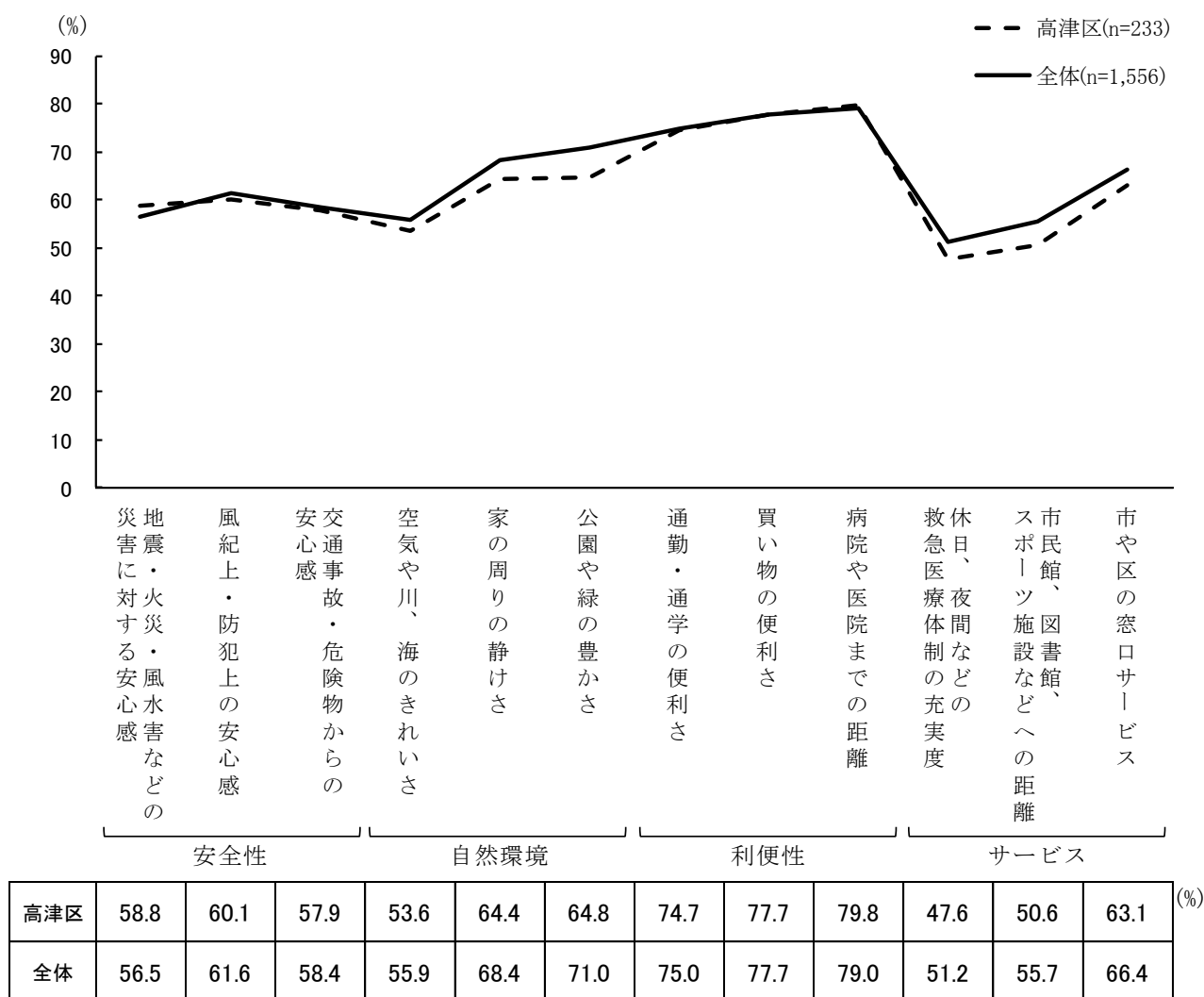


	安全性			自然環境			利便性			サービス			(%)
中原区	45.8	67.2	58.7	55.7	64.6	71.6	83.4	84.9	88.6	58.3	72.0	66.1	
全体	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4	

高津区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』『サービス』の項目はいずれも市全体の満足度を下回っており、「公園や緑の豊かさ」では6.2ポイント、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」で5.1ポイント下回った。

『安全性』と『利便性』では特に目立った点は見られなかった。

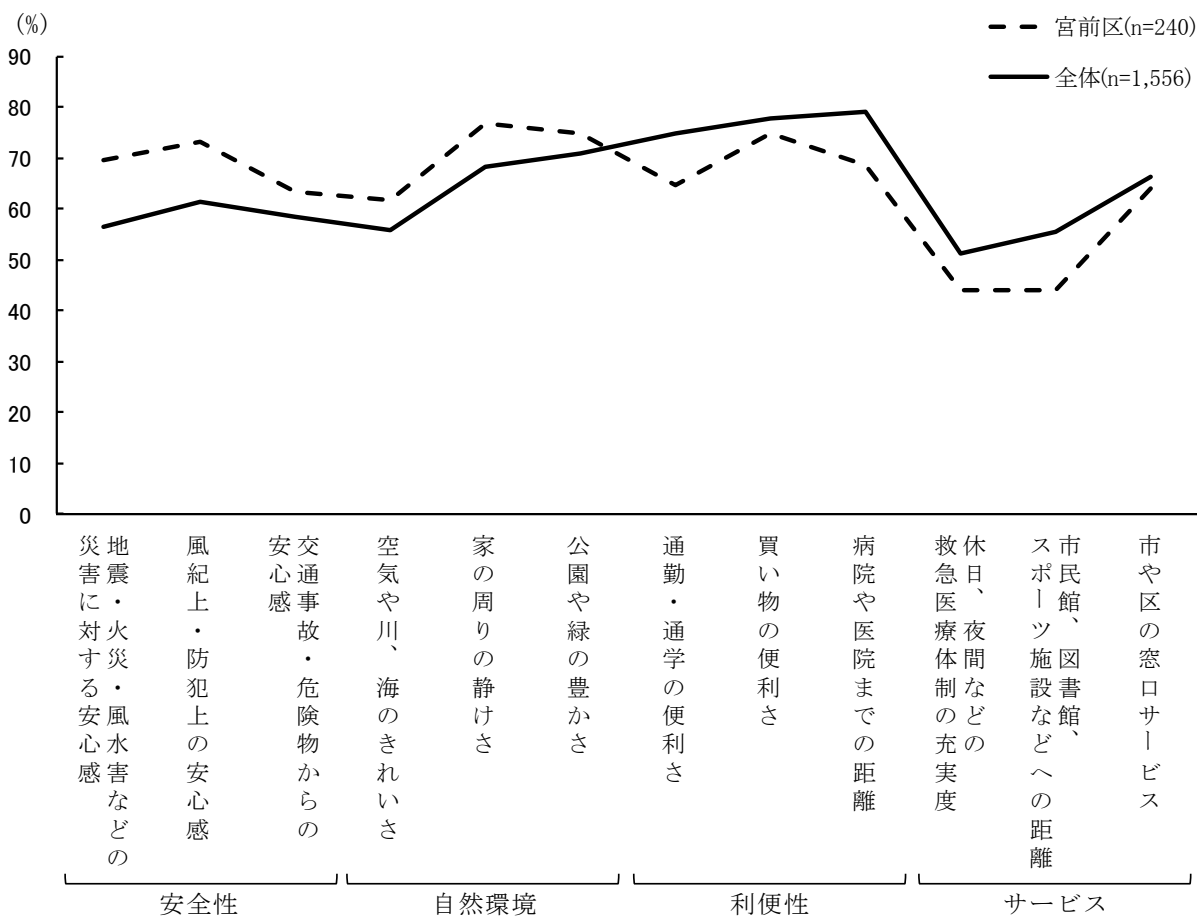
【図表 86】生活環境の満足度（【満足】回答者、高津区）



宮前区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回っており、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」は13.1ポイント、「風紀上・防犯上の安心感」は11.7ポイント上回った。

一方、『利便性』『サービス』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」では11.5ポイント、「通勤・通学の便利さ」と「病院や医院までの距離」では10ポイント程度下回った。

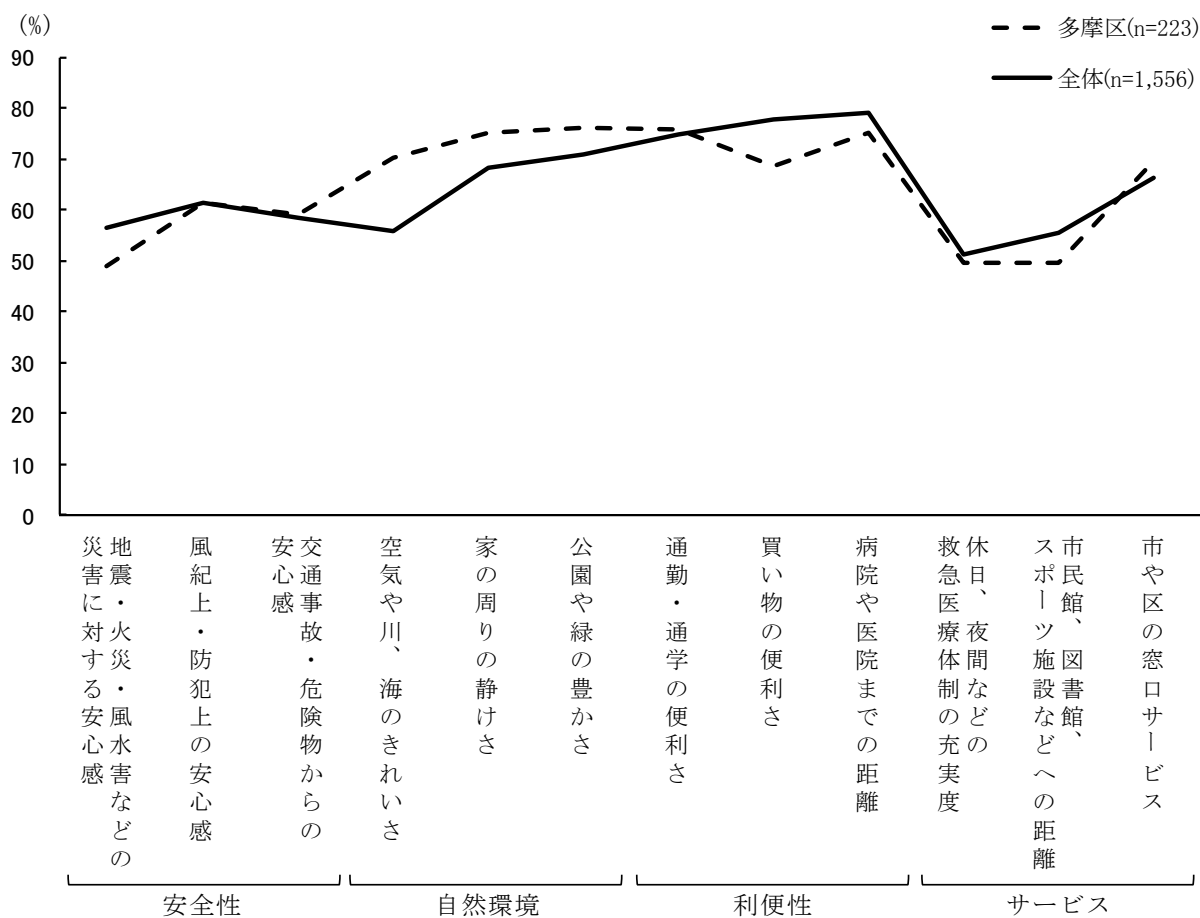
【図表 87】生活環境の満足度（【満足】回答者、宮前区）



	安全性			自然環境			利便性			サービス		
宮前区	69.6	73.3	63.3	61.7	76.7	75.0	64.6	75.0	68.8	44.2	44.2	64.2
全体	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4

多摩区と市全体の満足度を比較すると、『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回り、「空気や川、海のきれいさ」では14.5ポイント、「家の周りの静けさ」では6.9ポイント上回った。一方、『利便性』では「買い物の便利さ」が9.1ポイント、『安全性』では「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が7.6ポイント、『サービス』では「市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離」が5.9ポイント市全体の満足度を下回った。

【図表 88】生活環境の満足度（【満足】回答者、多摩区）

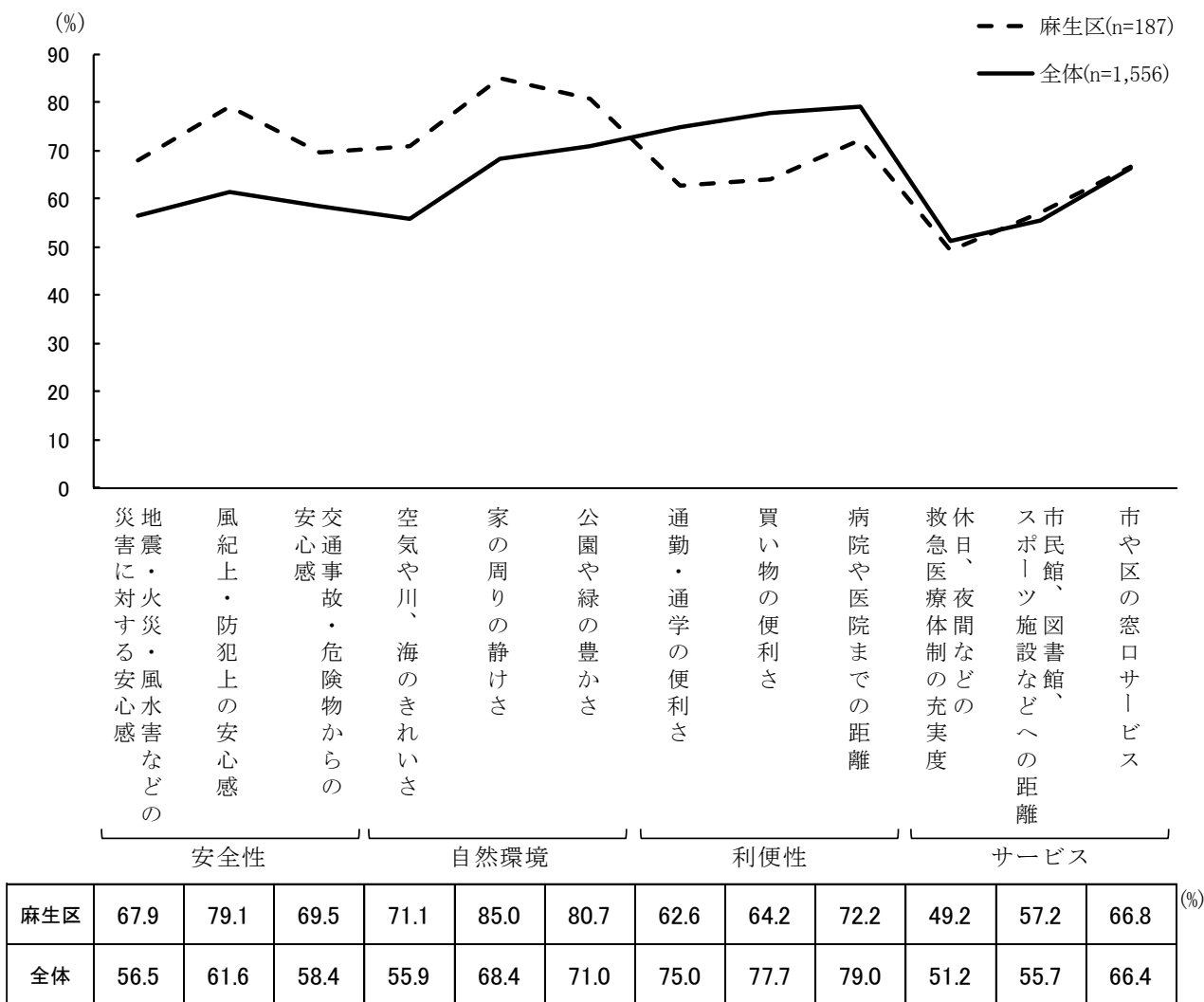


	安全性			自然環境			利便性			サービス		
多摩区	48.9	61.4	59.2	70.4	75.3	76.2	75.8	68.6	75.3	49.8	49.8	69.5
全体	56.5	61.6	58.4	55.9	68.4	71.0	75.0	77.7	79.0	51.2	55.7	66.4

麻生区と市全体の満足度を比較すると、『安全性』『自然環境』ではどの項目も市全体の満足度を上回り、「風紀上・防犯上の安心感」では17.5ポイント、「家の周りの静けさ」では16.6ポイント、「空気や川、海のきれいさ」では15.2ポイント、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」では11.4ポイント上回った。

一方、『利便性』ではどの項目も市全体の満足度を下回っており、「買い物の便利さ」は13.5ポイント、「通勤・通学の便利さ」では12.4ポイント下回った。『サービス』では特に目立った点は見られなかった。

【図表 89】生活環境の満足度（【満足】回答者、麻生区）

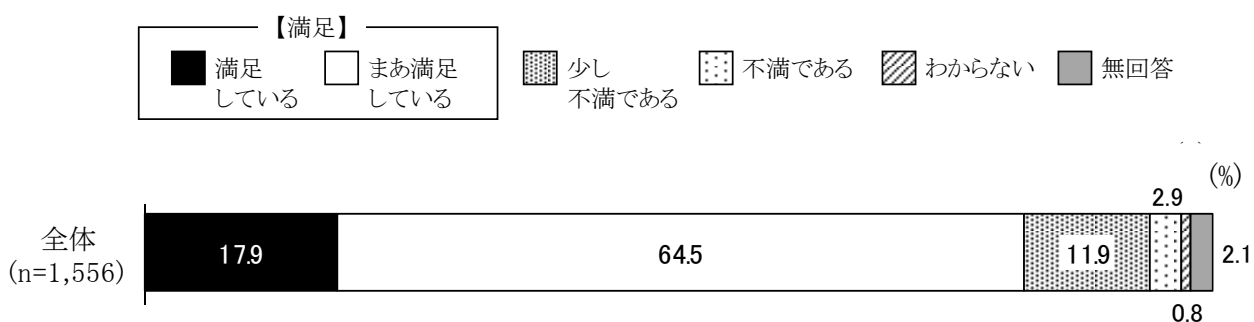


(2) 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

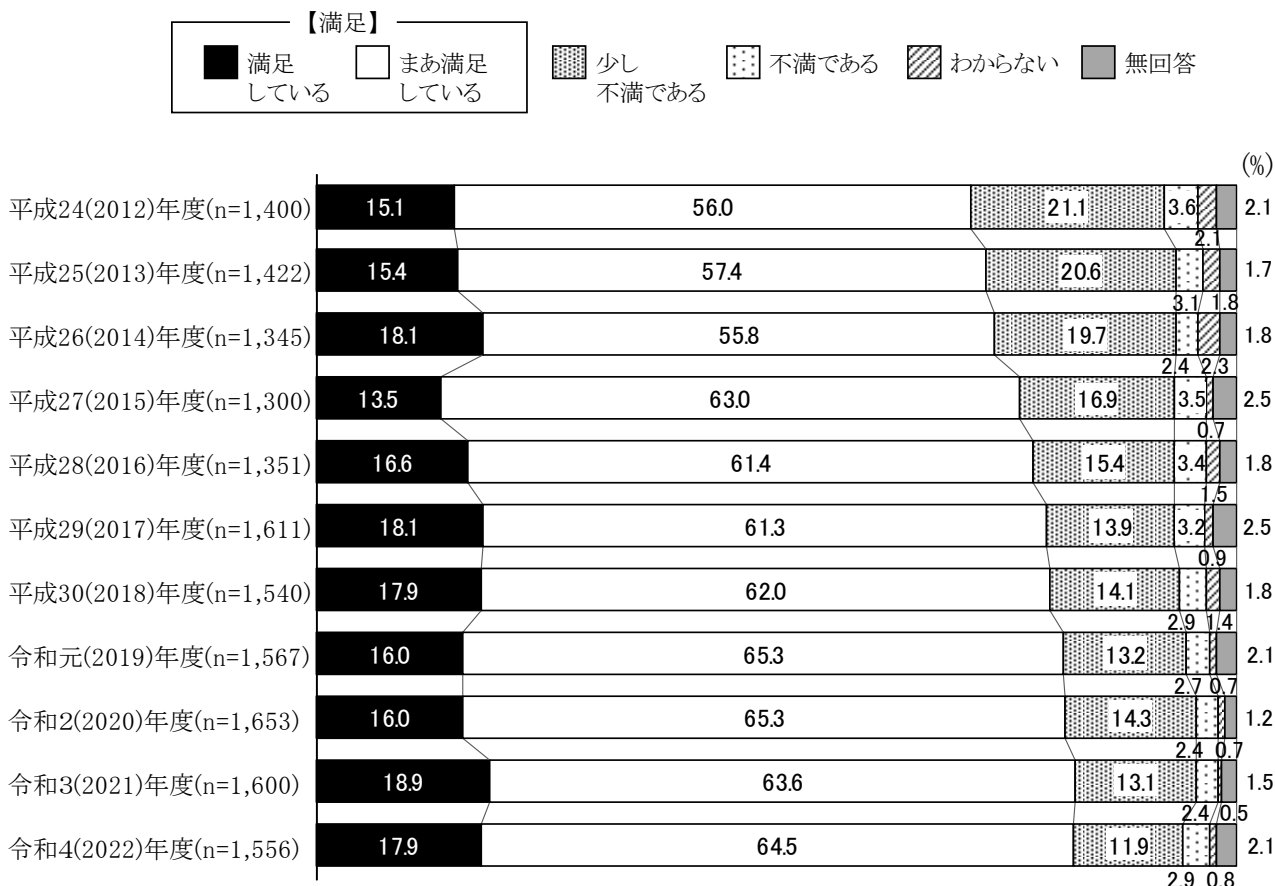
「満足している」(17.9%)と「まあ満足している」(64.5%)を合計した【満足】は82.4%であった。

【図表 90】総合的な生活環境の満足度



【満足】は、5年前（平成29年度）と比較して3.0ポイント、10年前（平成24年度）と比較して11.3ポイントの増加となっているが、令和元（2019）年度以降はほぼ横ばいで推移している。

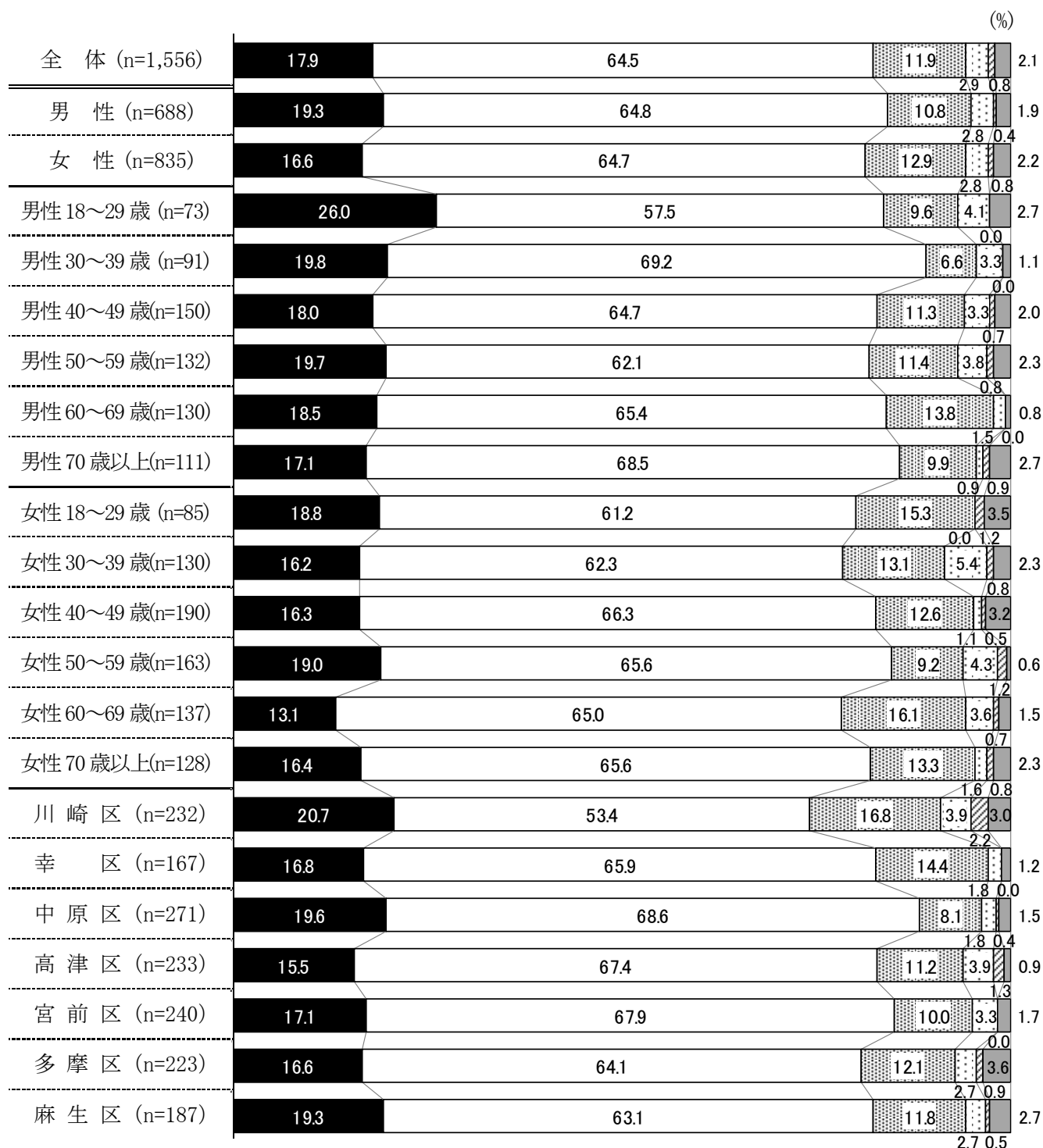
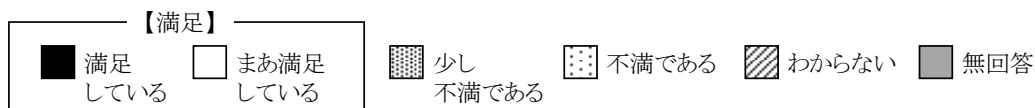
【図表 91】総合的な生活環境の満足度（経年比較）



性／年齢別に見ると、【満足】の割合は、男性ではすべての年齢層で8割を超え、女性も最も少ない60～68歳でも78.1%となっている。

居住区別では、【満足】の割合は中原区(88.2%)が最も多く、川崎区(74.1%)が最も少ない。

【図表 92】総合的な生活環境の満足度(性／年齢別、居住区別)



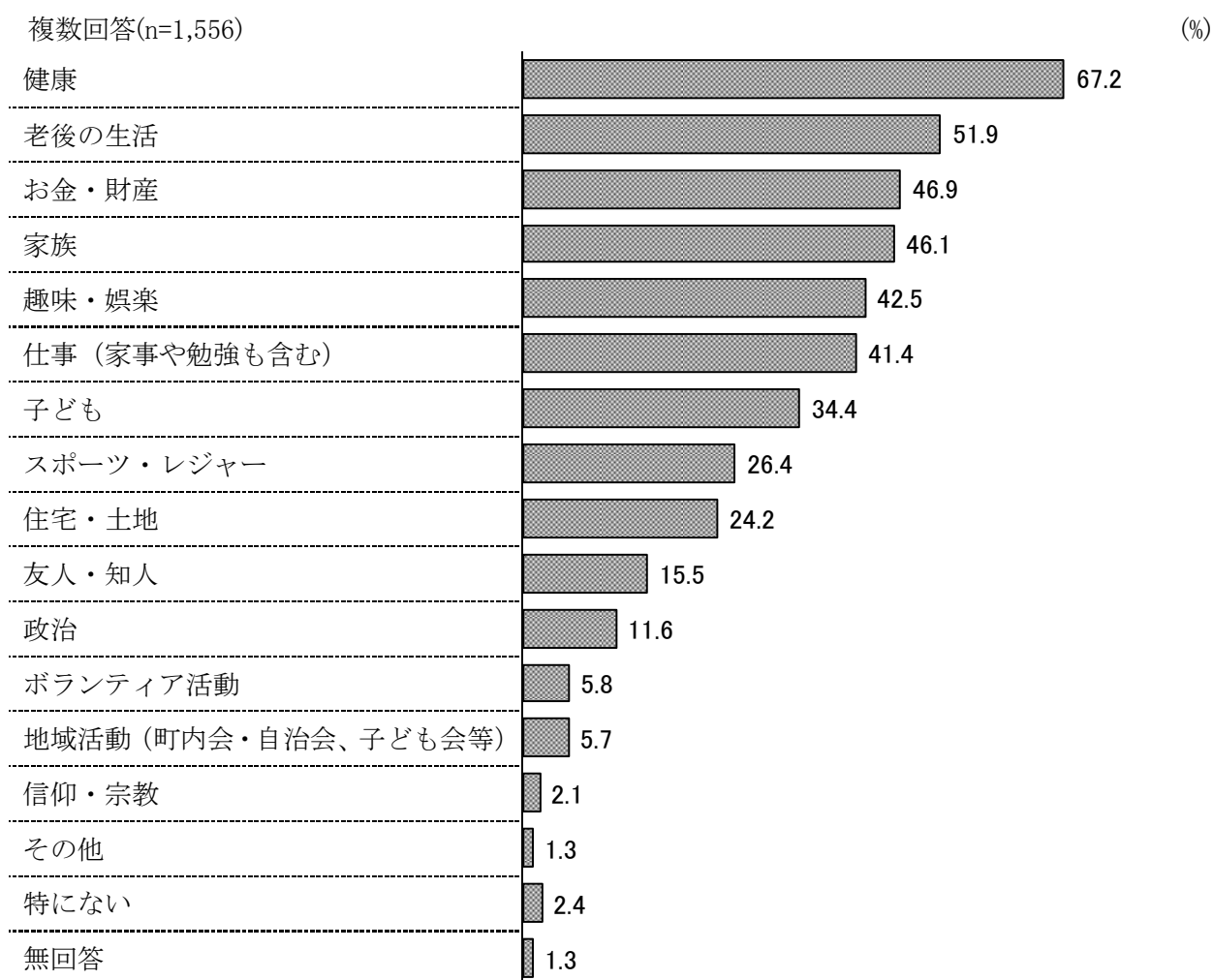
2.3 関心ごとと行動範囲について

(1) 関心を持っていること

問7. あなたが、現在特に関心をお持ちのことは何ですか。

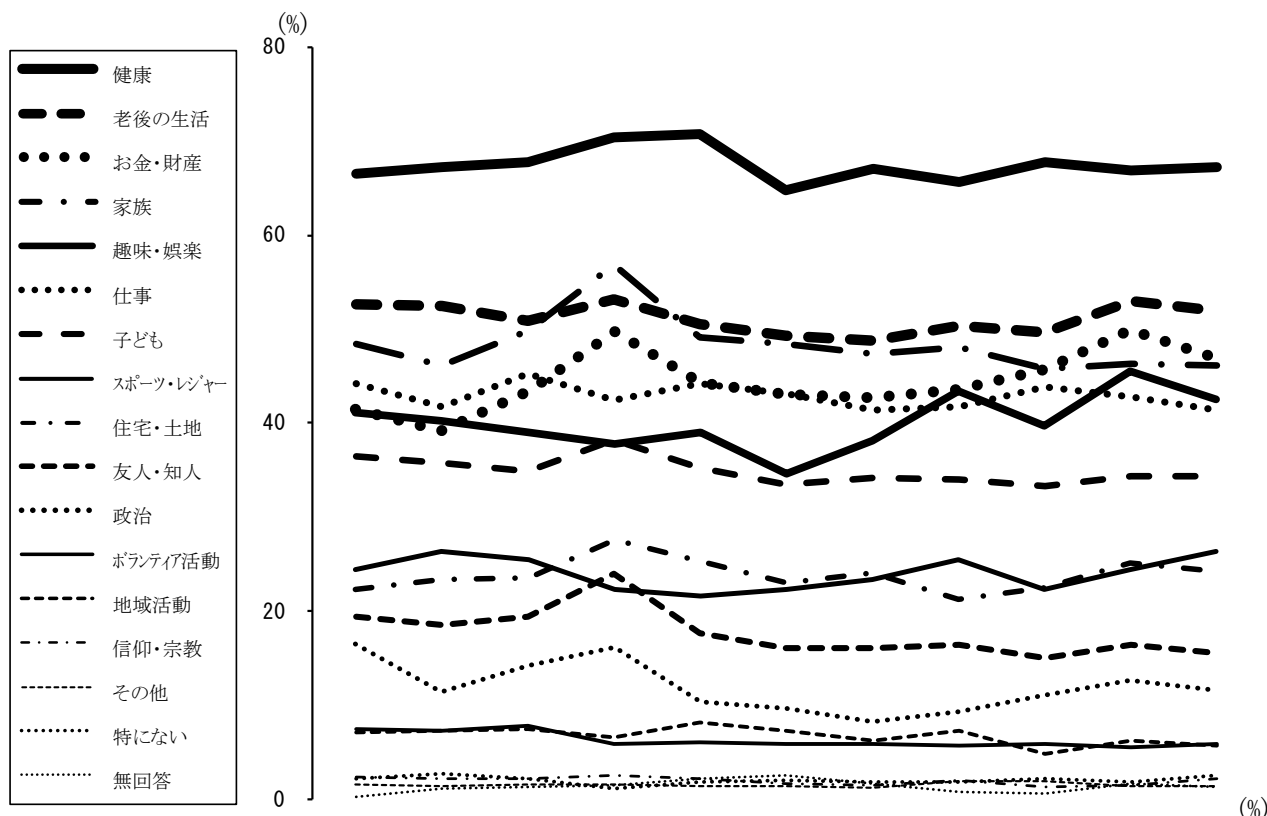
現在特に関心を持っていることを選んでもらったところ、「健康」(67.2%)が最も多く、次いで「老後の生活」(51.9%)、「お金・財産」(46.9%)と続いている。

【図表 93】関心を持っていること（複数回答）



平成24(2012)年度からの推移を見ると、「健康」が最も多く、「老後の生活」と「家族」を加えた3項目が令和2年度までの関心度の上位3項目であったが、前回(令和3年度)より「お金・財産」が「家族」を上回り、第4位から第3位へと順位が入れ替わっている。

【図表 94】 関心を持っていること(複数回答)
(経年比較)



	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年
健康	66.5	67.2	67.8	70.4	70.8	64.8	67.1	65.7	67.8	66.9	67.2
老後の生活	52.6	52.4	50.9	53.1	50.5	49.2	48.8	50.3	49.7	52.9	51.9
お金・財産	41.4	39.2	43.3	49.8	44.3	43.1	42.6	43.5	45.7	49.9	46.9
家族	48.4	46.2	49.8	56.9	49.1	48.4	47.3	48.0	45.8	46.3	46.1
趣味・娯楽	41.1	40.3	39.0	37.7	39.0	34.6	38.1	43.4	39.7	45.5	42.5
仕事	44.1	41.8	45.3	42.5	44.1	43.2	41.3	41.7	43.9	42.7	41.4
子ども	36.5	35.8	34.9	38.2	35.2	33.5	34.2	34.0	33.2	34.3	34.4
スポーツ・レジャー	24.4	26.4	25.5	22.2	21.5	22.2	23.4	25.5	22.2	24.4	26.4
住宅・土地	22.2	23.3	23.5	27.5	25.2	22.9	24.0	21.3	22.5	25.1	24.2
友人・知人	19.4	18.5	19.3	24.0	17.6	16.0	16.0	16.3	14.9	16.3	15.5
政治	16.4	11.4	14.1	16.2	10.3	9.6	8.2	9.3	11.1	12.6	11.6
ボランティア活動	7.4	7.3	7.8	5.9	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9	5.5	5.8
地域活動	7.1	7.2	7.4	6.6	8.1	7.3	6.2	7.2	4.8	6.2	5.7
信仰・宗教	2.3	2.2	2.2	2.5	2.1	1.6	1.4	1.9	1.3	1.4	2.1
その他	1.6	1.3	1.5	1.5	1.3	1.4	1.2	1.9	1.8	1.4	1.3
特にない	2.1	2.6	2.1	1.0	1.7	1.9	1.8	1.8	2.1	1.8	2.4
無回答	0.2	1.1	1.3	1.4	2.1	2.4	1.6	0.8	0.6	1.6	1.3

性／年齢別に見ると、男性は60歳代以上、女性は50歳代以上で「健康」が7割を超え、「老後の生活」は女性の60歳代以上で7割を超えている。また、「趣味・娯楽」は男女ともに18～29歳で6割を超えて最も多く、30～39歳では男女ともに「子ども」が6割程度で最も多い。

【図表 95】 関心を持っていること（性／年齢別）

（%）

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(688)	(73)	(91)	(150)	(132)	(130)	(111)
健康	67.2	62.8	43.8	49.5	59.3	62.1	72.3	80.2
老後の生活	51.9	47.5	9.6	24.2	38.0	56.1	68.5	69.4
お金・財産	46.9	44.9	56.2	56.0	57.3	47.0	33.1	23.4
家族	46.1	42.9	19.2	57.1	57.3	37.9	35.4	42.3
趣味・娯楽	42.5	42.3	63.0	47.3	36.7	43.2	41.5	32.4
仕事(家事や勉強も含む)	41.4	38.5	52.1	44.0	58.0	40.9	25.4	11.7
子ども	34.4	30.1	15.1	59.3	47.3	28.0	11.5	17.1
スポーツ・レジャー	26.4	29.9	41.1	23.1	32.0	33.3	29.2	22.5
住宅・土地	24.2	22.2	23.3	34.1	26.0	24.2	16.9	10.8
友人・知人	15.5	10.6	20.5	16.5	9.3	3.8	8.5	11.7
政治	11.6	12.6	11.0	8.8	12.0	7.6	13.8	21.6
ボランティア活動	5.8	4.4	2.7	3.3	1.3	4.5	6.2	8.1
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	5.7	5.4	1.4	6.6	4.7	2.3	6.2	10.8
信仰・宗教	2.1	1.5	0.0	1.1	1.3	1.5	2.3	1.8
その他	1.3	0.9	1.4	0.0	0.0	0.8	0.8	2.7
特にない	2.4	3.3	9.6	2.2	3.3	3.8	0.8	2.7
無回答	1.3	1.5	2.7	3.3	0.0	0.8	0.0	3.6

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(835)	(85)	(130)	(190)	(163)	(137)	(128)
健康	67.2	70.8	49.4	56.2	68.4	73.6	86.1	82.8
老後の生活	51.9	55.2	21.2	35.4	44.2	67.5	78.1	74.2
お金・財産	46.9	48.5	56.5	63.8	52.1	50.9	40.1	28.1
家族	46.1	49.2	34.1	55.4	57.9	51.5	43.8	43.0
趣味・娯楽	42.5	42.5	60.0	43.1	42.1	39.9	40.9	36.7
仕事(家事や勉強も含む)	41.4	44.0	58.8	61.5	57.4	46.6	28.5	9.4
子ども	34.4	37.5	21.2	64.6	62.6	27.0	19.7	15.6
スポーツ・レジャー	26.4	23.5	17.6	26.9	27.4	24.5	20.4	20.3
住宅・土地	24.2	26.1	28.2	45.4	24.2	25.8	19.7	15.6
友人・知人	15.5	19.0	24.7	14.6	20.0	19.6	18.2	18.8
政治	11.6	10.4	5.9	10.8	6.3	9.2	13.1	18.0
ボランティア活動	5.8	7.1	4.7	6.2	4.2	8.0	11.7	7.8
地域活動(町内会・自治会、子ども会等)	5.7	5.7	3.5	10.0	7.4	3.1	5.8	3.9
信仰・宗教	2.1	2.4	1.2	0.8	1.6	3.1	4.4	3.1
その他	1.3	1.6	1.2	0.0	3.2	1.8	1.5	0.8
特にない	2.4	1.7	3.5	0.8	1.1	3.1	0.7	1.6
無回答	1.3	1.3	0.0	2.3	3.2	0.6	0.7	0.0

(2) 行動範囲

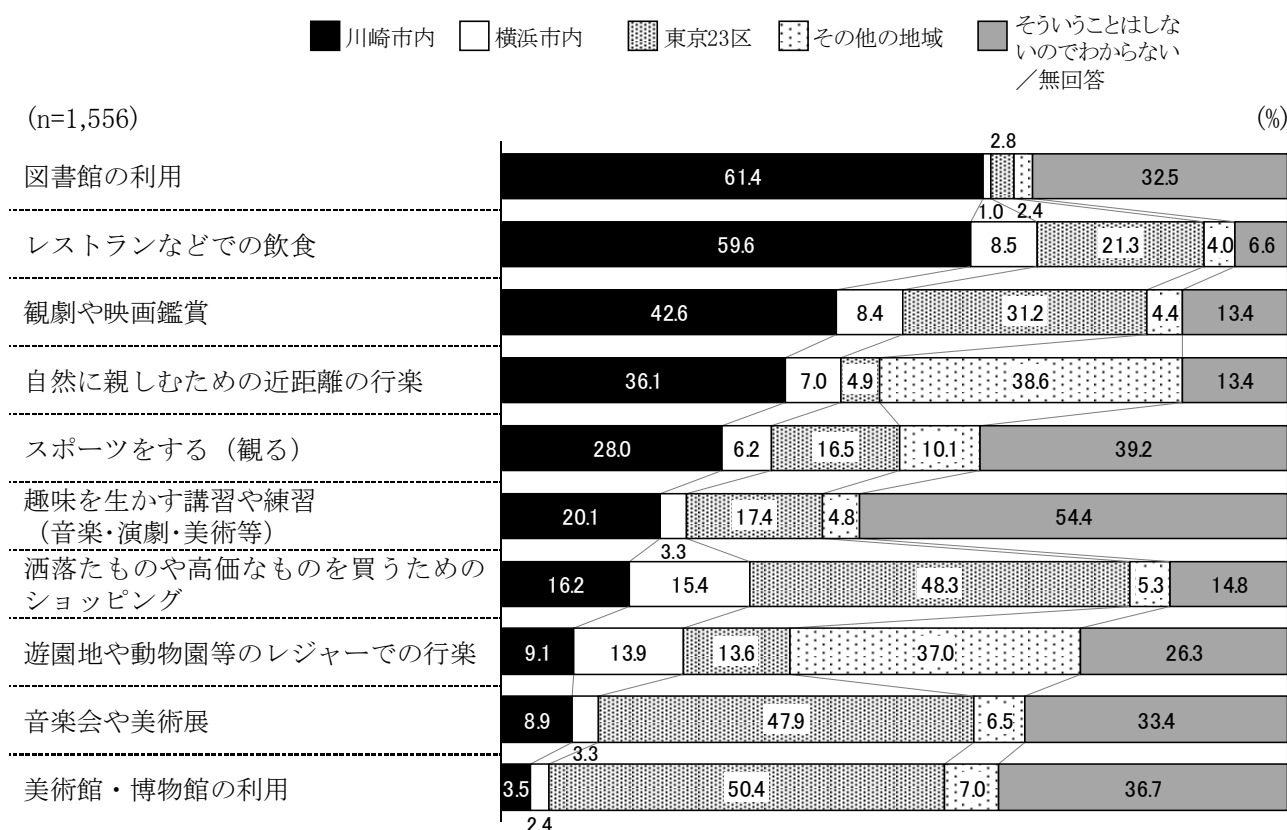
問8. あなたは、行楽や文化施設の利用・買い物などをされる場合、主にどこに行かれますか。それぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。

川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も多いのは「図書館の利用」(61.4%)で、次いで「レストランなどでの飲食」(59.6%)、「観劇や映画鑑賞」(42.6%)と続いている。

『川崎市内』以外で利用率が最も多いのは、『東京23区』の「美術館・博物館の利用」(50.4%)であり、次いで「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(48.3%)、「音楽会や美術展」(47.9%)と続いている。

上記以外については、「自然に親しむための近距離の行楽」と「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」では『その他の地域』がそれぞれ38.6%、37.0%で最も多く、「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」と「スポーツをする(観る)」では『そういうことはしないのでわからない/無回答』がそれぞれ54.4%、39.2%で最も多かった。

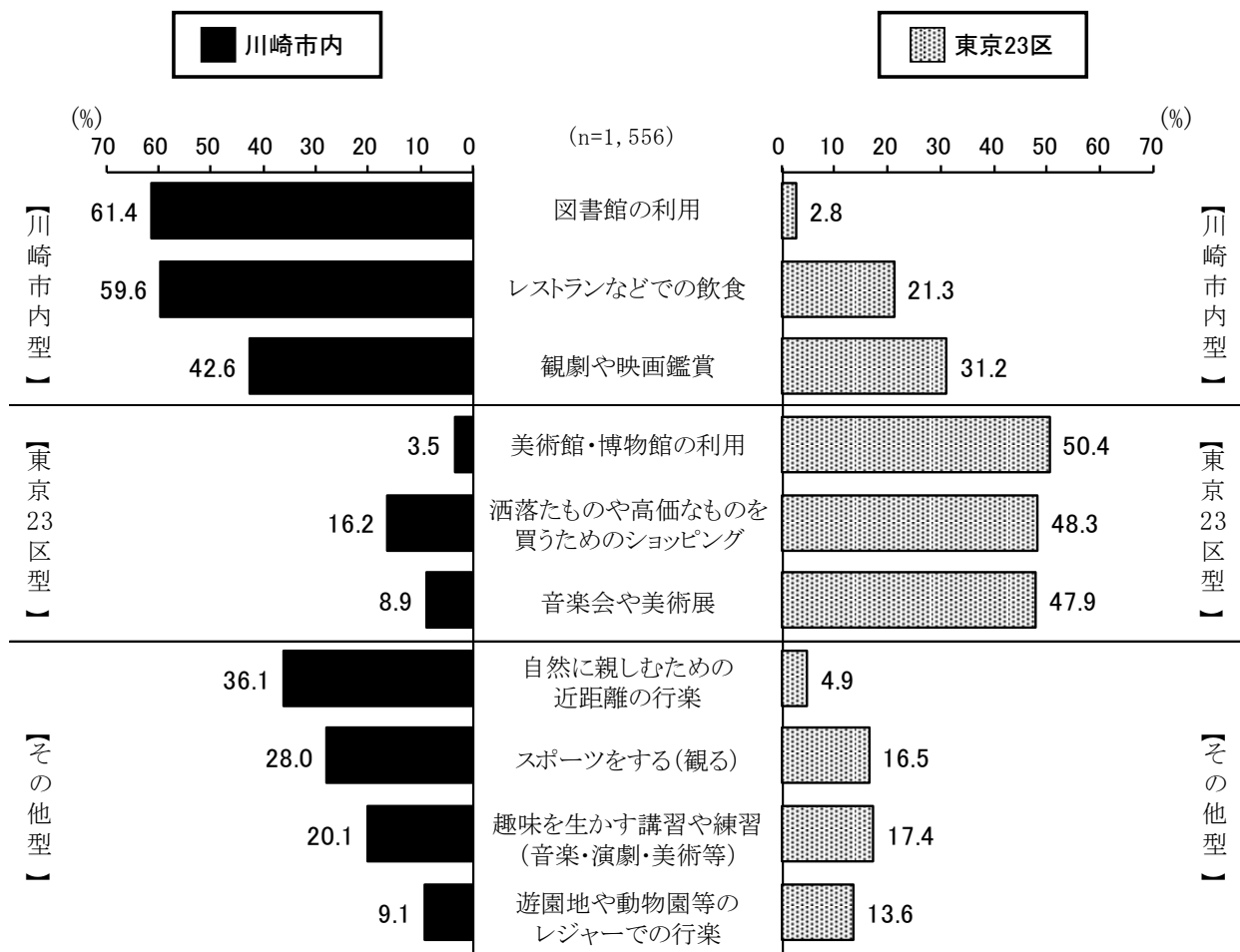
【図表 96】行動範囲



109ページの【図表 96】をもとに、川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が多いもの、『東京23区』が多いもの、この2つ以外のエリアが多いものの3種類で整理すると次のようになる。

- 【川崎市内型】 図書館の利用
レストランなどでの飲食
観劇や映画鑑賞
- 【東京23区型】 美術館・博物館の利用
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング
音楽会や美術展
- 【その他型】 自然に親しむための近距離の行楽
スポーツをする（観る）
趣味を生かす講習や練習（音楽・演劇・美術等）
遊園地や動物園等のレジャーでの行楽

【図表 97】 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』との比較）

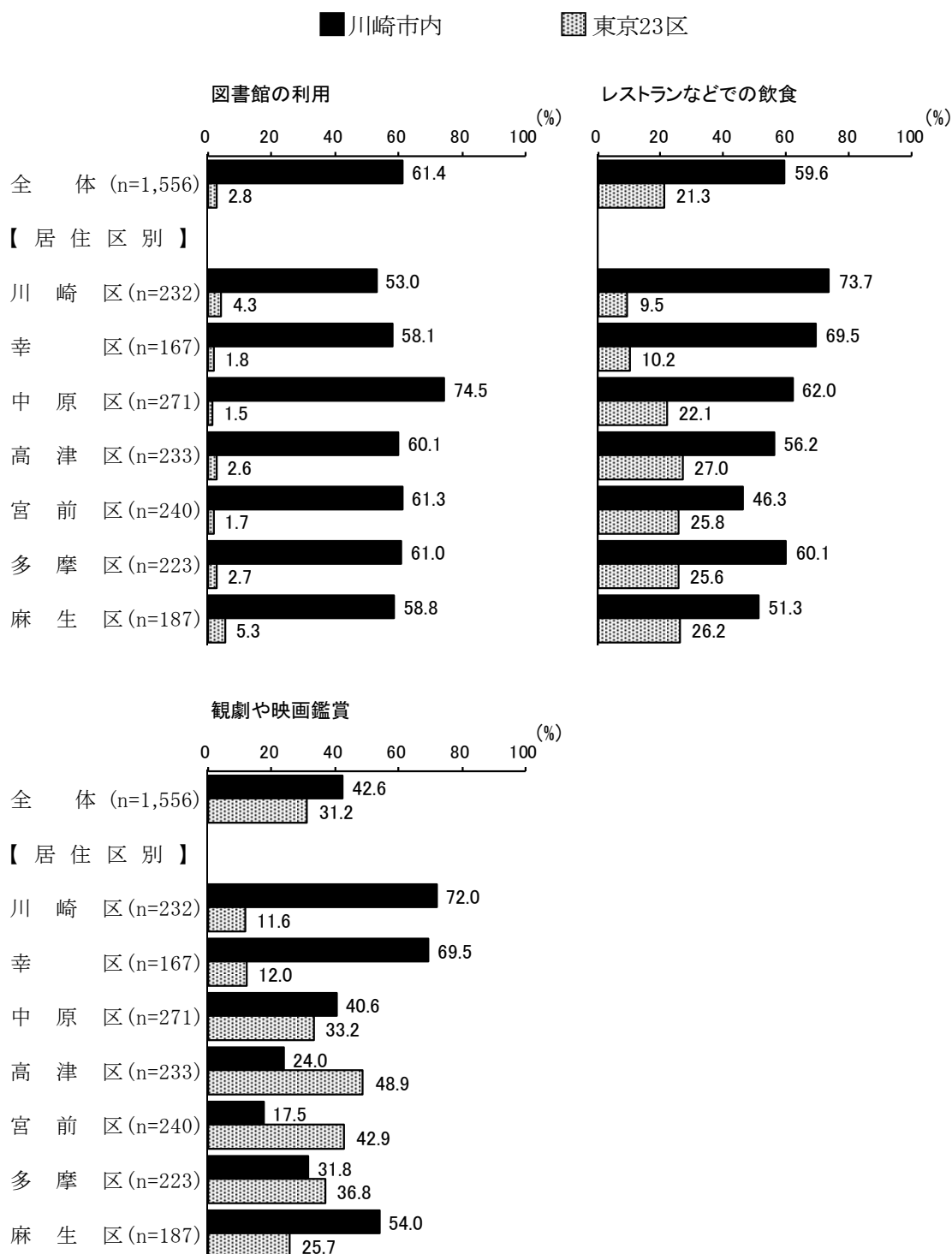


【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「図書館の利用」は『川崎市内』での利用率は中原区（74.5%）が最も高く、『東京23区』での利用率は最も高い麻生区でも5.3%に留まった。

「レストランなどでの飲食」は『川崎市内』での利用率は川崎区（73.7%）が最も高く、『東京23区』での利用率は高津区（27.0%）、麻生区（26.2%）、宮前区（25.8%）、多摩区（25.6%）で25%を超えている。

「観劇や映画鑑賞」は『川崎市内』での利用率は川崎区（72.0%）が最も高く、高津区、宮前区、多摩区では、『川崎市内』よりも『東京23区』の利用率の方が高かった。

【図表 98】行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別【川崎市内型】

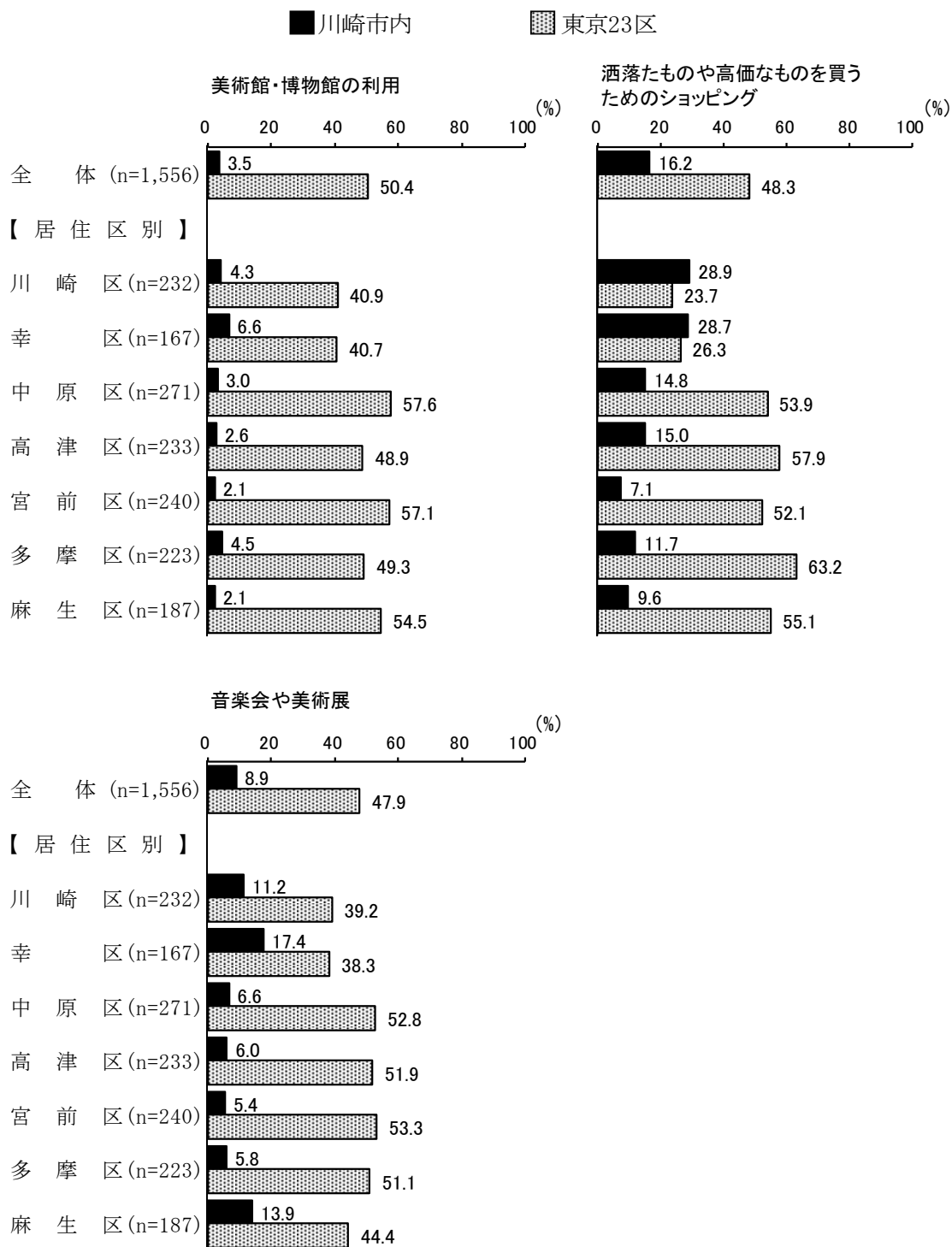


【東京23区型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」は『東京23区』での利用率は中原区（57.6%）が最も高く、『川崎市内』での利用率はいずれの居住区においても1割未満であった。

「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は『東京23区』での利用率は多摩区（63.2%）が最も高く、『川崎市内』での利用率は川崎区（28.9%）と幸区（28.7%）で比較的高くなっている。

「音楽会や美術展」は、『東京23区』での利用率は宮前区（53.3%）が最も高く、『川崎市内』での利用率は幸区（17.4%）が最も高かった。

【図表 99】 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』）との比較、居住区別）【東京23区型】



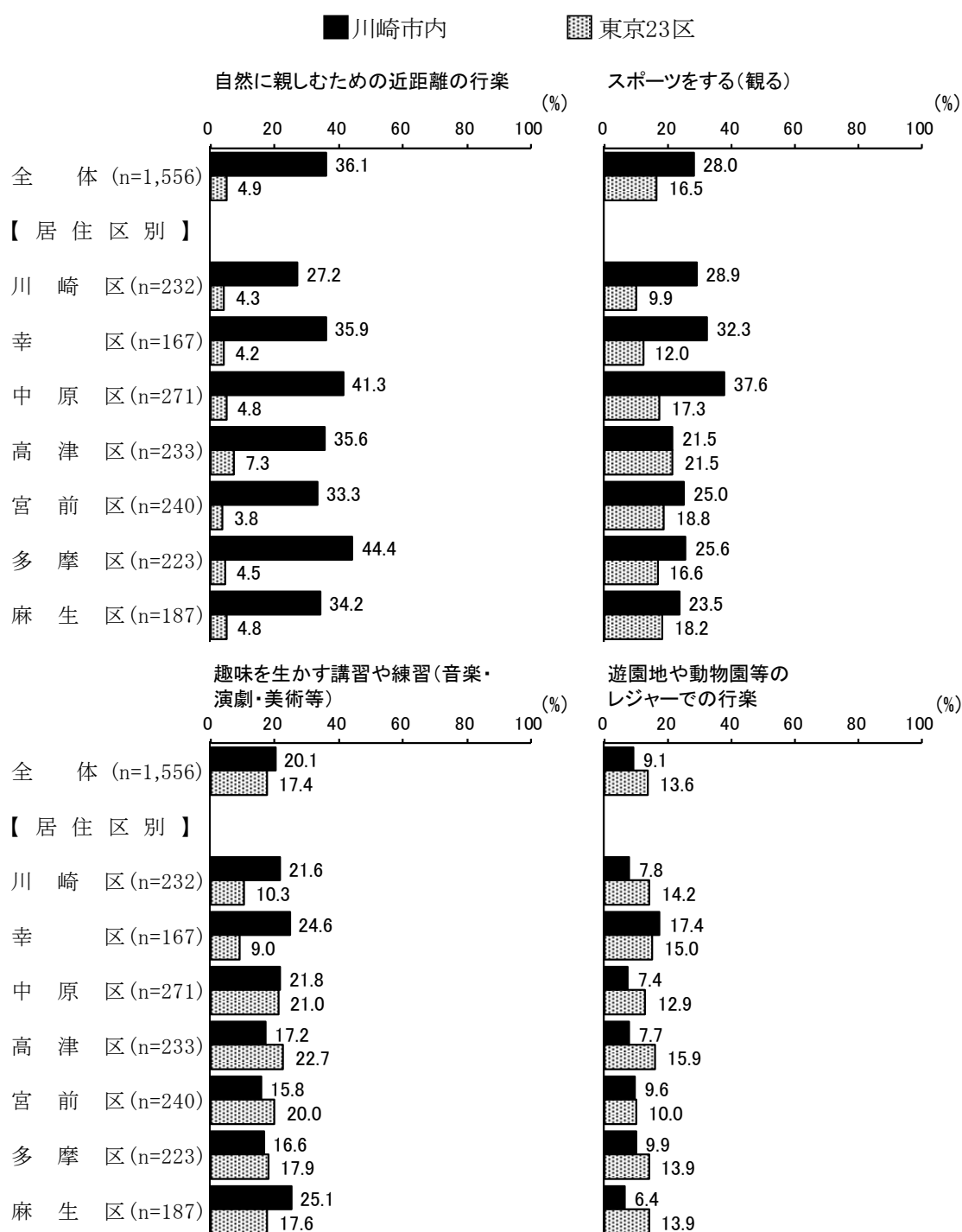
【川崎市内型】と【東京23区型】に分類されない『その他の地域』もしくは『そういうことはしないのでわからない／無回答』の回答率が高い【その他型】4項目を居住区別で比較すると、「自然に親しむための近距離の行楽」は『川崎市内』での利用率は多摩区(44.4%)が最も高く、『東京23区』での利用率は高津区(7.3%)が最も高かった。

「スポーツをする(観る)」は『川崎市内』での利用率は中原区(37.6%)が最も高く、『東京23区』での利用率は高津区(21.5%)が最も高かった。

「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は『川崎市内』での利用率は麻生区(25.1%)が最も高く、『東京23区』での利用率は高津区(22.7%)が最も高かった。

「遊園地や動物園等のレジャーでの行楽」は『川崎市内』での利用率は幸区(17.4%)で最も高く、その他の居住区は1割未満であった。『東京23区』での利用率は高津区(15.9%)が最も高かった。

【図表 100】行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』)との比較、居住区別【その他型】



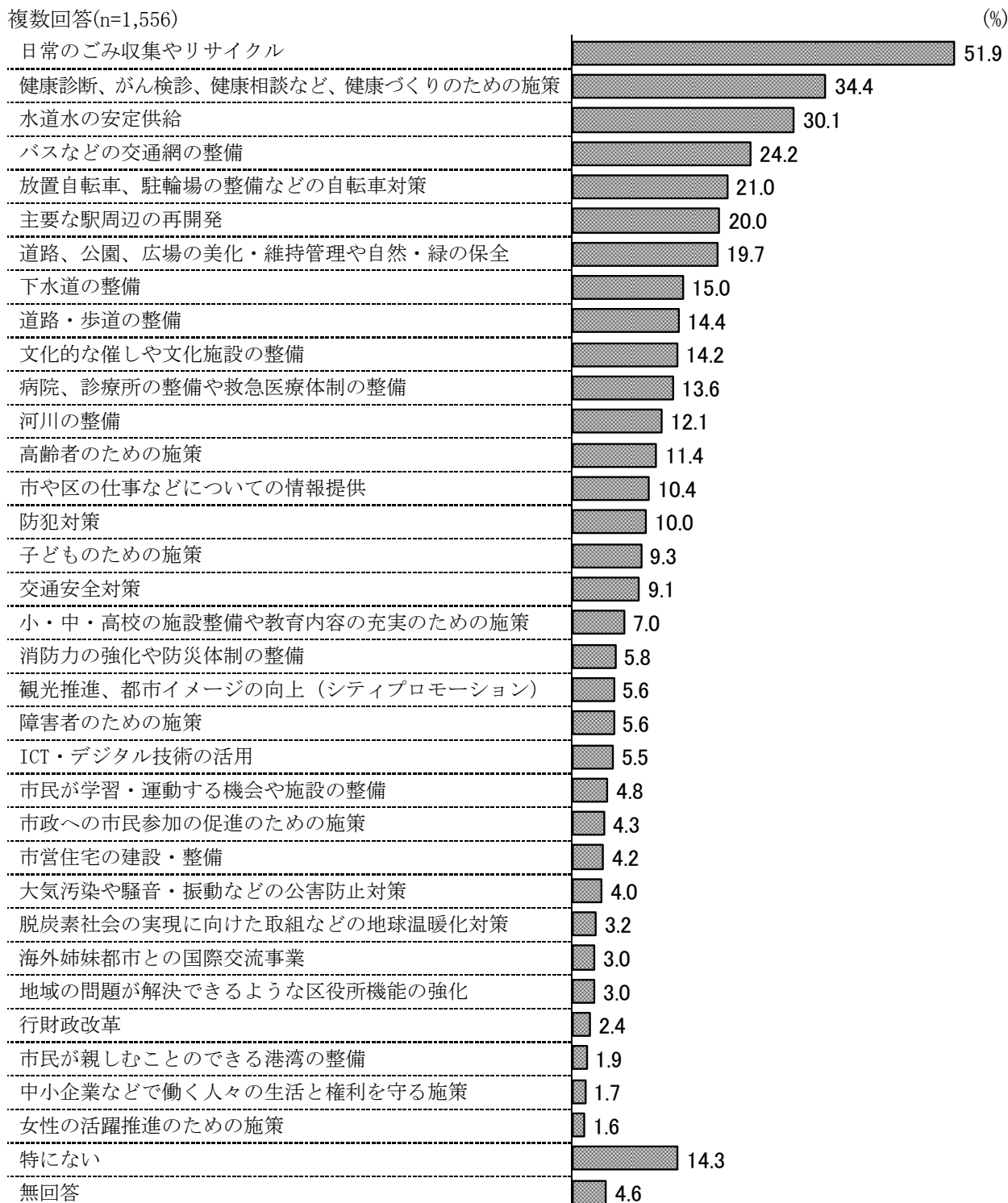
2.4 市政に対する評価と要望について

(1) 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

「日常のごみ収集やリサイクル」(51.9%)が最も多く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(34.4%)、「水道水の安定供給」(30.1%)と続いている。

【図表 101】 市政の仕事でよくやっていると思うこと (複数回答)



上位3項目について、10年前(平成24年度)、5年前(平成29年度)からの推移を10年前→5年前→今回の順で見ると、「日常のごみ収集やリサイクル」はすべて1位で、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は4位→5位→2位となっている。「水道水の安定供給」は2位→2位→3位と、順位の前後は多少あるものの傾向に大きな違いは見られない。

【図表 102】 市政の仕事でよくやっていると思うこと (複数回答)
(経年比較)

	令和4年度 (n=1,556)	平成29年度 (n=1,611)	平成24年度 (n=1,400)
日常のごみ収集やリサイクル	51.9	49.5	50.6
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	34.4	28.9	26.4
水道水の安定供給	30.1	35.9	35.2
バスなどの交通網の整備	24.2	30.5	27.4
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	21.0	27.9	24.1
主要な駅周辺の再開発	20.0	30.3	25.1
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	19.7	26.0	23.9
下水道の整備	15.0	22.2	21.5
道路・歩道の整備	14.4	18.8	16.3
文化的な催しや文化施設の整備	14.2	26.7	19.9
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	13.6	18.7	18.3
河川の整備	12.1	18.7	16.9
高齢者のための施策	11.4	13.0	10.1
市や区の仕事などについての情報提供	10.4	20.7	18.5
防犯対策	10.0	15.2	12.3
子どものための施策	9.3	16.5	11.2
交通安全対策	9.1	16.8	15.2
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	7.0	13.4	9.1
消防力の強化や防災体制の整備	5.8	19.7	16.6
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	5.6	16.5	11.9
障害者のための施策	5.6	10.7	9.1
ICT・デジタル技術の活用	5.5	-	-
市民が学習・運動する機会や施設の整備	4.8	14.6	13.4
市政への市民参加の促進のための施策	4.3	13.2	12.3
市営住宅の建設・整備	4.2	13.0	12.1
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	4.0	13.7	9.7
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	3.2	-	-
海外姉妹都市との国際交流事業	3.0	12.7	13.5
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	3.0	10.4	6.4
行財政改革	2.4	11.3	7.6
市民が親しむことのできる港湾の整備	1.9	10.6	10.6
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	1.7	6.8	5.5
女性の活躍推進のための施策	1.6	7.8	6.3
特になし	14.3	1.7	3.0
わからない	-	7.9	6.9
無回答	4.6	12.1	11.8

※「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」:平成24年度では「道路、公園、広場の美化・清掃」「公園の整備や維持管理」「自然や緑の保全」で実施しており、数値は3項目の平均値

※「文化的な催しや文化施設の整備」:平成24年度では「映画祭、国際会議など文化的な催しや活動」と「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」で実施しており、数値は2項目の平均値

※「観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)」:平成24年度では「観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)」で実施

※「市民が学習・運動する機会や施設の整備」:平成24年度では「市民が学習する機会や施設の整備」と「スポーツ・レクリエーションの施設整備」で実施しており、数値は2項目の平均値

※「女性の活躍推進のための施策」:平成24年度では「女性の地位向上のための施策」で実施

※「ICT・デジタル技術の活用」「脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策」:令和4年度から項目を追加設定

性／年齢別に見ると、「日常のごみ収集やリサイクル」は男女ともに概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

【図表 103】 市政の仕事でよくやっていると思うこと（複数回答）
（性／年齢別、居住区別）

	(%)							
	全体	男性						
	計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
ベース:全対象者	(1,556)	(688)	(73)	(91)	(150)	(132)	(130)	(111)
日常のごみ収集やリサイクル	51.9	50.4	27.4	30.8	48.0	57.6	56.9	68.5
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	34.4	29.1	11.0	8.8	26.7	28.8	40.0	48.6
水道水の安定供給	30.1	31.0	15.1	22.0	32.7	29.5	29.2	50.5
バスなどの交通網の整備	24.2	26.5	19.2	20.9	26.7	30.3	26.2	31.5
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	21.0	18.2	15.1	13.2	16.7	19.7	18.5	24.3
主要な駅周辺の再開発	20.0	21.5	31.5	35.2	17.3	18.9	16.2	18.9
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	19.7	19.3	20.5	18.7	18.0	14.4	18.5	27.9
下水道の整備	15.0	15.4	11.0	4.4	13.3	12.9	19.2	28.8
道路・歩道の整備	14.4	14.4	20.5	8.8	14.7	14.4	13.1	16.2
文化的な催しや文化施設の整備	14.2	15.4	13.7	17.6	11.3	14.4	20.8	15.3
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	13.6	13.7	6.8	9.9	10.7	14.4	16.9	20.7
河川の整備	12.1	13.1	16.4	13.2	16.0	6.8	10.0	18.0
高齢者のための施策	11.4	11.5	11.0	2.2	10.7	7.6	12.3	24.3
市や区の仕事などについての情報提供	10.4	10.5	8.2	4.4	9.3	8.3	9.2	22.5
防犯対策	10.0	11.6	8.2	7.7	10.7	9.8	10.0	22.5
子どものための施策	9.3	8.4	4.1	19.8	8.0	7.6	6.2	6.3
交通安全対策	9.1	9.7	9.6	5.5	8.0	6.8	8.5	20.7
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	7.0	6.1	6.8	6.6	8.7	5.3	4.6	4.5
消防力の強化や防災体制の整備	5.8	6.7	5.5	5.5	4.0	2.3	8.5	15.3
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	5.6	5.1	6.8	7.7	2.7	5.3	6.2	3.6
障害者のための施策	5.6	4.9	2.7	1.1	4.7	1.5	6.9	11.7
ICT・デジタル技術の活用	5.5	6.4	6.8	7.7	9.3	4.5	3.8	6.3
市民が学習・運動する機会や施設の整備	4.8	4.2	2.7	5.5	5.3	2.3	3.1	6.3
市政への市民参加の促進のための施策	4.3	4.2	1.4	2.2	2.7	4.5	3.8	9.9
市営住宅の建設・整備	4.2	3.2	4.1	0.0	0.7	6.8	3.8	3.6
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	4.0	4.5	2.7	2.2	1.3	6.1	6.9	7.2
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	3.2	3.8	2.7	2.2	3.3	3.0	3.8	7.2
海外姉妹都市との国際交流事業	3.0	2.8	4.1	2.2	1.3	4.5	0.8	4.5
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	3.0	3.3	0.0	1.1	2.0	2.3	6.9	6.3
行財政改革	2.4	3.5	4.1	1.1	2.7	3.0	6.2	3.6
市民が親しむことのできる港湾の整備	1.9	1.5	2.7	1.1	0.7	0.8	1.5	2.7
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	1.7	1.9	0.0	0.0	2.0	0.8	3.8	3.6
女性の活躍推進のための施策	1.6	1.6	1.4	1.1	0.7	0.8	1.5	4.5
特にない	14.3	14.2	21.9	14.3	16.7	12.1	15.4	7.2
無回答	4.6	3.3	4.1	3.3	4.0	0.8	3.1	5.4

(%)

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(835)	(85)	(130)	(190)	(163)	(137)	(128)
日常のごみ収集やリサイクル	51.9	53.2	29.4	43.1	41.6	60.1	70.1	69.5
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	34.4	38.7	22.4	23.8	32.6	47.2	48.9	51.6
水道水の安定供給	30.1	28.9	24.7	22.3	23.7	26.4	37.2	39.8
バスなどの交通網の整備	24.2	22.4	21.2	22.3	19.5	21.5	26.3	24.2
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	21.0	23.1	14.1	16.9	21.1	28.2	31.4	22.7
主要な駅周辺の再開発	20.0	18.6	18.8	23.1	17.9	22.1	14.6	14.8
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	19.7	20.0	17.6	17.7	19.5	19.0	22.6	22.7
下水道の整備	15.0	14.4	10.6	2.3	11.6	16.6	24.8	19.5
道路・歩道の整備	14.4	14.1	17.6	12.3	12.6	13.5	14.6	16.4
文化的な催しや文化施設の整備	14.2	12.8	10.6	13.8	14.2	12.3	13.1	11.7
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	13.6	13.7	10.6	10.0	11.1	16.0	18.2	14.8
河川の整備	12.1	11.5	10.6	12.3	10.5	12.3	12.4	10.9
高齢者のための施策	11.4	11.5	3.5	6.2	5.8	9.2	21.9	21.9
市や区の仕事などについての情報提供	10.4	9.9	4.7	10.8	5.3	11.0	10.9	17.2
防犯対策	10.0	8.6	4.7	6.2	6.3	9.2	10.2	14.1
子どものための施策	9.3	9.9	9.4	10.0	13.7	9.8	5.8	8.6
交通安全対策	9.1	8.5	5.9	4.6	12.6	7.4	8.0	10.2
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	7.0	7.8	7.1	5.4	13.7	10.4	5.1	1.6
消防力の強化や防災体制の整備	5.8	5.0	3.5	1.5	2.6	9.2	7.3	4.7
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	5.6	5.7	4.7	4.6	6.8	5.5	8.0	3.9
障害者のための施策	5.6	6.0	4.7	4.6	2.6	4.3	9.5	10.9
ICT・デジタル技術の活用	5.5	4.7	2.4	4.6	8.4	4.9	3.6	1.6
市民が学習・運動する機会や施設の整備	4.8	5.0	2.4	3.8	7.9	3.1	4.4	7.0
市政への市民参加の促進のための施策	4.3	4.3	3.5	5.4	1.6	5.5	5.8	4.7
市営住宅の建設・整備	4.2	5.0	0.0	4.6	2.1	8.6	8.8	4.7
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	4.0	3.4	3.5	3.1	2.6	3.1	5.1	3.1
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	3.2	2.6	2.4	3.1	2.6	3.1	2.2	2.3
海外姉妹都市との国際交流事業	3.0	3.0	0.0	0.0	3.7	4.3	2.9	5.5
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	3.0	2.8	1.2	2.3	1.6	3.1	3.6	4.7
行財政改革	2.4	1.6	1.2	0.0	0.5	1.2	3.6	3.1
市民が親しむことのできる港湾の整備	1.9	2.3	0.0	3.1	3.7	2.5	0.7	1.6
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	1.7	1.6	0.0	3.1	1.1	2.5	0.7	1.6
女性の活躍推進のための施策	1.6	1.6	0.0	2.3	0.0	3.1	2.2	0.8
特にない	14.3	14.5	25.9	20.8	13.7	17.8	7.3	4.7
無回答	4.6	5.4	3.5	3.1	9.5	3.7	4.4	6.3

(%)

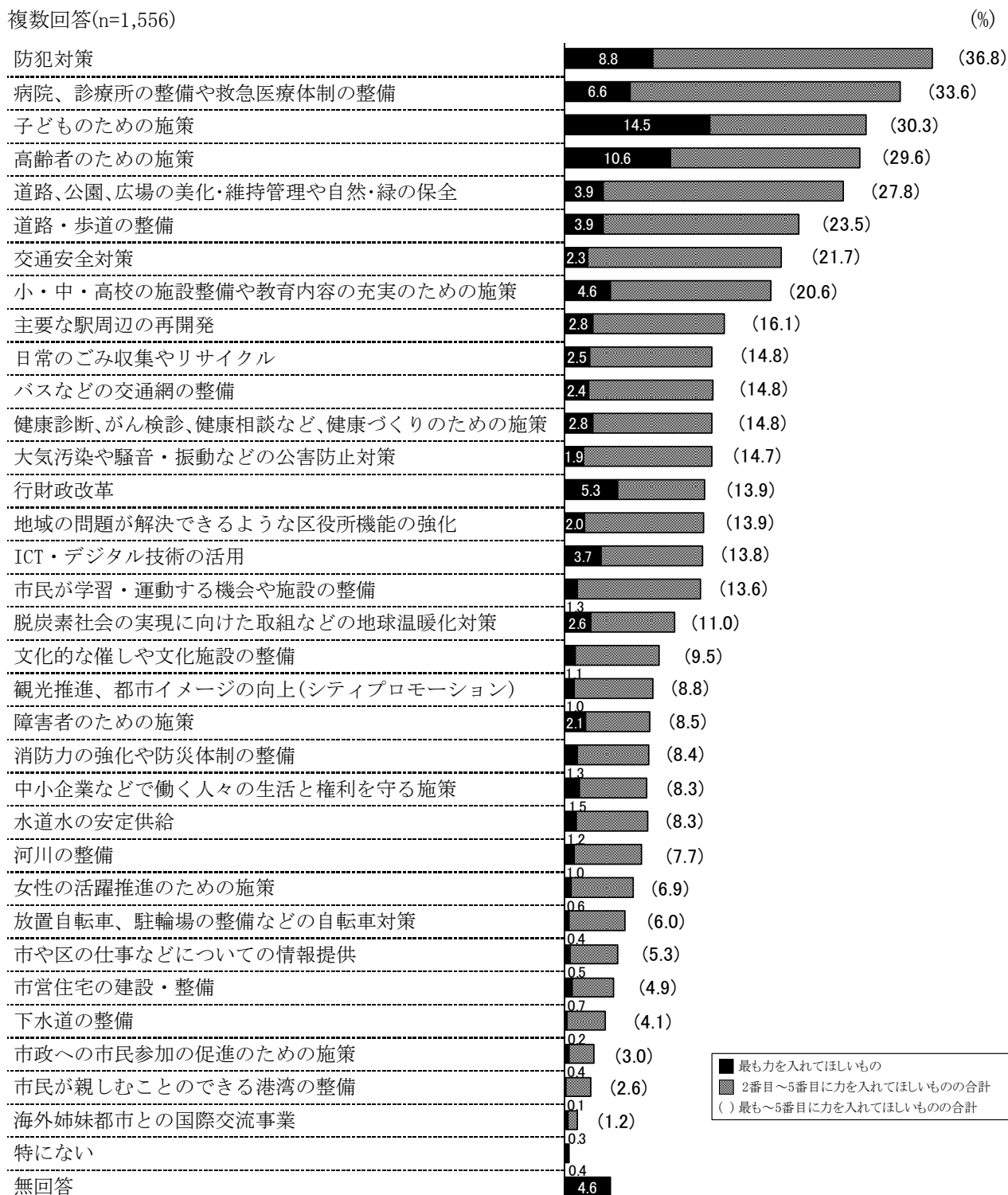
	全体	居住区						
		川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ベース:全対象者	(1,556)	(232)	(167)	(271)	(233)	(240)	(223)	(187)
日常のごみ収集やリサイクル	51.9	51.3	52.1	49.1	51.5	57.1	47.1	55.6
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	34.4	37.1	37.1	33.6	28.8	39.2	29.6	36.4
水道水の安定供給	30.1	39.7	27.5	22.9	26.2	34.6	28.3	32.1
バスなどの交通網の整備	24.2	36.2	25.7	21.0	21.5	28.8	16.6	19.3
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	21.0	29.7	18.0	25.1	24.9	19.6	17.0	8.6
主要な駅周辺の再開発	20.0	26.7	22.2	26.6	13.3	17.9	22.0	8.6
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	19.7	21.1	15.6	18.1	17.6	23.3	19.7	21.9
下水道の整備	15.0	19.8	16.2	13.3	13.7	15.8	14.3	12.3
道路・歩道の整備	14.4	23.7	10.8	12.5	13.3	12.5	15.7	10.7
文化的な催しや文化施設の整備	14.2	15.9	14.4	14.8	11.6	10.4	12.1	21.4
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	13.6	15.9	13.8	14.0	13.3	12.9	11.2	13.4
河川の整備	12.1	12.1	14.4	14.8	14.2	8.8	14.8	5.3
高齢者のための施策	11.4	16.4	10.2	7.4	9.4	15.8	7.6	13.4
市や区の仕事などについての情報提供	10.4	10.8	9.0	8.5	9.4	9.6	11.2	15.5
防犯対策	10.0	13.8	7.8	7.0	8.6	10.4	10.8	11.8
子どものための施策	9.3	9.1	13.2	10.7	9.9	10.4	4.0	8.0
交通安全対策	9.1	12.1	8.4	9.2	6.0	8.3	9.9	10.2
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	7.0	6.0	7.8	7.0	8.2	9.2	4.5	6.4
消防力の強化や防災体制の整備	5.8	9.1	5.4	3.7	6.9	7.9	2.7	4.8
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	5.6	9.5	10.2	5.5	3.4	3.8	4.9	2.1
障害者のための施策	5.6	9.1	4.2	3.7	3.0	8.3	3.1	8.0
ICT・デジタル技術の活用	5.5	4.3	3.6	8.1	4.3	4.6	9.0	3.2
市民が学習・運動する機会や施設の整備	4.8	4.3	1.8	8.5	5.2	3.8	4.5	3.7
市政への市民参加の促進のための施策	4.3	4.7	4.8	4.4	4.7	4.6	3.6	2.7
市営住宅の建設・整備	4.2	5.2	3.6	1.1	6.4	5.8	5.4	2.1
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	4.0	8.6	6.6	3.3	3.4	2.9	0.4	3.2
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	3.2	6.5	2.4	2.6	3.0	2.9	3.1	1.6
海外姉妹都市との国際交流事業	3.0	3.9	2.4	7.0	1.7	2.1	0.9	1.6
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	3.0	4.3	3.6	2.2	2.6	4.6	2.2	1.6
行財政改革	2.4	3.4	2.4	3.0	3.0	2.1	0.9	1.6
市民が親しむことのできる港湾の整備	1.9	4.3	1.8	2.6	0.4	2.5	0.9	0.0
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	1.7	3.0	3.0	1.1	1.3	1.7	1.8	0.5
女性の活躍推進のための施策	1.6	1.3	2.4	1.8	1.7	1.7	1.8	0.5
特になし	14.3	10.8	13.2	13.3	16.7	12.1	17.5	17.1
無回答	4.6	3.9	4.8	4.1	4.7	5.0	3.6	6.4

(2) 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問10. 問9の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に5つ選んでください。

「最も力を入れてほしいもの」～「5番目に力を入れてほしいもの」の合計では「防犯対策」(36.8%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(33.6%)、「子どものための施策」(30.3%)の順であるが、「最も力を入れてほしいもの」だけで見ると、「子どものための施策」(14.5%)が最も多くなっている。

【図表 104】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）



「最も力を入れてほしいもの」～「5番目に力を入れてほしいもの」の合計の上位3項目について、10年前（平成24年度）、5年前（平成29年度）からの推移を10年前→5年前→今回の順で見ると、「防犯対策」はすべて1位で、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は3位→4位→2位となった。「子どものための施策」は4位→7位→3位と5年前（平成29年度）と比べると順位が大きく上がった。

【図表 105】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）
（経年比較）

	令和4年度 (n=1,556)	平成29年度 (n=1,611)	平成24年度 (n=1,400)
防犯対策	36.8	44.0	45.3
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	33.6	35.3	38.0
子どものための施策	30.3	33.3	35.7
高齢者のための施策	29.6	38.4	38.6
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	27.8	35.5	29.7
道路・歩道の整備	23.5	33.8	32.4
交通安全対策	21.7	34.6	34.8
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	20.6	28.1	27.6
主要な駅周辺の再開発	16.1	25.3	19.9
日常のごみ収集やリサイクル	14.8	18.1	20.3
バスなどの交通網の整備	14.8	21.8	19.8
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	14.8	27.6	28.9
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	14.7	30.8	31.9
行財政改革	13.9	23.0	30.6
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	13.9	30.5	29.6
ICT・デジタル技術の活用	13.8	-	-
市民が学習・運動する機会や施設の整備	13.6	23.3	19.3
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	11.0	-	-
文化的な催しや文化施設の整備	9.5	16.6	14.6
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	8.8	23.5	17.1
障害者のための施策	8.5	26.9	29.2
消防力の強化や防災体制の整備	8.4	15.9	16.4
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	8.3	24.1	24.9
水道水の安定供給	8.3	11.2	13.3
河川の整備	7.7	18.2	15.6
女性の活躍推進のための施策	6.9	22.2	20.0
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	6.0	24.2	30.4
市や区の仕事などについての情報提供	5.3	18.9	21.9
市営住宅の建設・整備	4.9	17.8	15.2
下水道の整備	4.1	14.1	11.9
市政への市民参加の促進のための施策	3.0	17.5	15.8
市民が親しむことのできる港湾の整備	2.6	16.8	13.3
海外姉妹都市との国際交流事業	1.2	12.9	13.9
わからない	-	2.5	2.7
特にない	0.4	0.7	1.8
無回答	4.6	10.4	7.4

※平成24年度及び29年度は選択数に制限を設けない複数回答にて実施

※「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」:平成24年度では「道路、公園、広場の美化・清掃」「公園の整備や維持管理」「自然や緑の保全」で実施しており、数値は3項目の平均値

※「市民が学習・運動する機会や施設の整備」:平成24年度では「市民が学習する機会や施設の整備」と「スポーツ・レクリエーションの施設整備」で実施しており、数値は2項目の平均値

※「文化的な催しや文化施設の整備」:平成24年度では「映画祭、国際会議など文化的な催しや活動」と「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」で実施しており、数値は2項目の平均値

※「観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)」:平成24年度では「観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)」で実施

※「女性の活躍推進のための施策」:平成24年度では「女性の地位向上のための施策」で実施

※「ICT・デジタル技術の活用」「脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策」:令和4年度から項目を追加設定

性／年齢別に見ると、「防犯対策」は男性では50～59歳（50.0%）で5割と最も多く、女性では18～29歳（50.6%）が最も多い。また、「子どものための施策」は男女ともに30～39歳が最も多い。

【図表 106】 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（複数回答）
（性／年齢別、居住区別）

	全体	男性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(688)	(73)	(91)	(150)	(132)	(130)	(111)
防犯対策	36.8	37.8	37.0	35.2	36.7	50.0	33.8	31.5
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	33.6	31.7	21.9	22.0	36.7	36.4	36.9	27.9
子どものための施策	30.3	26.9	26.0	50.5	43.3	15.9	11.5	17.1
高齢者のための施策	29.6	27.8	5.5	5.5	17.3	26.5	43.1	58.6
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	27.8	27.9	24.7	27.5	27.3	33.3	25.4	27.0
道路・歩道の整備	23.5	26.3	20.5	26.4	26.0	35.6	23.8	21.6
交通安全対策	21.7	24.3	19.2	25.3	28.0	28.0	23.1	18.9
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	20.6	17.9	20.5	37.4	24.7	13.6	6.2	9.9
主要な駅周辺の再開発	16.1	18.6	30.1	24.2	22.0	15.2	19.2	5.4
日常のごみ収集やリサイクル	14.8	16.3	12.3	13.2	12.0	18.2	22.3	18.0
バスなどの交通網の整備	14.8	15.1	8.2	9.9	17.3	18.2	19.2	12.6
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	14.8	13.8	6.8	9.9	10.7	12.1	21.5	18.9
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	14.7	16.1	20.5	25.3	18.7	14.4	12.3	9.0
行財政改革	13.9	16.4	16.4	16.5	15.3	22.0	16.9	10.8
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	13.9	11.9	8.2	12.1	14.7	11.4	12.3	10.8
ICT・デジタル技術の活用	13.8	19.2	31.5	20.9	22.0	16.7	15.4	13.5
市民が学習・運動する機会や施設の整備	13.6	12.5	17.8	16.5	10.7	8.3	12.3	13.5
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	11.0	8.9	6.8	4.4	6.7	7.6	10.0	17.1
文化的な催しや文化施設の整備	9.5	9.2	17.8	8.8	5.3	8.3	11.5	7.2
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	8.8	10.3	16.4	8.8	8.7	7.6	11.5	11.7
障害者のための施策	8.5	7.1	1.4	2.2	8.0	6.1	8.5	13.5
消防力の強化や防災体制の整備	8.4	7.7	5.5	8.8	8.0	7.6	9.2	6.3
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	8.3	8.4	17.8	7.7	6.0	6.1	10.0	7.2
水道水の安定供給	8.3	8.4	8.2	4.4	6.7	7.6	10.8	11.7
河川の整備	7.7	8.7	6.8	14.3	6.0	10.6	8.5	7.2
女性の活躍推進のための施策	6.9	3.9	5.5	3.3	3.3	3.0	2.3	7.2
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	6.0	6.8	9.6	3.3	8.0	9.1	6.9	2.7
市や区の仕事などについての情報提供	5.3	5.7	5.5	3.3	6.0	5.3	5.4	8.1
市営住宅の建設・整備	4.9	5.2	4.1	2.2	7.3	6.1	6.2	3.6
下水道の整備	4.1	4.9	4.1	1.1	4.0	6.1	6.9	6.3
市政への市民参加の促進のための施策	3.0	3.9	6.8	3.3	4.0	0.8	3.1	7.2
市民が親しむことのできる港湾の整備	2.6	2.9	2.7	1.1	4.7	1.5	3.8	2.7
海外姉妹都市との国際交流事業	1.2	0.7	0.0	0.0	2.0	0.8	0.8	0.0
特にない	0.4	0.6	2.7	0.0	0.0	0.8	0.0	0.9
無回答	4.6	3.5	5.5	4.4	0.7	2.3	1.5	9.0

(%)

	全体	女性						
		計	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
ベース:全対象者	(1,556)	(835)	(85)	(130)	(190)	(163)	(137)	(128)
防犯対策	36.8	35.7	50.6	42.3	37.4	38.7	25.5	22.7
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	33.6	35.3	14.1	35.4	32.1	42.3	45.3	35.2
子どものための施策	30.3	33.2	36.5	63.8	43.2	18.4	21.2	17.2
高齢者のための施策	29.6	31.1	7.1	10.8	14.7	42.9	51.1	55.5
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	27.8	28.1	27.1	32.3	31.6	28.2	27.0	21.1
道路・歩道の整備	23.5	21.3	21.2	24.6	17.9	20.2	20.4	25.0
交通安全対策	21.7	20.1	22.4	24.6	20.0	17.8	19.7	18.0
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	20.6	22.8	18.8	37.7	37.9	14.7	13.1	8.6
主要な駅周辺の再開発	16.1	13.9	20.0	13.1	17.9	12.9	13.1	7.0
日常のごみ収集やリサイクル	14.8	13.7	14.1	11.5	16.3	14.1	13.1	11.7
バスなどの交通網の整備	14.8	14.5	17.6	9.2	13.2	16.0	15.3	15.6
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	14.8	15.7	14.1	19.2	17.4	13.5	15.3	14.1
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	14.7	13.9	18.8	13.8	13.7	16.0	11.7	10.9
行財政改革	13.9	11.9	15.3	9.2	12.1	10.4	13.9	11.7
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	13.9	15.6	8.2	11.5	10.0	20.9	19.7	21.9
ICT・デジタル技術の活用	13.8	9.9	24.7	8.5	11.1	7.4	8.8	3.9
市民が学習・運動する機会や施設の整備	13.6	14.5	17.6	16.2	14.7	16.0	13.1	10.2
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	11.0	12.8	11.8	8.5	8.9	16.0	19.0	13.3
文化的な催しや文化施設の整備	9.5	9.3	10.6	8.5	8.9	8.6	13.1	7.0
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	8.8	7.3	17.6	3.8	5.3	8.0	10.2	3.1
障害者のための施策	8.5	9.2	5.9	3.8	7.4	9.8	13.1	14.8
消防力の強化や防災体制の整備	8.4	9.1	4.7	7.7	10.0	11.7	13.1	3.9
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	8.3	8.3	14.1	8.5	8.9	6.1	6.6	7.8
水道水の安定供給	8.3	7.9	2.4	5.4	8.9	9.2	7.3	10.9
河川の整備	7.7	6.7	7.1	9.2	6.3	8.0	7.3	2.3
女性の活躍推進のための施策	6.9	9.0	18.8	11.5	7.9	8.0	5.1	7.0
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	6.0	5.4	5.9	1.5	7.9	2.5	5.1	8.6
市や区の仕事などについての情報提供	5.3	5.3	9.4	3.1	3.2	3.7	5.1	10.2
市営住宅の建設・整備	4.9	4.8	5.9	3.1	2.1	4.9	4.4	10.2
下水道の整備	4.1	3.5	4.7	1.5	4.2	6.1	0.7	3.1
市政への市民参加の促進のための施策	3.0	2.2	5.9	0.8	2.1	0.6	1.5	3.9
市民が親しむことのできる港湾の整備	2.6	2.2	2.4	2.3	3.2	2.5	0.7	1.6
海外姉妹都市との国際交流事業	1.2	1.7	2.4	1.5	2.6	1.2	2.2	0.0
特にない	0.4	0.2	0.0	0.8	0.0	0.6	0.0	0.0
無回答	4.6	5.4	2.4	3.8	5.3	5.5	5.1	9.4

(%)

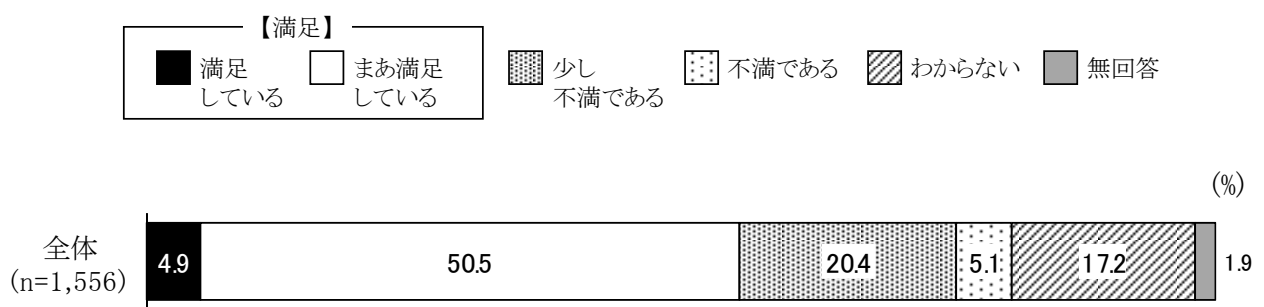
	全体	居住区						
		川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
ベース:全対象者	(1,556)	(232)	(167)	(271)	(233)	(240)	(223)	(187)
防犯対策	36.8	40.1	35.3	35.4	44.2	28.8	37.7	35.8
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	33.6	28.9	35.3	32.5	35.6	36.7	36.8	29.9
子どものための施策	30.3	25.4	35.9	32.1	30.9	30.4	28.7	29.9
高齢者のための施策	29.6	31.5	29.3	26.6	27.9	33.3	27.4	31.6
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	27.8	28.4	24.0	26.6	29.6	27.1	29.6	29.4
道路・歩道の整備	23.5	18.5	20.4	24.0	26.2	19.2	25.1	32.1
交通安全対策	21.7	22.4	21.0	22.1	24.0	21.7	23.8	16.0
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	20.6	18.5	25.1	24.0	20.6	20.8	20.2	15.0
主要な駅周辺の再開発	16.1	8.6	9.0	11.8	15.5	17.1	26.5	24.6
日常のごみ収集やリサイクル	14.8	17.7	13.8	15.5	14.2	15.4	13.5	13.4
バスなどの交通網の整備	14.8	8.6	15.6	10.3	15.0	20.0	13.0	22.5
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	14.8	13.4	10.8	19.6	17.6	17.5	12.6	8.6
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	14.7	26.3	19.2	12.9	15.5	10.8	10.8	8.0
行財政改革	13.9	14.7	13.8	14.8	15.5	15.4	13.5	9.1
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	13.9	14.7	19.2	9.6	15.9	13.8	10.8	16.0
ICT・デジタル技術の活用	13.8	10.3	9.6	15.1	15.5	16.3	13.0	16.0
市民が学習・運動する機会や施設の整備	13.6	12.9	13.8	16.6	12.4	16.3	9.9	11.8
脱炭素社会の実現に向けた取組などの地球温暖化対策	11.0	11.2	9.6	12.9	10.3	10.4	10.8	11.2
文化的な催しや文化施設の整備	9.5	6.9	6.0	11.1	10.3	10.4	12.1	8.6
観光推進、都市イメージの向上(シティプロモーション)	8.8	10.3	9.6	8.1	6.0	9.6	6.7	11.8
障害者のための施策	8.5	8.2	7.8	7.7	8.6	7.5	9.4	11.2
消防力の強化や防災体制の整備	8.4	8.2	9.6	12.5	6.9	5.4	9.0	7.0
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	8.3	9.1	8.4	7.0	6.0	9.6	9.0	9.6
水道水の安定供給	8.3	12.1	8.4	7.7	6.0	7.1	9.9	7.0
河川の整備	7.7	6.0	9.6	12.5	5.6	2.1	14.8	2.7
女性の活躍推進のための施策	6.9	6.0	6.6	7.0	8.6	5.8	6.3	8.0
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	6.0	11.2	7.8	5.5	5.2	4.6	3.6	4.3
市や区の仕事などについての情報提供	5.3	5.2	4.2	5.9	3.0	6.7	5.4	7.0
市営住宅の建設・整備	4.9	5.2	6.6	5.2	4.7	4.2	3.6	5.3
下水道の整備	4.1	3.4	6.0	5.9	4.7	1.7	3.6	3.7
市政への市民参加の促進のための施策	3.0	3.9	0.6	1.5	2.1	4.6	3.1	4.8
市民が親しむことのできる港湾の整備	2.6	7.3	1.2	3.0	2.1	0.4	3.1	0.0
海外姉妹都市との国際交流事業	1.2	0.9	1.2	1.1	1.3	2.1	0.9	1.1
特になし	0.4	0.9	0.6	0.0	0.4	0.4	0.0	0.5
無回答	4.6	4.7	5.4	3.7	3.9	5.0	4.5	5.3

(3) 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

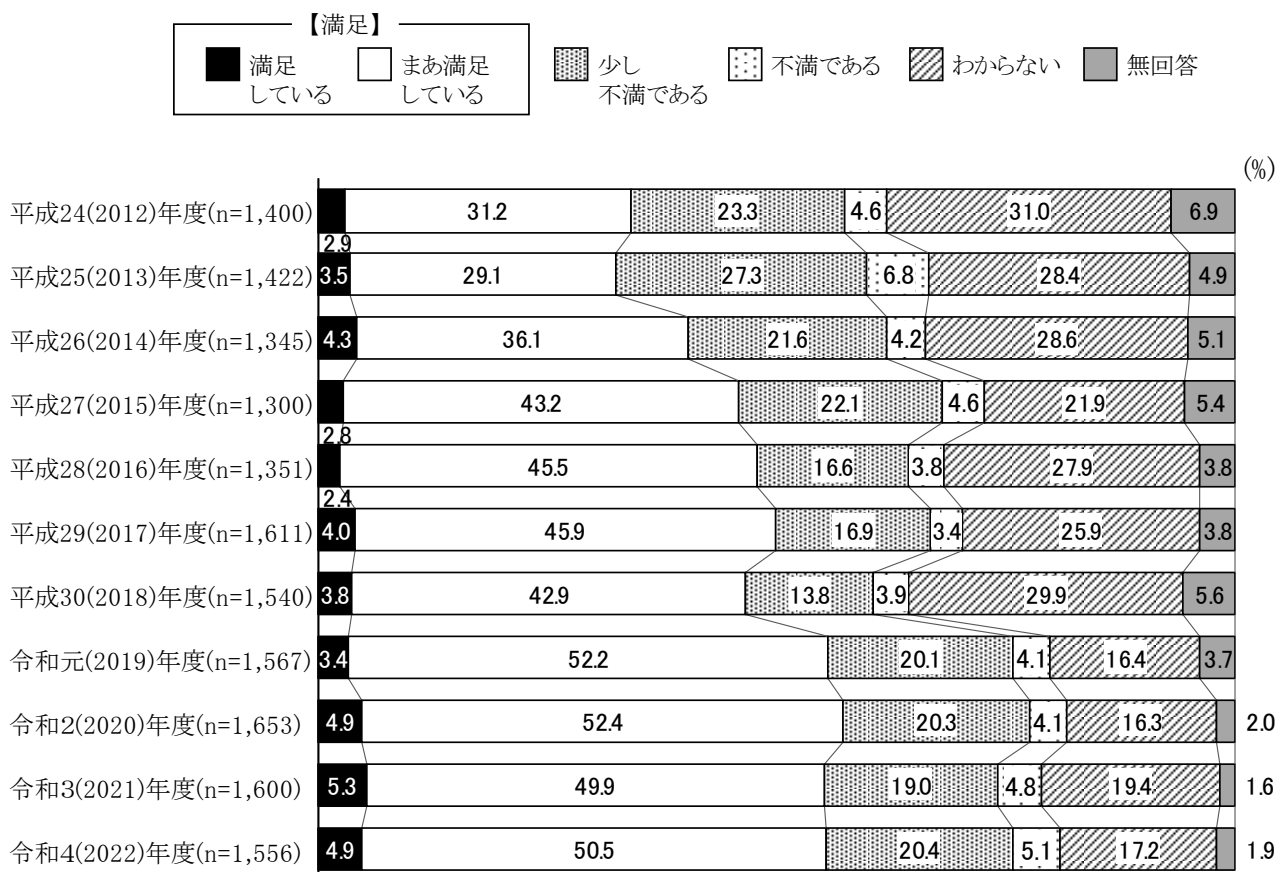
「満足している」(4.9%)と「まあ満足している」(50.5%)を合計した【満足】は55.4%であった。

【図表 107】 施策や事業の総合的な満足度



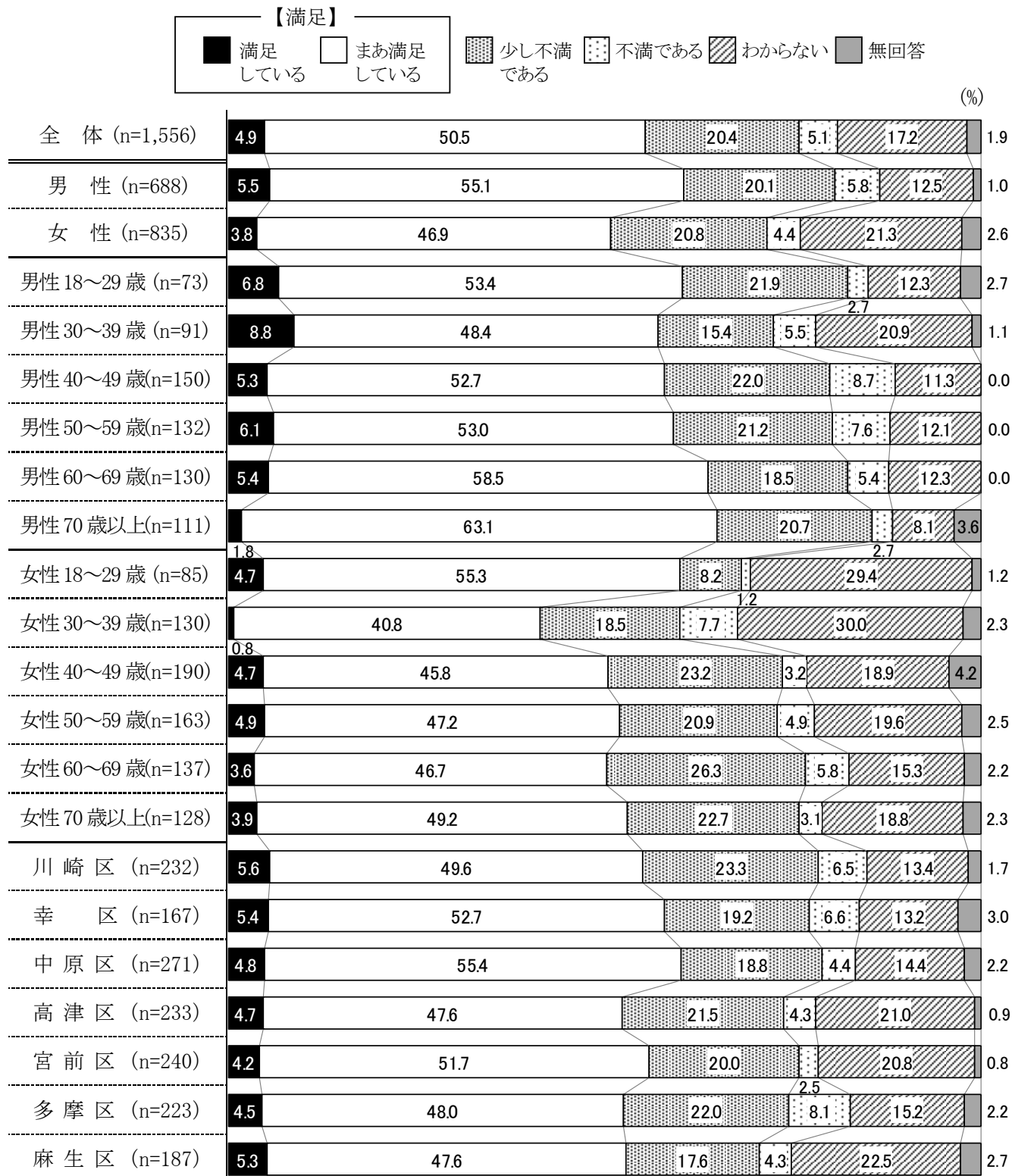
【満足】は、5年前(平成29年度)と比較して5.5ポイント、10年前(平成24年度)と比較して21.3ポイントの増加となったが、平成元(2019)年度以降はほぼ横ばいで推移している。

【図表 108】 施策や事業の総合的な満足度 (経年比較)



性／年齢別に見ると、【満足】の割合は、男性では70歳以上(64.9%)が最も多く、60～69歳(63.8%)と18～29歳(60.3%)でも6割を超えている。女性では18～29歳(60.0%)が最も多い。また、男女ともに30～39歳で【満足】が最も少なくなっている(男性57.1%、女性41.5%)。居住区別では、【満足】の割合は、中原区が60.1%と最も多く、高津区(52.4%)、多摩区(52.5%)、麻生区(52.9%)では5割台前半に留まった。

【図表 109】 施策や事業の総合的な満足度（性／年齢別、居住区別）



2.5 夢見ヶ崎動物公園について

(1) 夢見ヶ崎動物公園の認知・利用状況

問 12. 夢見ヶ崎動物公園をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがある方は利用頻度をお答えください。また、利用したことがない方は、公園の名称を知っていたかについてお答えください。

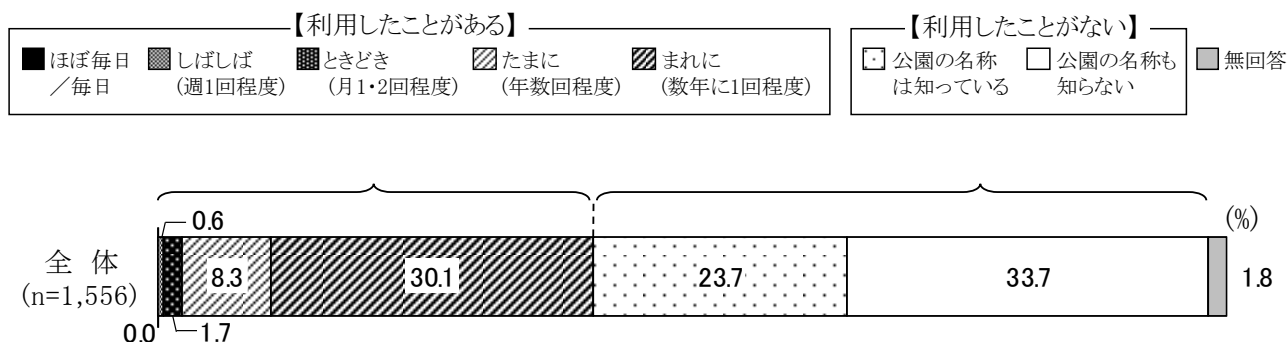
夢見ヶ崎動物公園の利用状況は、【利用したことがある】が 40.8%、【利用したことがない】が 57.4%であった。

【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に1回程度）」が 30.1%と最も多い。

【利用したことがない】人の公園についての認知状況は、「利用したことがなく、公園の名称も知らない」（33.7%）が約3分の1を占めている。

認知度（【利用したことがある】と「利用したことはないが、公園の名称は知っている」の合計）は全体の 64.5%であった。

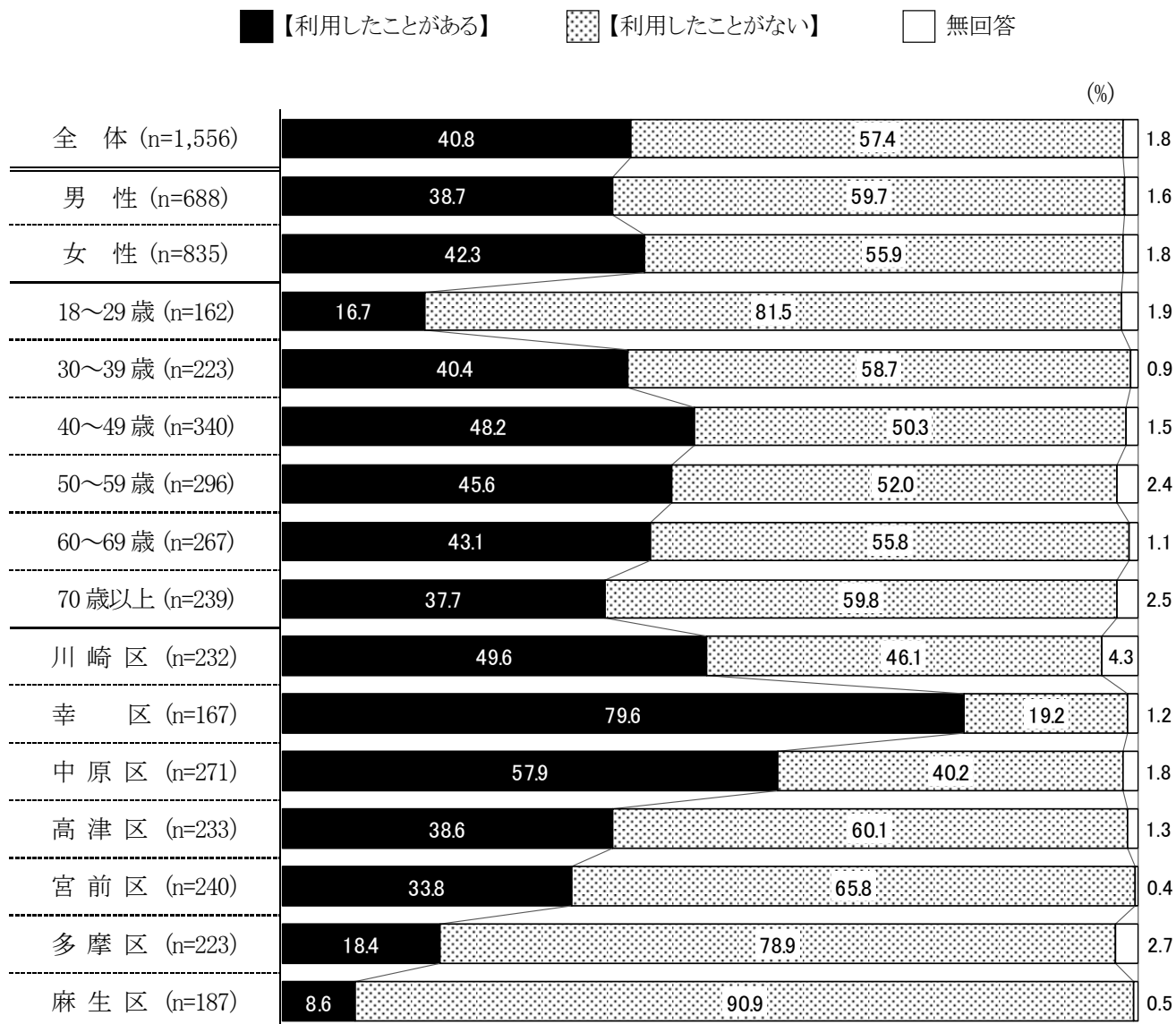
【図表 110】 夢見ヶ崎動物公園の認知・利用状況



【利用したことがある】を年齢別に見ると、40～49歳が48.2%と最も多く、18～29歳が16.7%と最も少ない。

居住区別に見ると、【利用したことがある】が最も多い幸区(79.6%)はほぼ8割、最も少ない麻生区(8.6%)では1割を下回った。

【図表 111】 夢見ヶ崎動物公園の利用状況（性別、年齢別、居住区別）



(2) 川崎市周辺の動物園の認知・利用状況

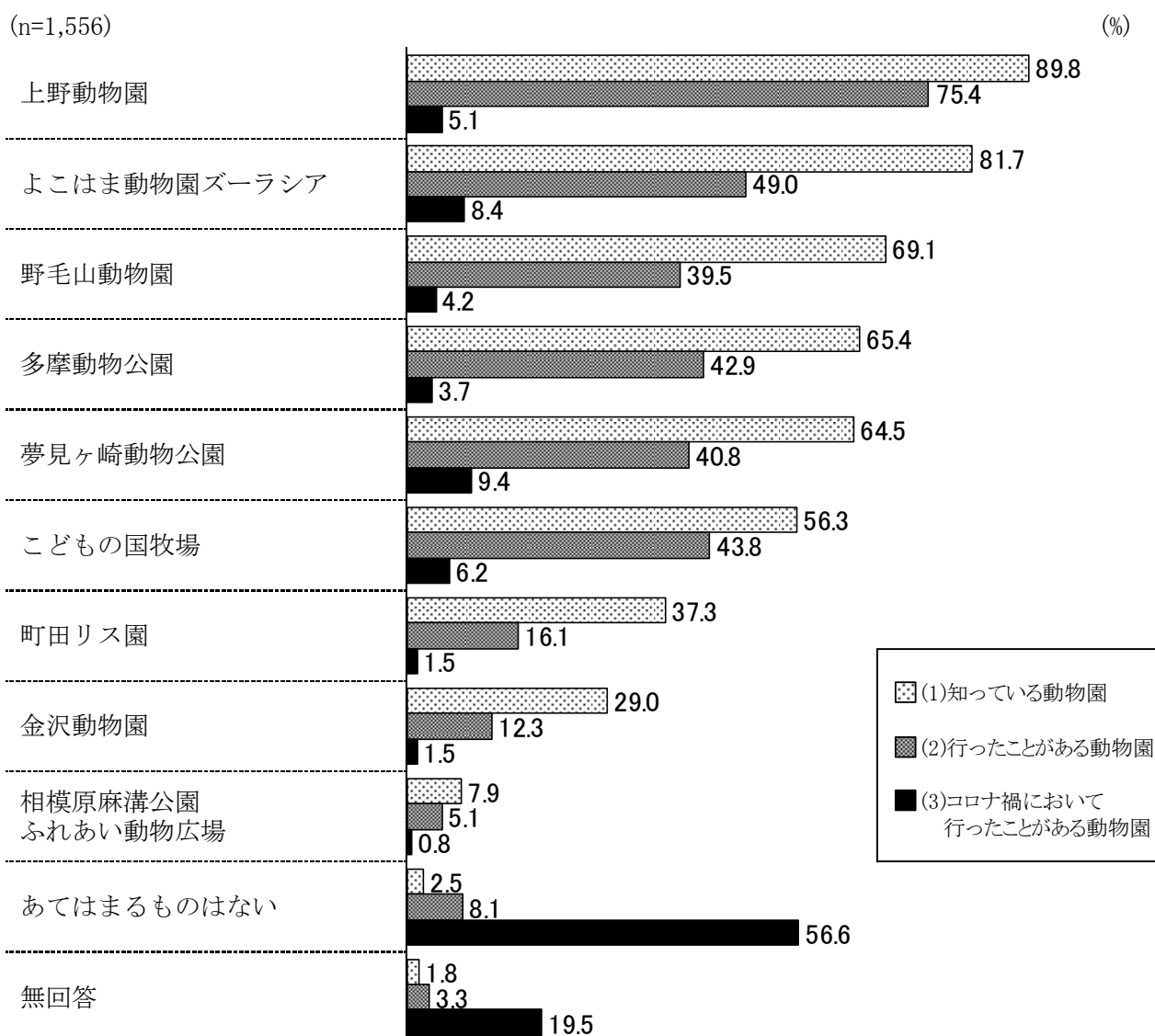
問 13. 川崎市の周辺には、動物に会いに行ける動物園がいくつもあります。次の(1)～(3)の質問にあてはまる動物園の番号に○をつけてください。

- (1) 知っている動物園はありますか。
 (2) 行ったことがある動物園はありますか。
 (3) 2020(令和2)年4月以降、現在までのコロナ禍において、行ったことがある動物園はありますか

(1) 知っている動物園、(2) 行ったことがある動物園では「上野動物園」がそれぞれ 89.8%、75.4%と最も多く、次いで「よこはま動物園ズーラシア」が 81.7%、49.0%と2番目に多い。

(3) のコロナ禍において行ったことがある動物園については、全ての動物園で1割を下回ったが、その中でも「夢見ヶ崎動物公園」が 9.4%と最も多かった。

【図表 112】川崎市周辺の動物園の認知・利用状況(複数回答)

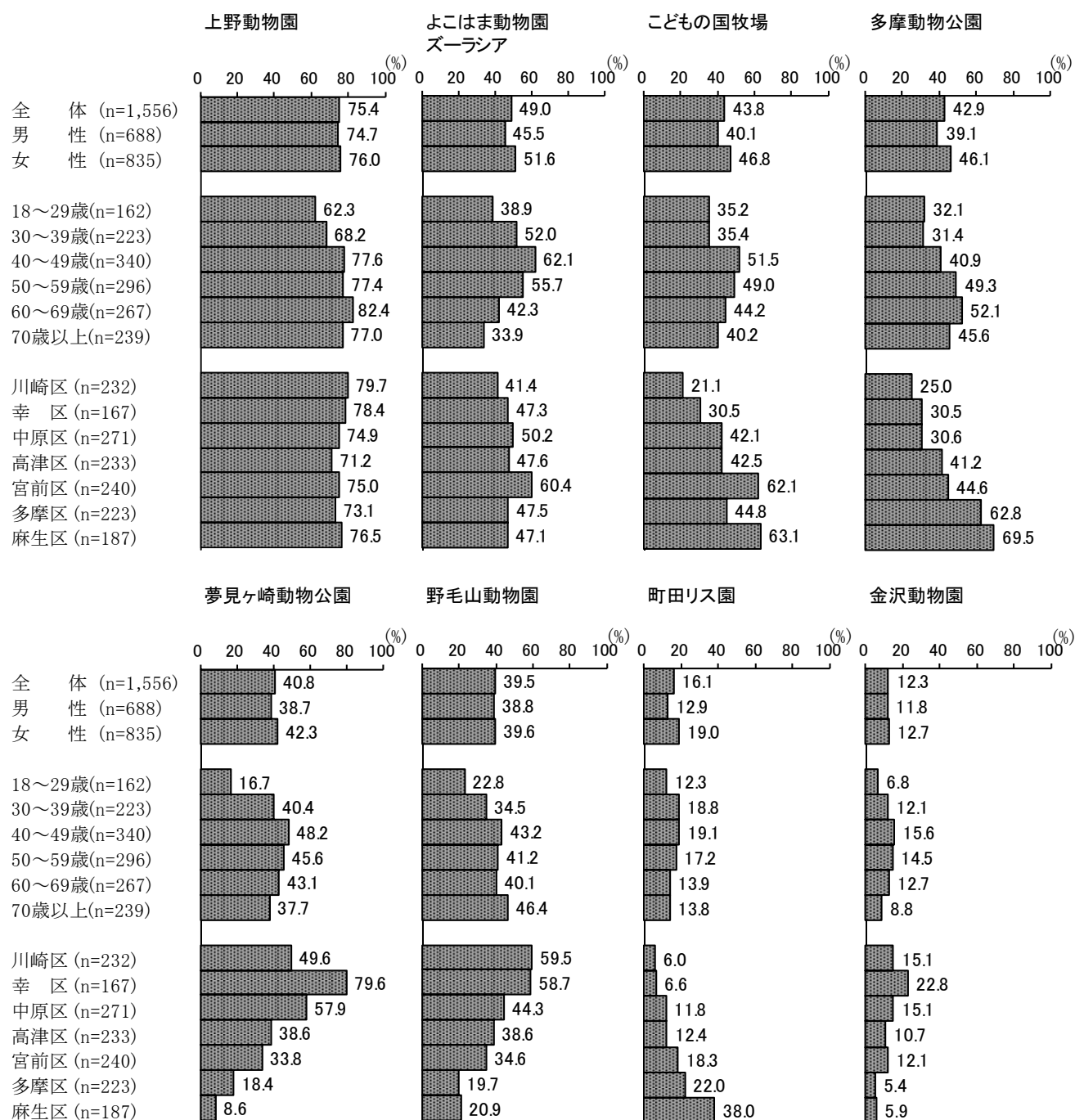


※「夢見ヶ崎動物公園」の(1)と(2)は問12の回答結果より算出。

(2) 行ったことがある動物園について年齢別に見ると、「上野動物園」と「多摩動物公園」では60～69歳が最も多く、「野毛山動物園」では70歳以上が最も多かったが、その他の動物園では40～49歳が最も多かった。

居住区別に見ると、「上野動物園」では傾向に大きな違いは見られないが、「よこはま動物園ズーラシア」は宮前区が6割を超えて最も多く、「こどもの国牧場」は麻生区と宮前区で6割を超えて多い。また、「多摩動物公園」と「町田リス園」は麻生区、「野毛山動物園」は川崎区と幸区、「夢見ヶ崎動物公園」と「金沢動物園」は幸区が多くなっている。

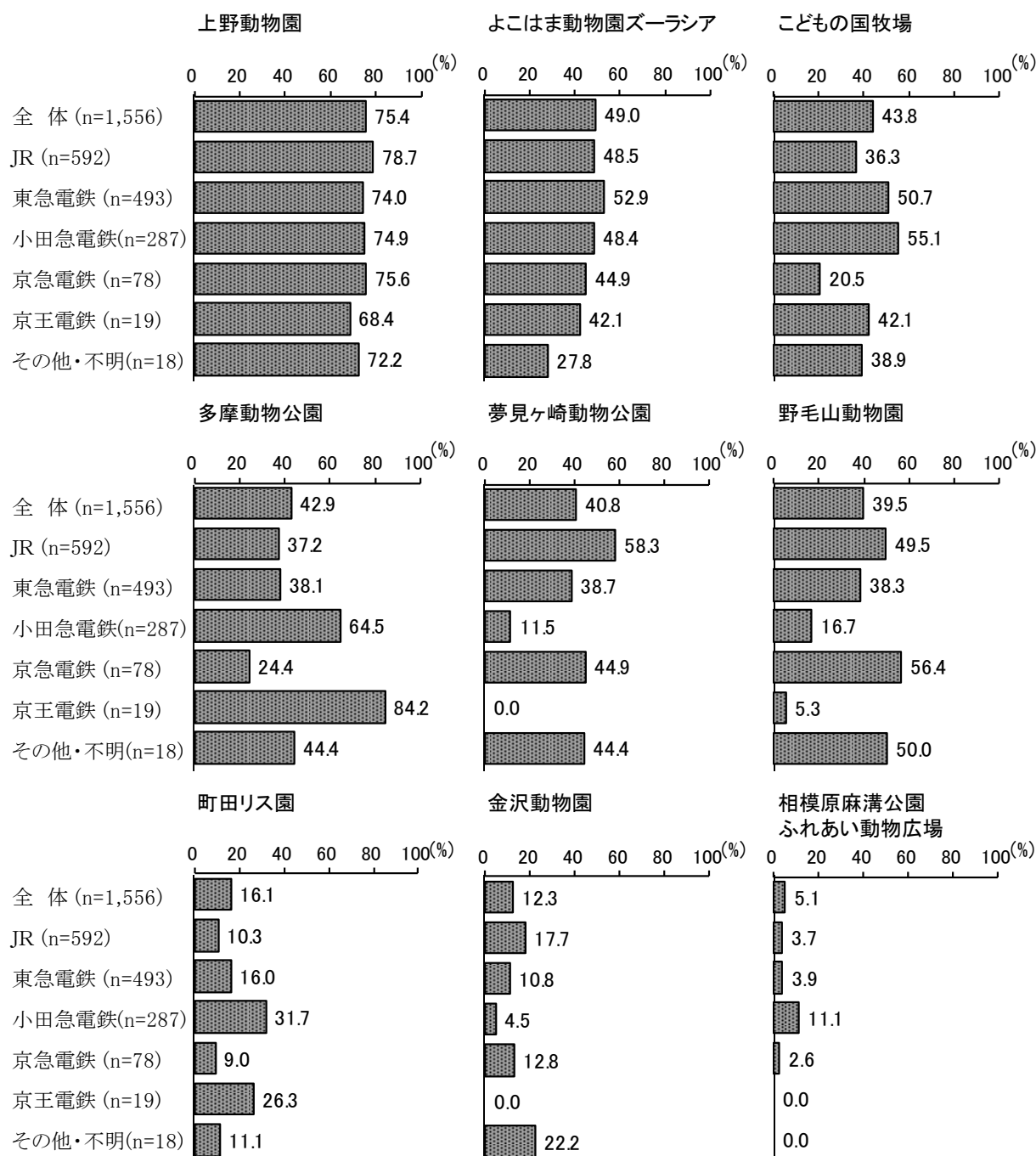
【図表 113】 行ったことがある動物園 <上位8項目> (複数回答)
(性別、年齢別、居住区別)



※「夢見ヶ崎動物公園」は問12の回答結果より算出。

(2) 行ったことがある動物園について、問19の普段よく使う最寄り駅の鉄道会社別(154ページ参照)を見ると、「上野動物園」と「よこはま動物園ズーラシア」では傾向に大きな違いは見られないが、「こどもの国牧場」は小田急電鉄と東急電鉄が5割を超えて多く、「町田リス園」は小田急電鉄が比較的多くなっている。また、「夢見ヶ崎動物公園」はJRが最も多く、「野毛山動物園」は京急電鉄とJRが多くなっている。

【図表 114】 行ったことがある動物園(複数回答)
(最寄り駅の鉄道会社別)



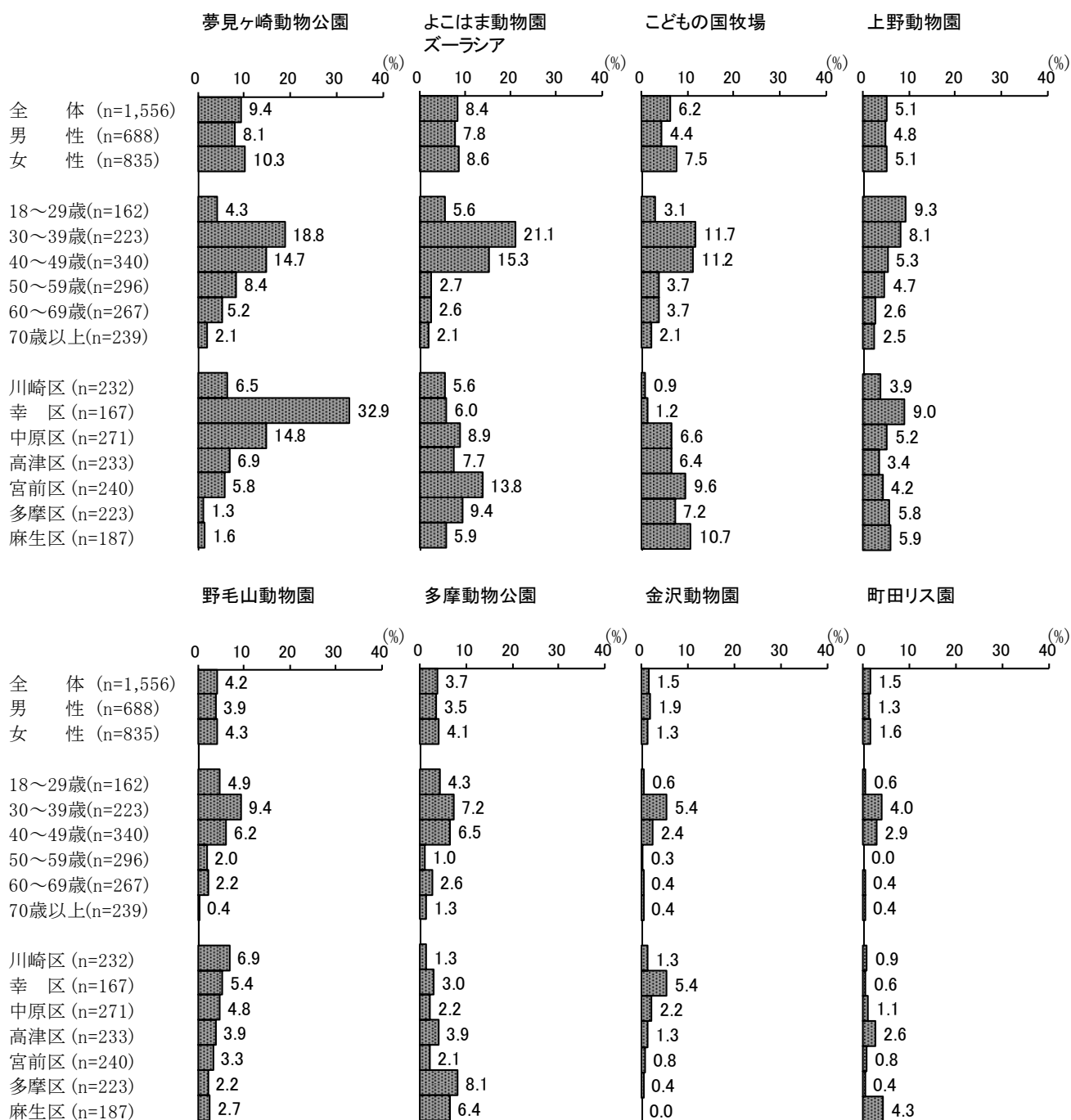
※「夢見ヶ崎動物公園」は問12の回答結果より算出。

※「京王電鉄」と「その他・不明」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

(3) コロナ禍において行ったことがある動物園について年齢別に見ると、「上野動物園」では18～29歳が最も多く、年代が上がるほど少ないが、その他の動物園においては30～39歳が最も多く、次いで40～49歳が2番目に多くなっている。

居住区別に見ると、「夢見ヶ崎動物公園」では所在地である幸区が32.9%と飛び抜けて多く、次いで中原区が14.8%、その他の区では1割を下回った。

【図表 115】 コロナ禍において行ったことがある動物園 《上位8項目》 (複数回答)
(性別、年齢別、居住区別)



(3) 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力について

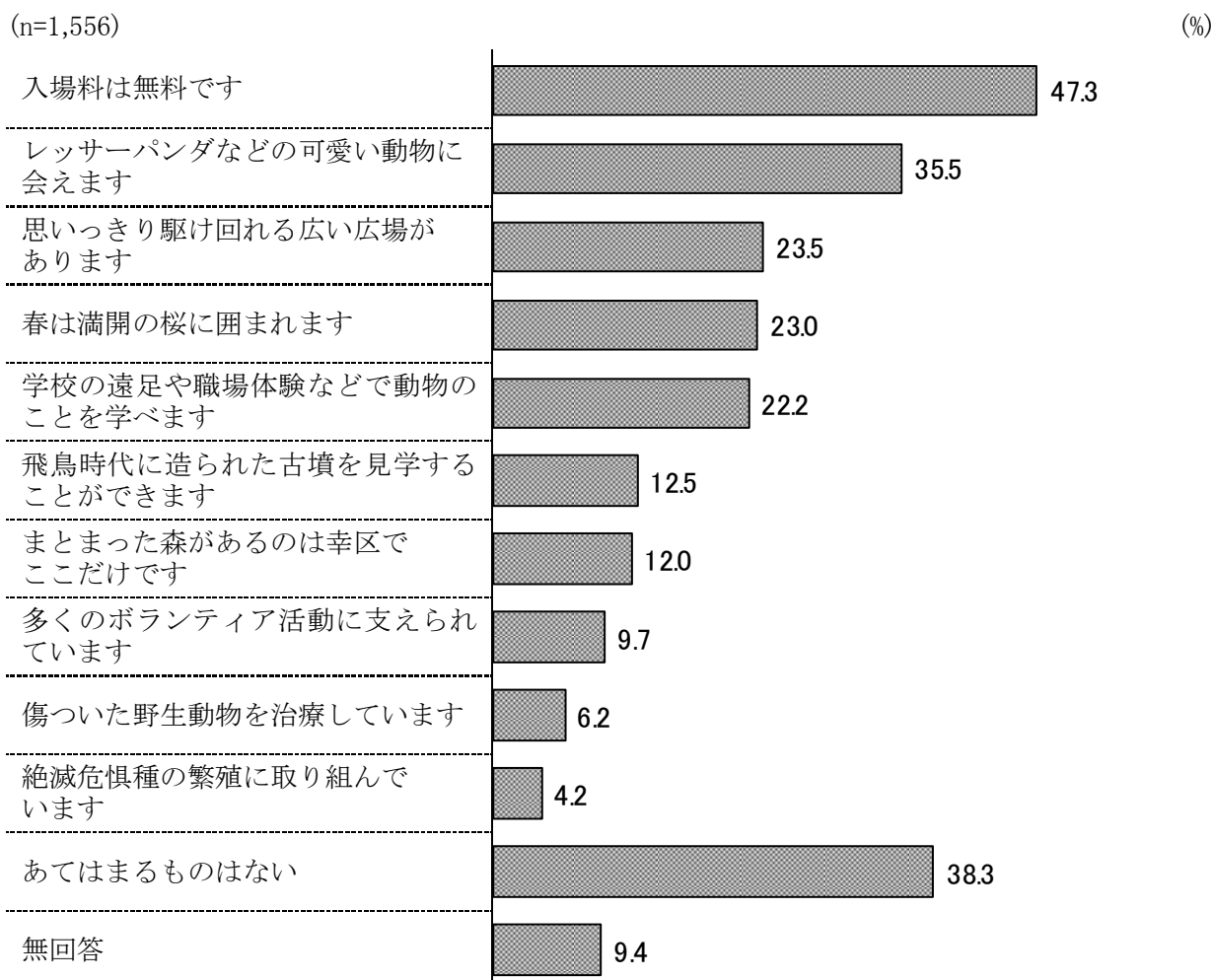
問 14. 夢見ヶ崎動物公園には、さまざまな特徴や魅力があります。

- ① あなたは、次のような夢見ヶ崎動物公園の「こんなこと（特徴や魅力）」を知っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。
- ② あなたが友人・知人などに夢見ヶ崎動物公園の利用をすすめるとしたら、どれを一番に推しますか。最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

① 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で知っていること

「入場料は無料です」が47.3%と最も多く、次いで「レッサーパンダなどの可愛い動物に会えます」(35.5%)、「思いっきり駆け回れる広い広場があります」(23.5%)、「春は満開の桜に囲まれます」(23.0%)と続いている。

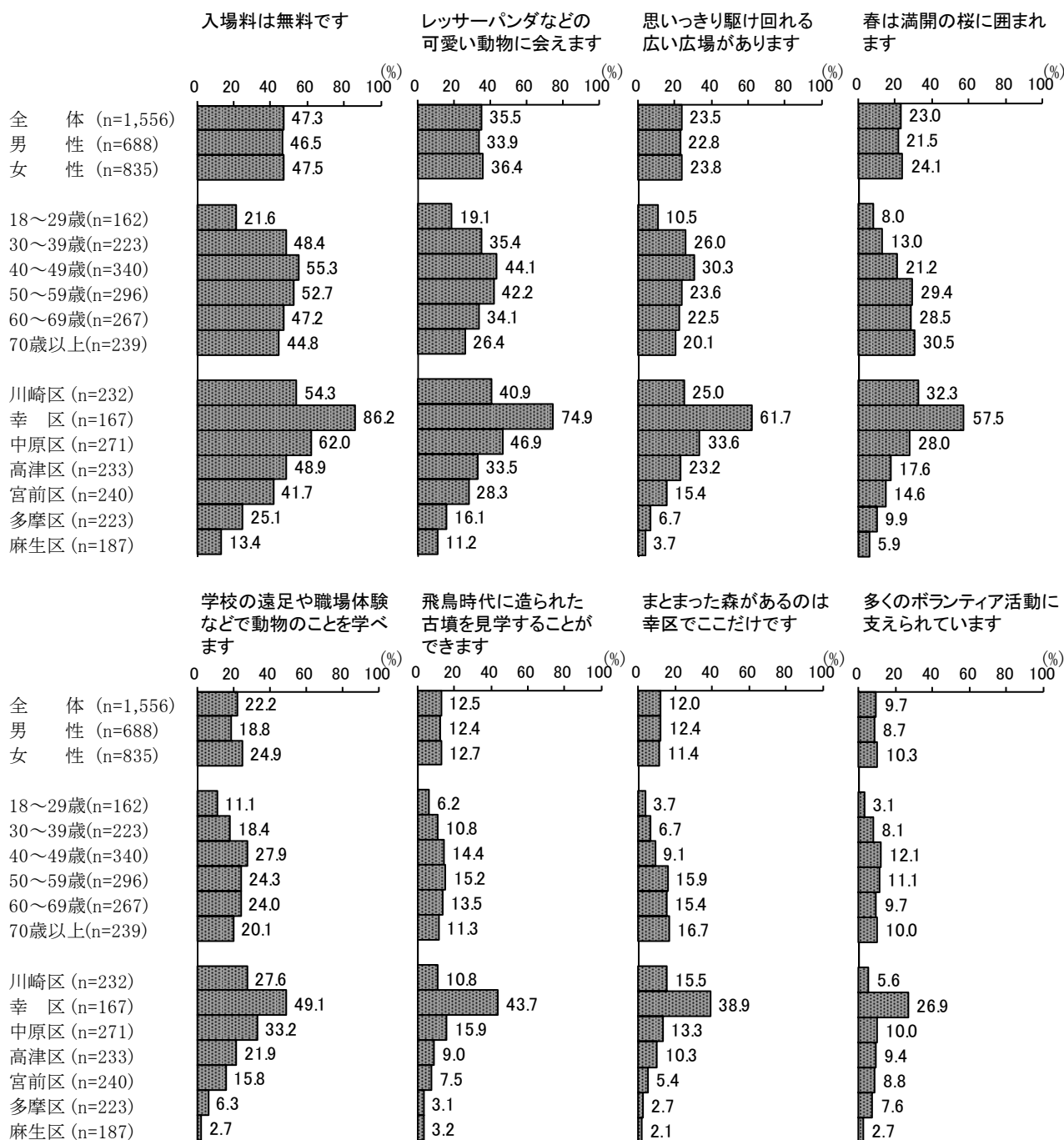
【図表 116】 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で知っていること（複数回答）



夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で知っていることについて年齢別に見ると、「春は満開の桜に囲まれます」と「まとまった森があるのは幸区でここだけです」は概ね年齢が上がるほど多くなっているが、その他の項目では「飛鳥時代に造られた古墳を見学することができます」を除き、40～49歳が最も多い。また、すべての項目で18～29歳が最も少なくなっている。

居住区別に見ると、全ての項目で幸区が最も多くなっている。

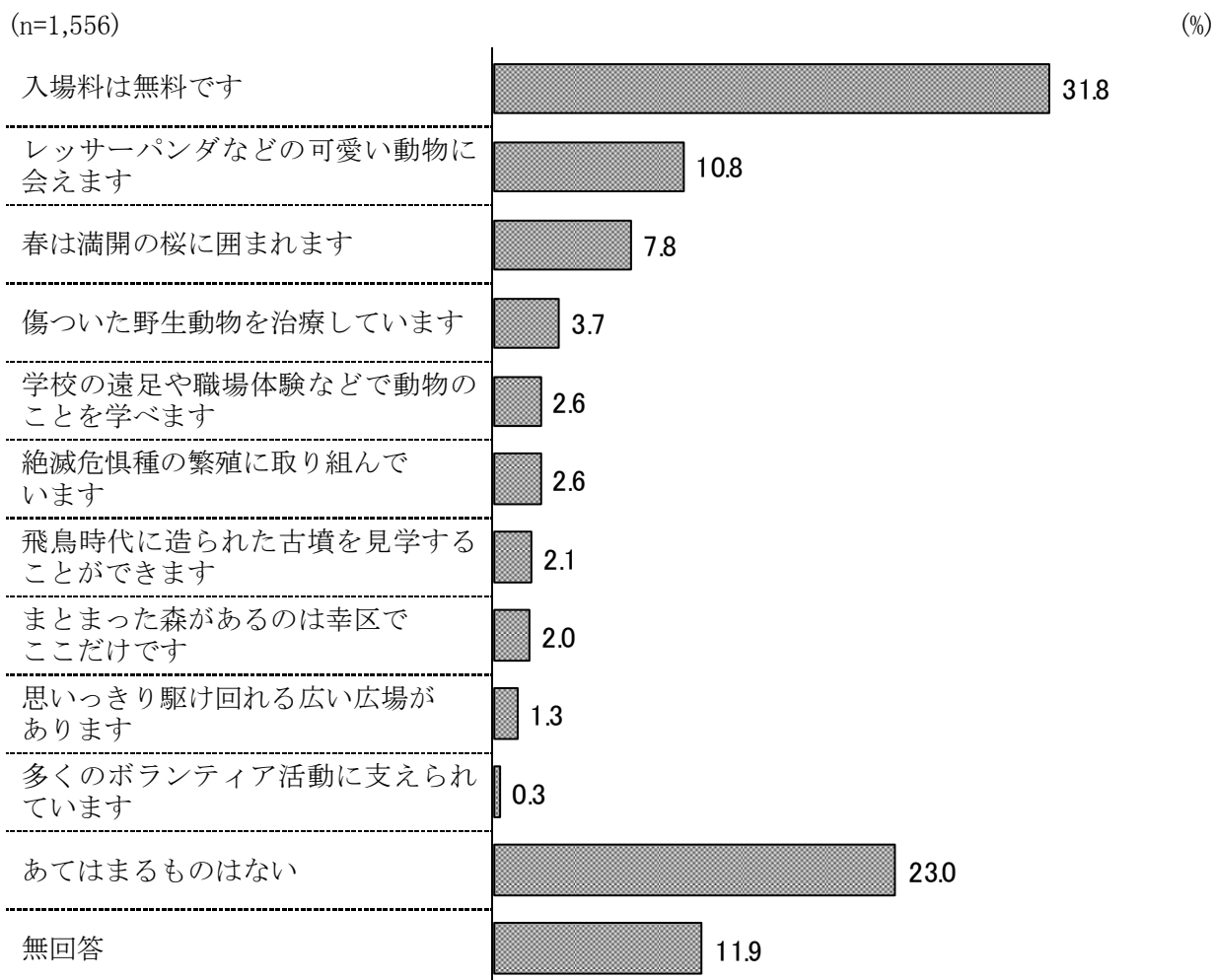
【図表 117】 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で知っていること <<上位8項目>> (複数回答)
(性別、年齢別、居住区別)



② 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で一番に推すこと

「入場料は無料です」が31.8%と最も多く、次いで「レッサーパンダなどの可愛い動物に会えます」(10.8%)、「春は満開の桜に囲まれます」(7.8%)、「傷ついた野生動物を治療しています」(3.7%)と続いている。

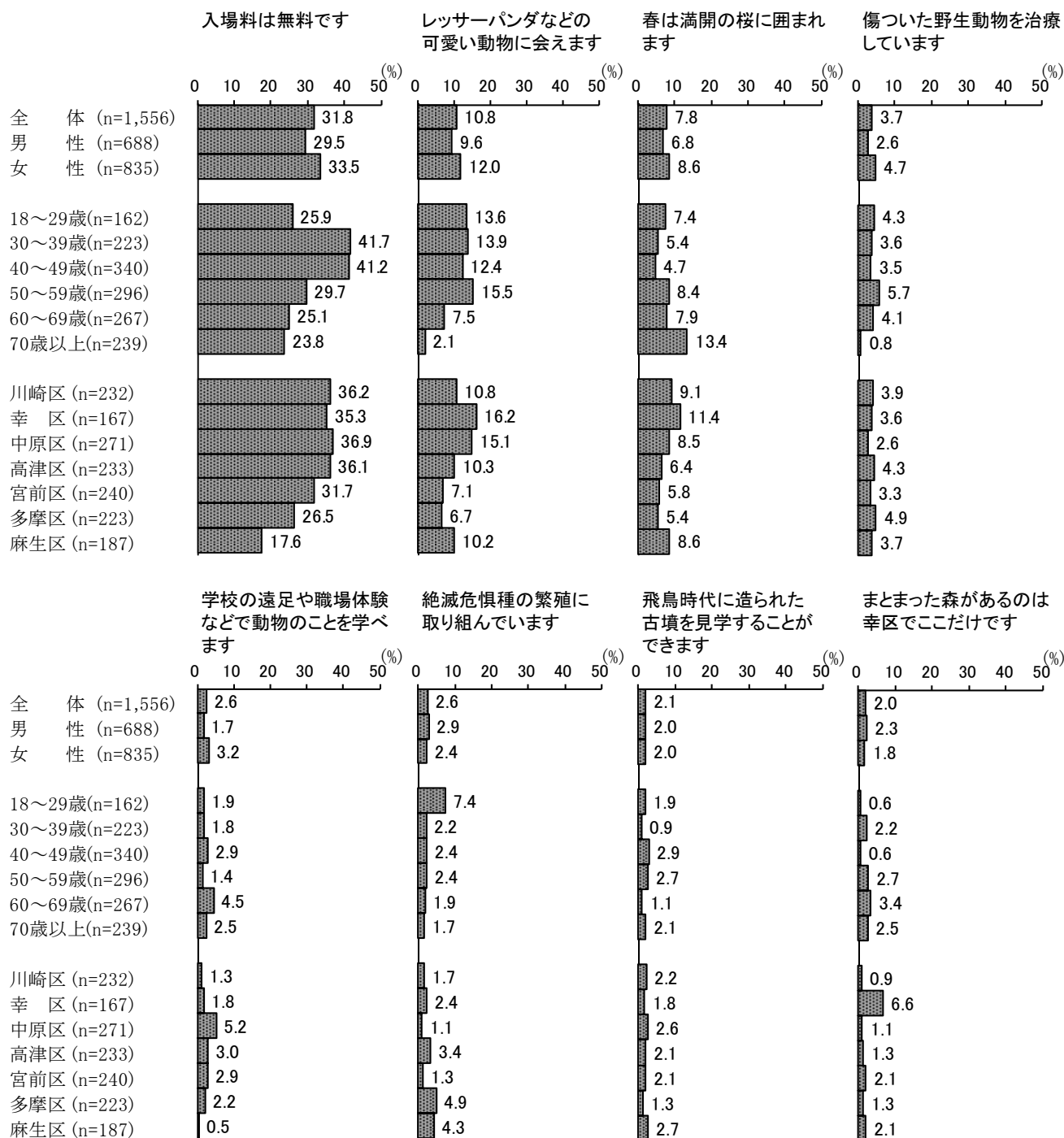
【図表 118】 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で一番に推すこと



夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で一番に推すことについて年齢別に見ると、「入場料は無料です」は30～39歳と40～49歳で4割を超えて多くなっている。「レッサーパンダなどの可愛い動物に会えます」は50歳代以下の年齢層では1割を超えているが、60～69歳と70歳以上では比較的少ない。また、「春は満開の桜に囲まれます」は70歳以上が最も多く、「絶滅危惧種の繁殖に取り組んでいます」は18～29歳が最も多くなっている。

居住区別に見ると、「レッサーパンダなどの可愛い動物に会えます」、「春は満開の桜に囲まれます」、「まとまった森があるのは幸区でここだけです」の3項目で幸区が最も多くなっている。

【図表 119】 夢見ヶ崎動物公園の特徴や魅力で一番に推すこと <<上位8項目>>
(性別、年齢別、居住区別)

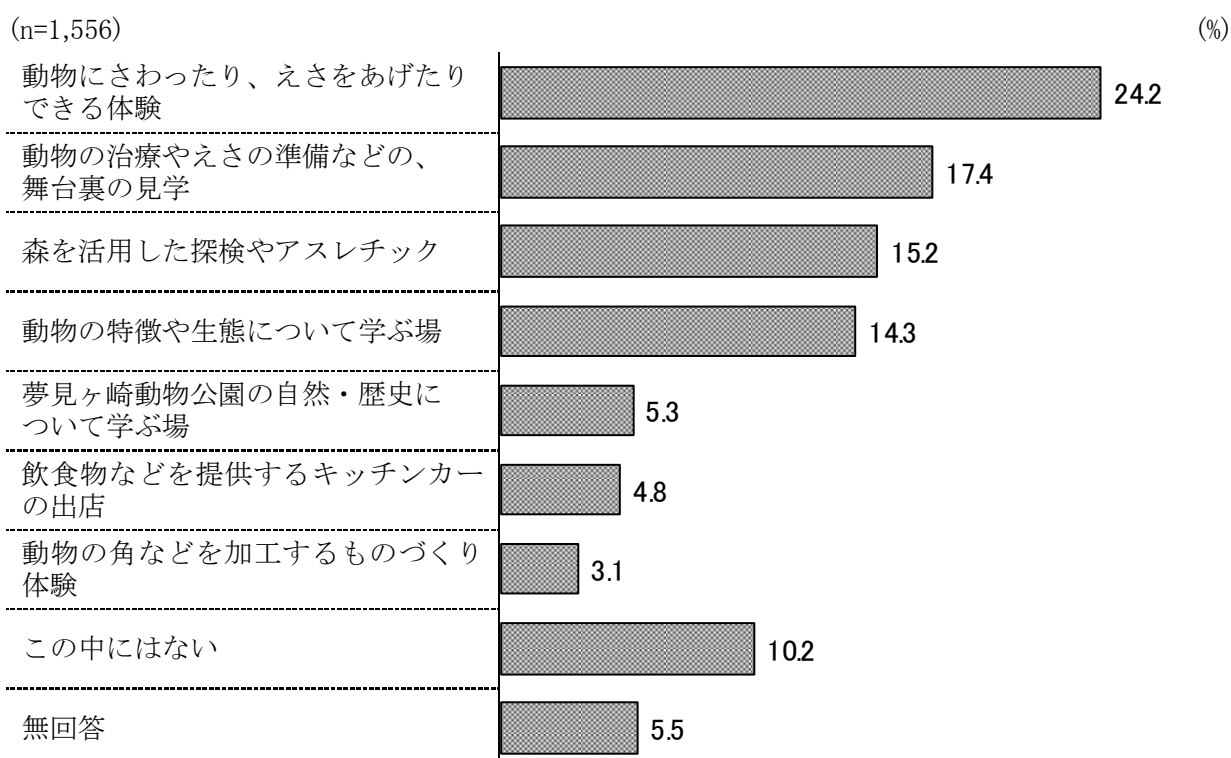


(4) 夢見ヶ崎動物公園の特徴を活用した取組について

問 15. 夢見ヶ崎動物公園の特徴を活用した取組として、次のような取組を考えています。あなたが最も魅力を感じる取組はどれですか。最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

「動物にさわったり、えさをあげたりできる体験」が24.2%と最も多く、次いで「動物の治療やえさの準備などの、舞台裏の見学」(17.4%)、「森を活用した探検やアスレチック」(15.2%)、「動物の特徴や生態について学ぶ場」(14.3%)と続いている。

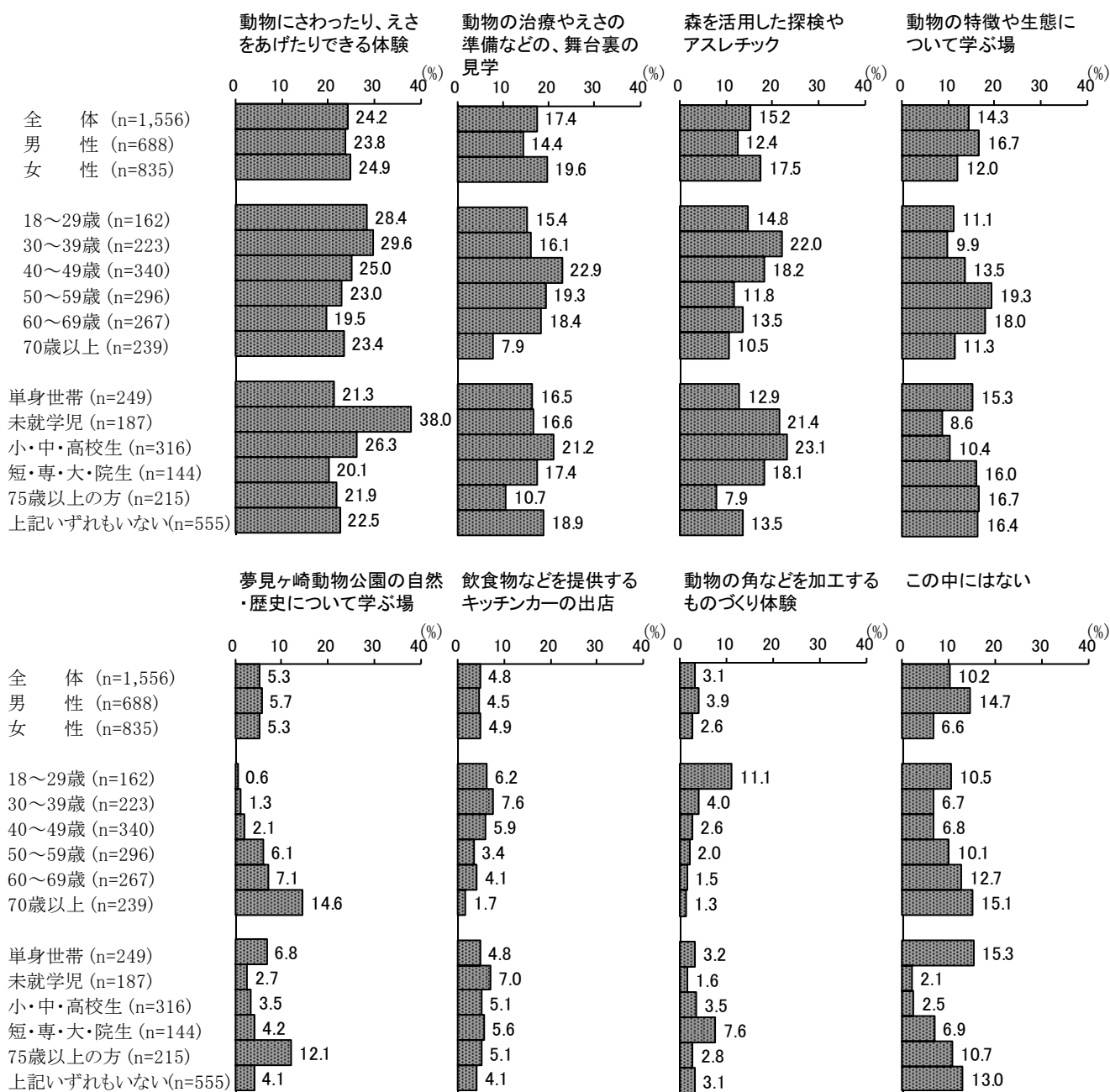
【図表 120】 夢見ヶ崎動物公園の取組で魅力を感じるもの



夢見ヶ崎動物公園の取組で魅力を感じるものについて年齢別に見ると、「夢見ヶ崎動物公園の自然・歴史について学ぶ場」は年齢が上がるほど多くなっているが、「飲食物などを提供するキッチンカーの出店」と「動物の角などを加工するものづくり体験」では概ね年齢が上がるほど少なくなっている。

同居者別に見ると、「動物にさわったりえさをあげたりできる体験」と「飲食物などを提供するキッチンカーの出店」は「未就学児」と同居している人で最も多い。また、「動物の治療やえさの準備などの、舞台裏の見学」は「小・中・高校生」と同居している人で最も多くなっている。

【図表 121】 夢見ヶ崎動物公園の取組で魅力を感じるもの
(性別、年齢別、同居者別)



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

(5) 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

問 16. 夢見ヶ崎動物公園をより多くの方に、楽しく、快適に利用していただくために、市では限りある予算をどのように使うかを検討しています。
そこでしょうかいますが、夢見ヶ崎動物公園のリニューアルに関して、AとBの考え方はどちらの方があなたのお考えに近いですか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- ① A:「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである
B:「公園」の機能を充実させるため、広場や遊具の使いやすさの改修に力を入れるべきである

【Aに近い】が68.9%と、『「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 122】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

A:「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである
B:「公園」の機能を充実させるため、広場や遊具の使いやすさの改修に力を入れるべきである



(n=1,556)

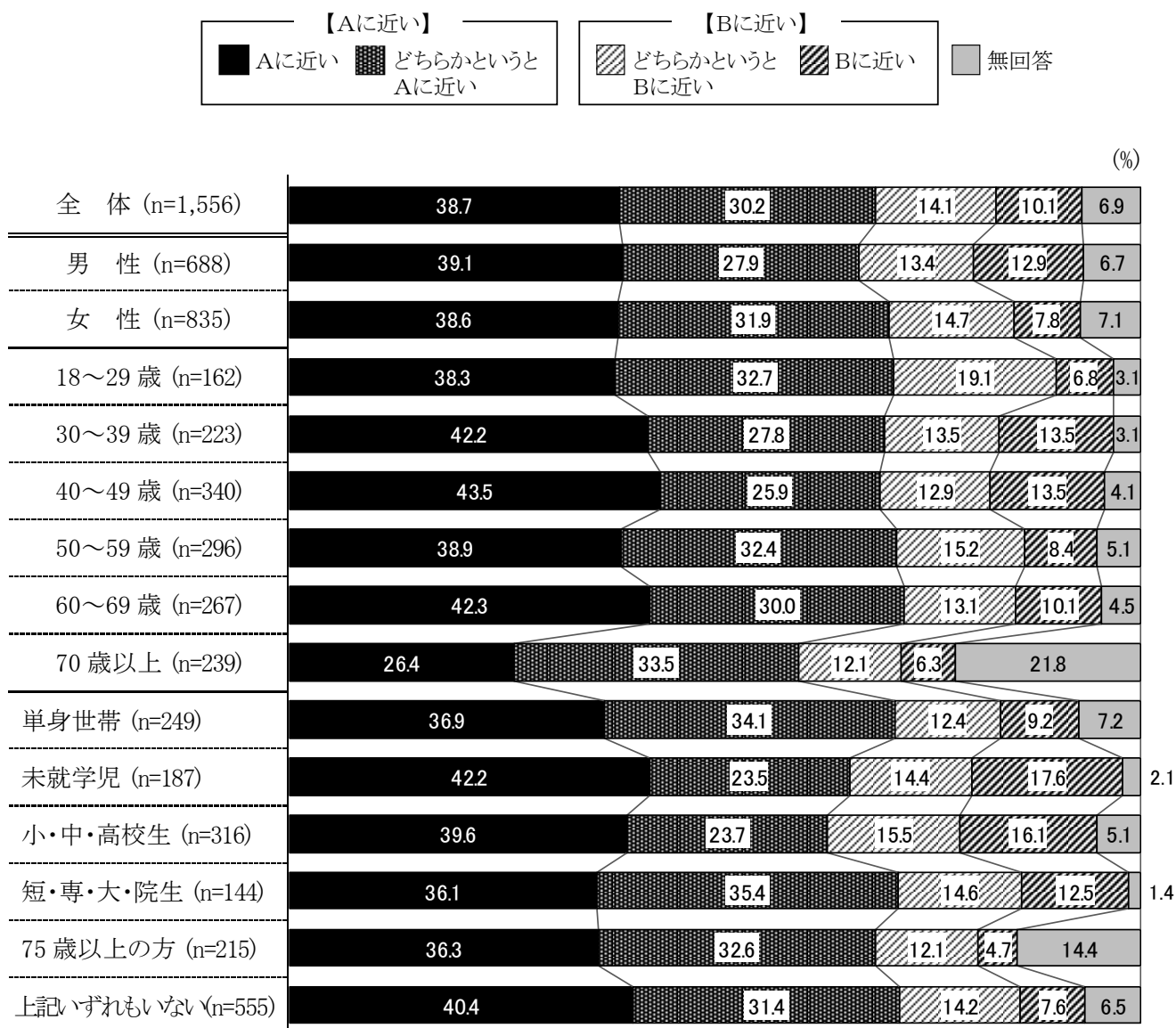


年齢別に見ると、【Aに近い】(「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである)は60歳代以下の年齢層では7割前後であるが、70歳以上では6割を下回っている。

同居者別に見ると、「未就学児」、「小・中・高校生」と同居している人で【Bに近い】(「公園」の機能を充実させるため、広場や遊具の使いやすさの改修に力を入れるべきである)が3割を超え、高くなっている。

【図表 123】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え (性別、年齢別、同居者別)

A : 「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである
 B : 「公園」の機能を充実させるため、広場や遊具の使いやすさの改修に力を入れるべきである



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

- ② A: 野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たい
B: 野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たいとは思わない

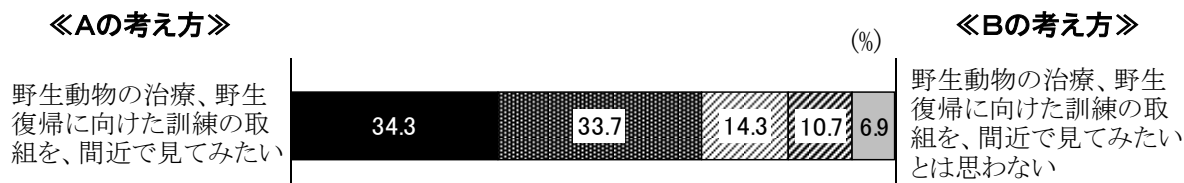
【Aに近い】が68.1%と、『野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たい』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 124】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

- A : 野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たい
- B : 野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たいとは思わない



(n=1,556)

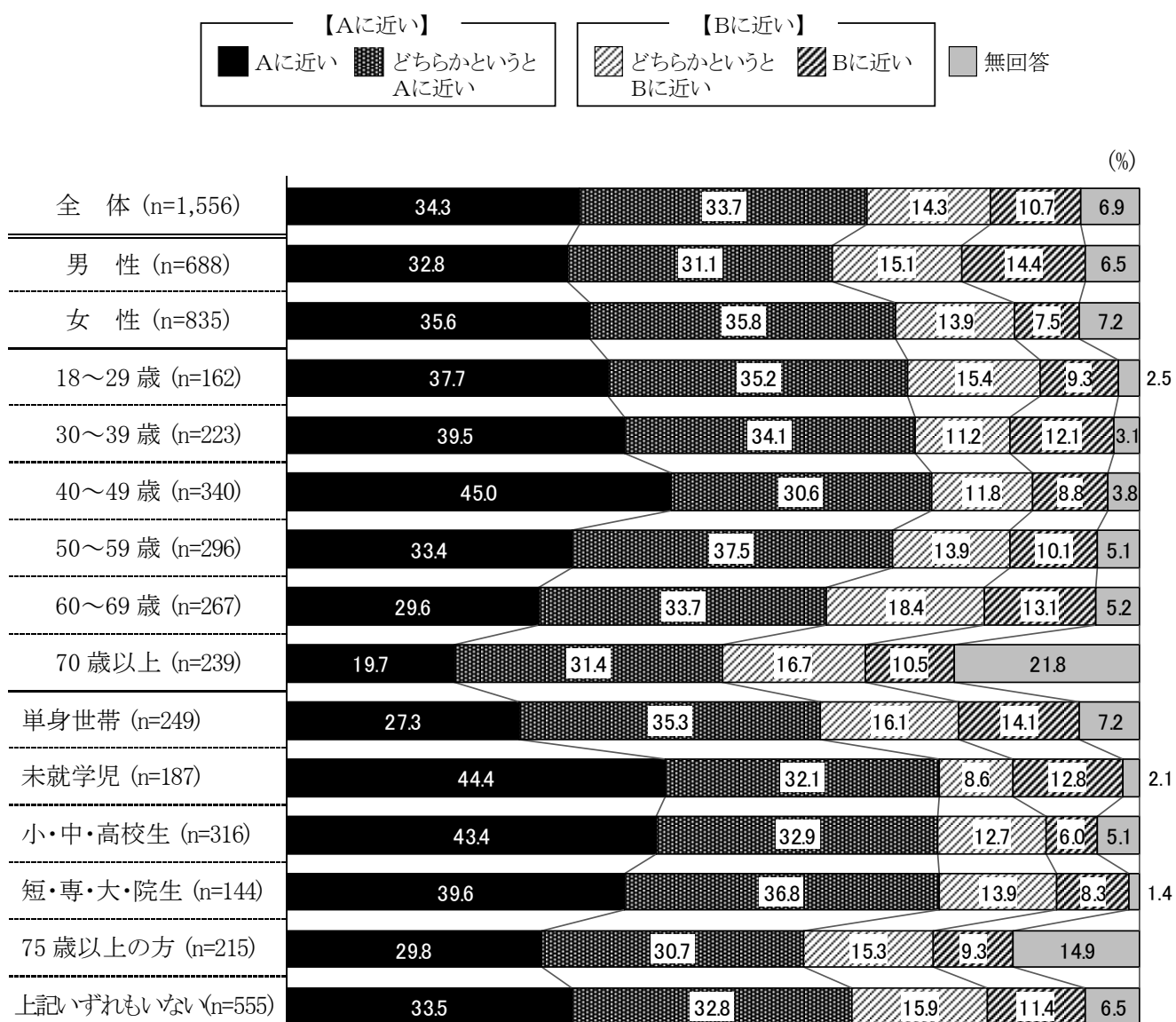


年齢別に見ると、【Aに近い】(野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たい)は50歳代以下の年齢層では7割を超えているが、60～69歳では6割台、70歳以上では約5割と少なくなっている。

同居者別に見ると、「未就学児」、「小・中・高校生」、「短・専・大・院生」と同居している人で【Aに近い】が75%を超えて多くなっている。

【図表 125】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え (性別、年齢別、同居者別)

〔 A : 野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たい
 B : 野生動物の治療、野生復帰に向けた訓練の取組を、間近で見たいとは思わない 〕



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

- ③ A: 夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、イベント等で賑わう非日常な雰囲気を求めたい
B: 夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、静かに散歩や展示動物などを楽しめる雰囲気を求めたい

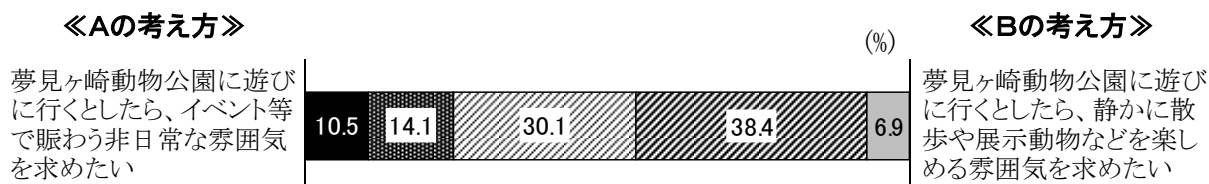
【Bに近い】が68.5%と、『夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、静かに散歩や展示動物などを楽しめる雰囲気を求めたい』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 126】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

- A : 夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、イベント等で賑わう非日常な雰囲気を求めたい
B : 夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、静かに散歩や展示動物などを楽しめる雰囲気を求めたい



(n=1,556)

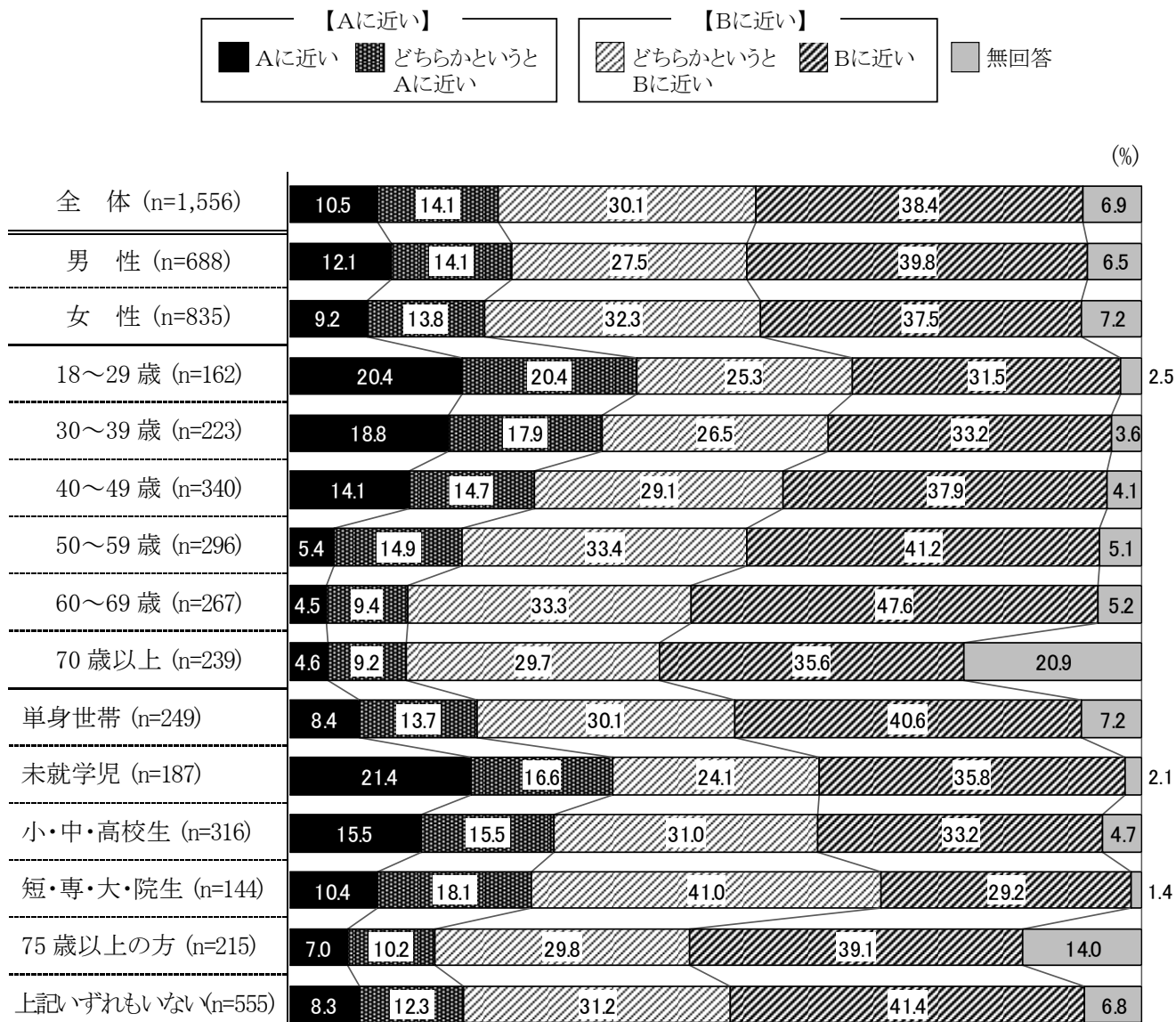


年齢別に見ると、【Bに近い】(夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、静かに散歩や展示動物などを楽しめる雰囲気を求めたい)は50～59歳で7割台半ば、60～69歳では8割を超えて多くなっているが、18～29歳と30～39歳では6割を下回っている。

同居者別に見ると、「未就学児」、「小・中・高校生」と同居している人では【Aに近い】(夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、イベント等で賑わう非日常的な雰囲気を求めたい)が比較的多くなっている。

【図表 127】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え (性別、年齢別、同居者別)

A : 夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、イベント等で賑わう非日常的な雰囲気を求めたい
 B : 夢見ヶ崎動物公園に遊びに行くとしたら、静かに散歩や展示動物などを楽しめる雰囲気を求めたい



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

④ A: 全て無料で利用できる施設・イベントの方がよい

B: 動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい

【Bに近い】が61.8%と、『動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

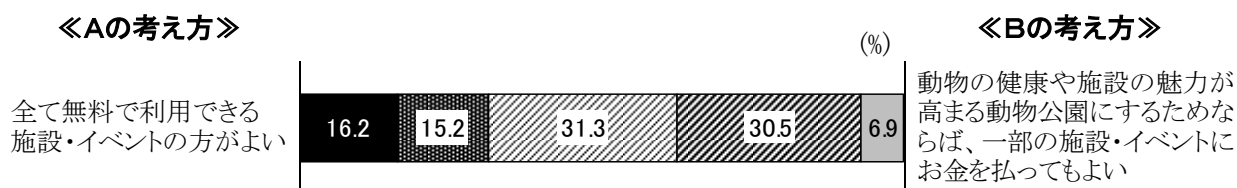
【図表 128】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

A: 全て無料で利用できる施設・イベントの方がよい

B: 動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい



(n=1,556)

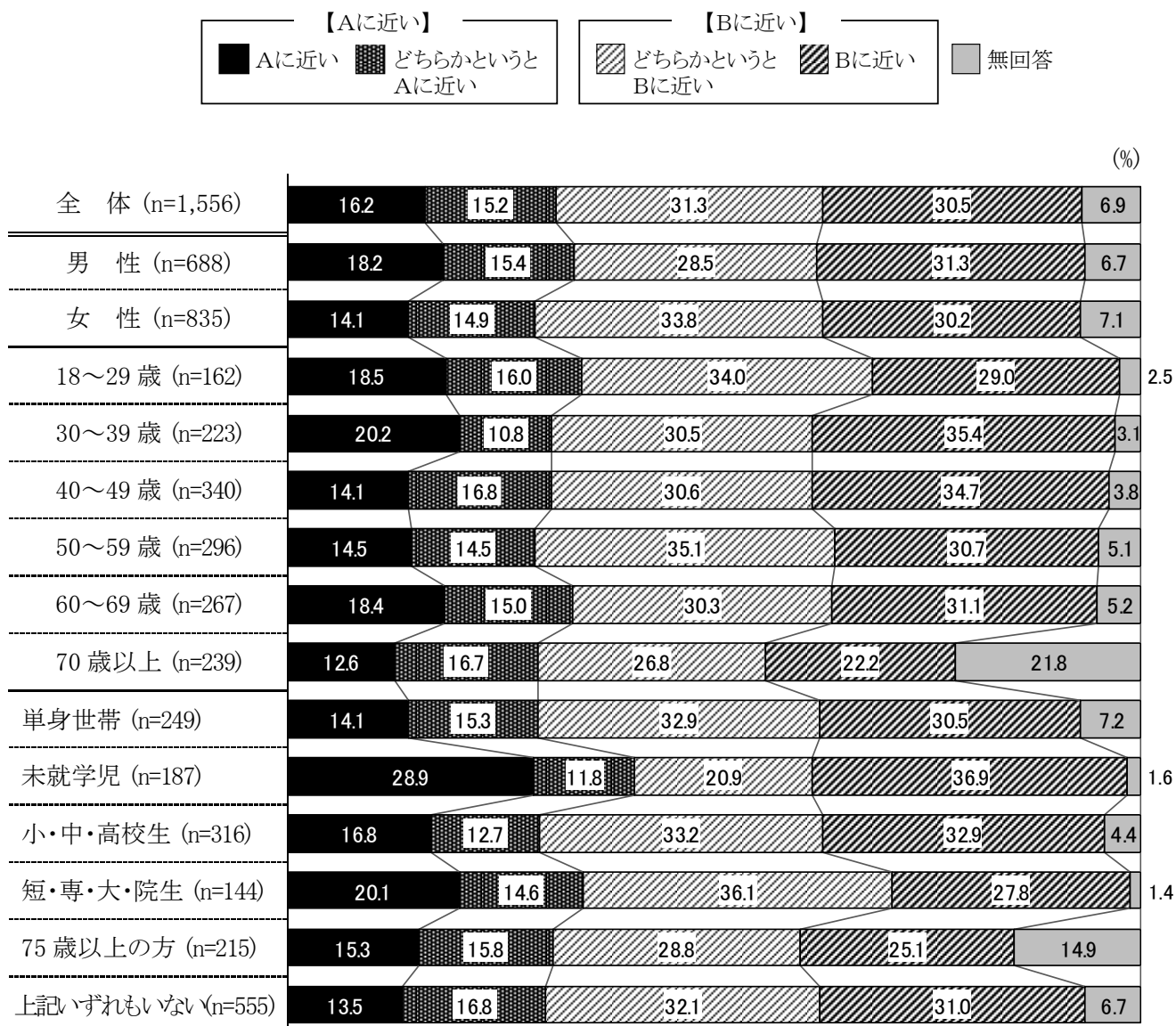


年齢別に見ると、【Bに近い】(動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい)は60歳代以下の年齢層では6割台であるが、70歳以上では5割を下回った。

同居者別に見ると、「未就学児」と同居している人では【Aに近い】(全て無料で利用できる施設・イベントの方がよい)が約4割と比較的多い。

【図表 129】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え (性別、年齢別、同居者別)

- A : 全て無料で利用できる施設・イベントの方がよい
- B : 動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

2.6 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う生活の変化について

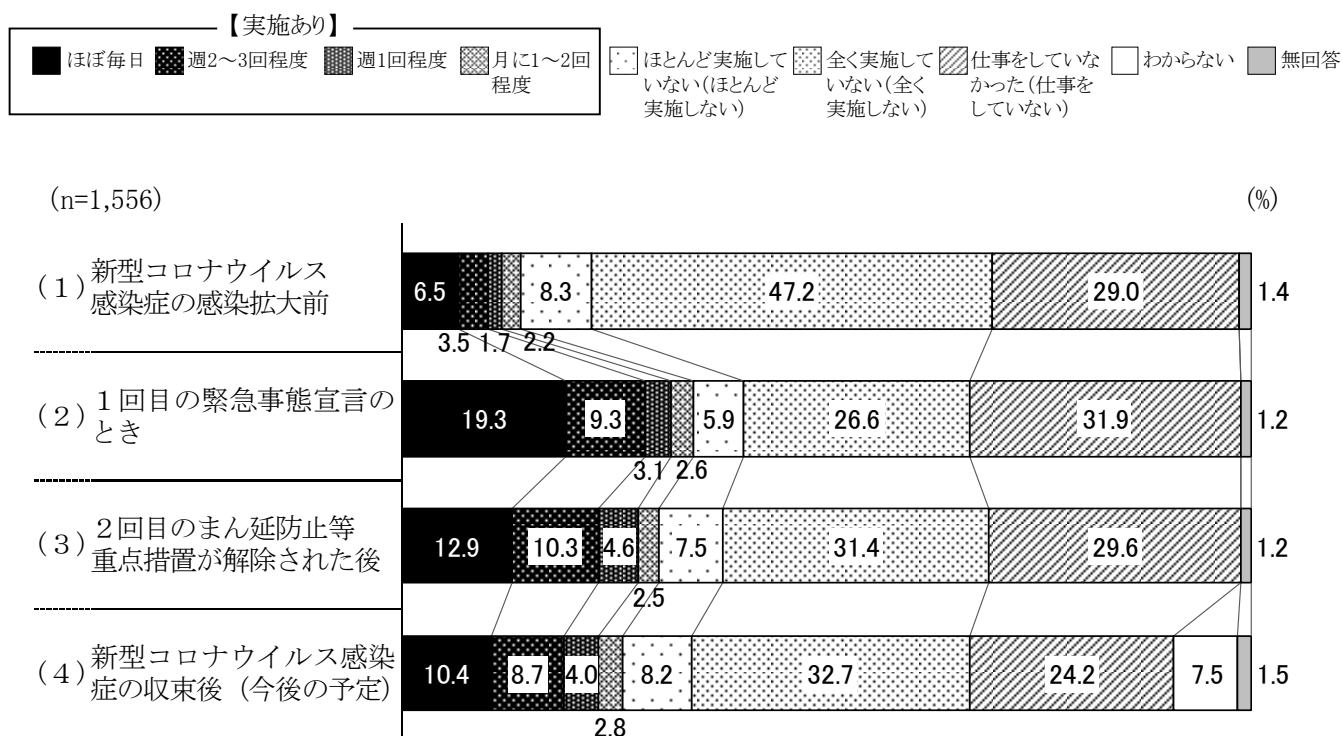
(1) テレワークの実施状況

問 17. あなたのテレワークの実施頻度についてうかがいます。(1) から (4) それぞれの時期ごとに、最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前 (2019(令和元)年 11 月)
- (2) 1 回目の緊急事態宣言のとき (2020(令和 2)年 4 月 7 日から 5 月 25 日までの間)
- (3) 2 回目のまん延防止等重点措置が解除された後 (2022(令和 4)年 3 月 22 日以降)
- (4) 新型コロナウイルス感染症の収束後 (今後の予定を教えてください)

テレワークの実施頻度については【実施あり】(「ほぼ毎日」、「週 2～3 回程度」、「週 1 回程度」、「月に 1～2 回程度」の合計) は (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は 14.0%であったが、(2) 1 回目の緊急事態宣言のときの 34.3%をピークに、以降 (3) 2 回目のまん延防止等重点措置が解除された後は 30.3%、(4) 新型コロナウイルス感染症の収束後 (今後の予定) では 25.9%と下降しているものの、(1) の感染拡大前と比較して 11.9 ポイント高いという結果であった。

【図表 130】テレワークの実施状況

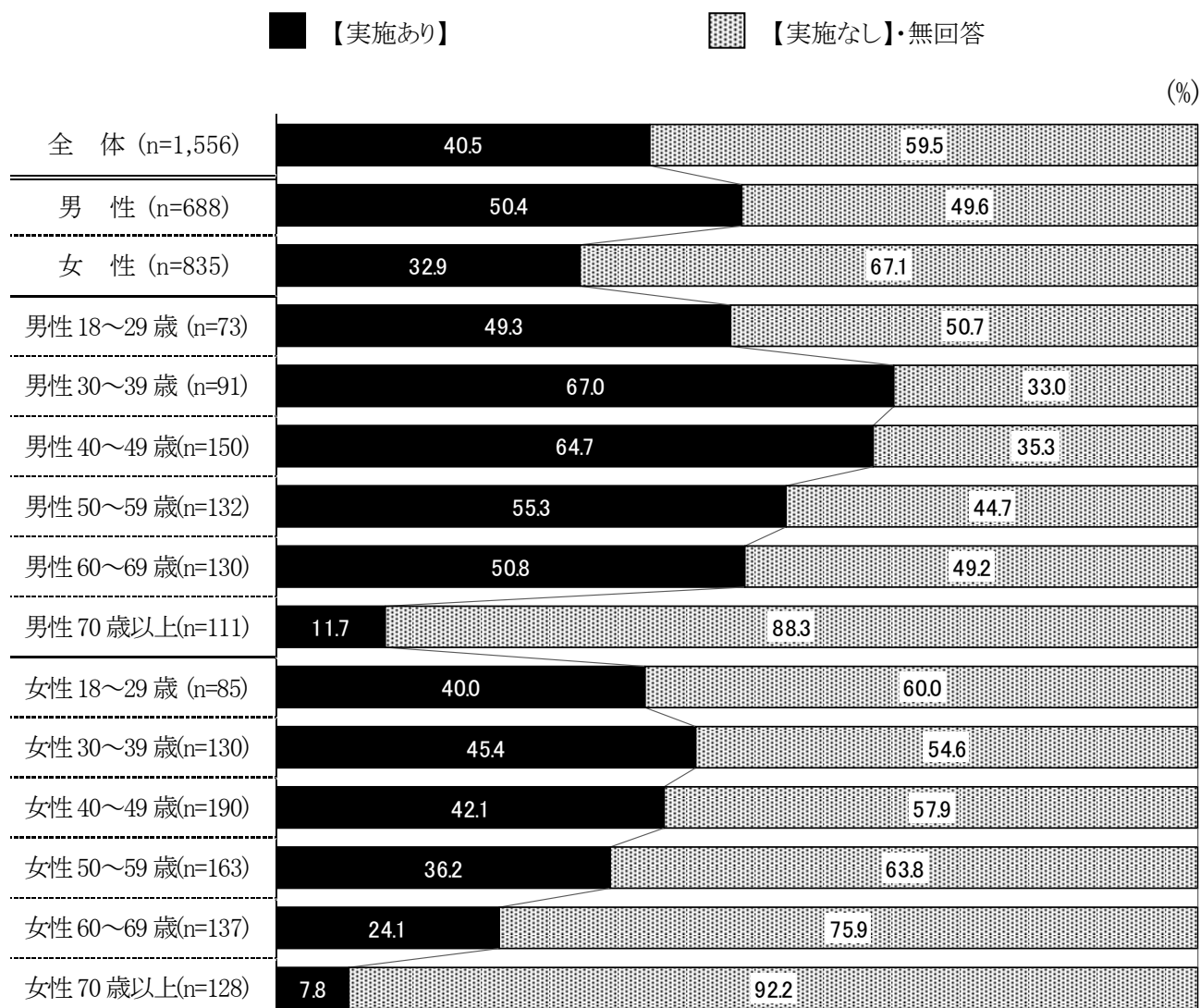


※「わからない」は(4)のみ設定。

(1)～(4)の時期について、いずれかで「ほぼ毎日」～「月1～2回程度」と回答した人を【実施あり】、それ以外を「【実施なし】・無回答」としたところ、全体では【実施あり】が40.5%、「【実施なし】・無回答」が59.5%であった。

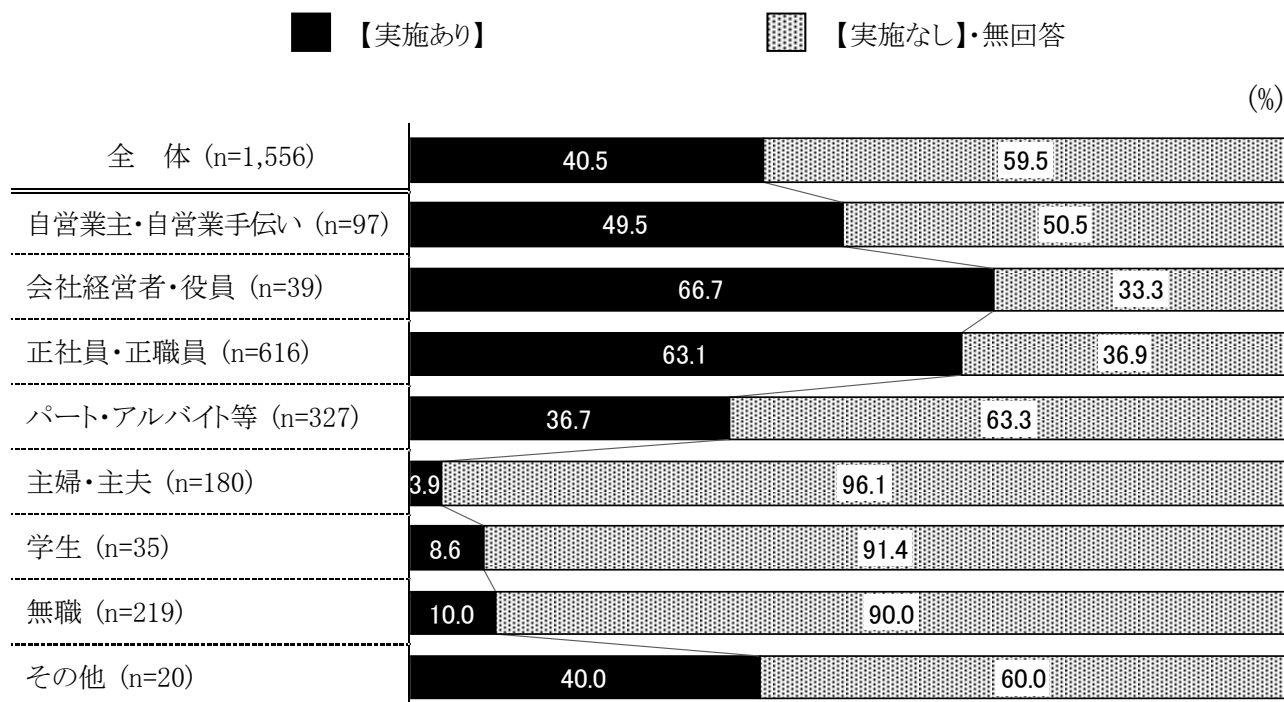
性/年齢別に見ると、【実施あり】はいずれの年代においても男性の方が多くなっている。また、男女ともに30～39歳が最も多く、そこから年齢が上がるほど少なくなり、70歳以上で最も少なくなっている。

【図表 131】テレワークの実施状況（性/年齢別）



職業別に見ると、【実施あり】は「会社経営者・役員」(66.7%)と「正社員・正職員」(63.1%)で6割を超えており、次いで「自営業主・自営業手伝い」(49.5%)、「パート・アルバイト等」(36.7%)と続いている。

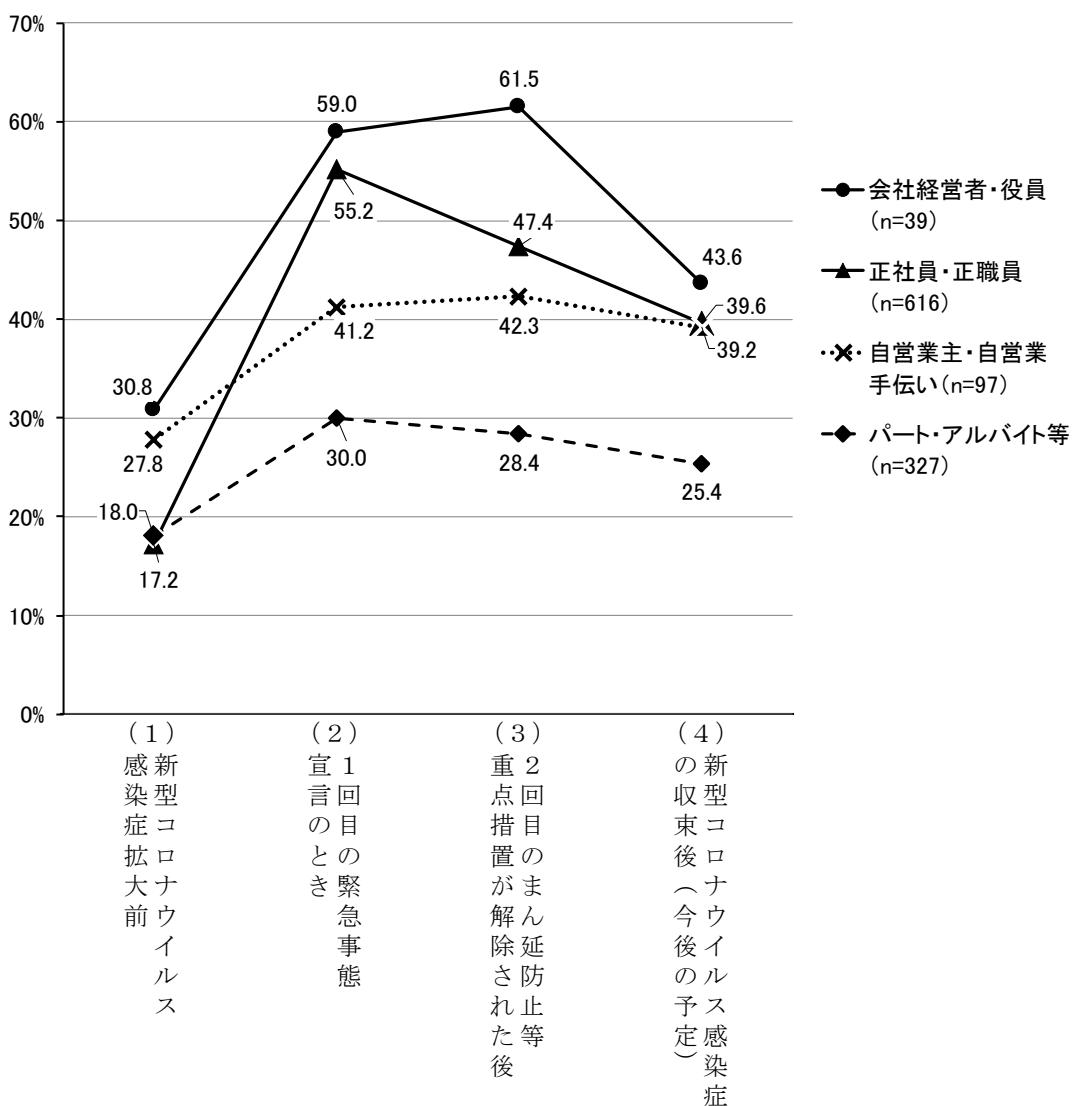
【図表 132】テレワークの実施状況（職業別）



※「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

就業者についてテレワークの実施状況の推移を職業別に見ると、【実施あり】は「会社経営者・役員」がいずれの時期においても最も多くなっている。「正社員・正職員」は(1)「新型コロナウイルス感染症拡大前」においては2割を下回り、「パート・アルバイト等」と同程度であったが、(2)「1回目の緊急事態宣言のとき」は「正社員・正職員」の方が25ポイント程度高くなり、それ以降も14～19ポイント程度の差がついている。

【図表 133】テレワーク実施状況の推移（テレワーク【実施あり】回答者／職業別）



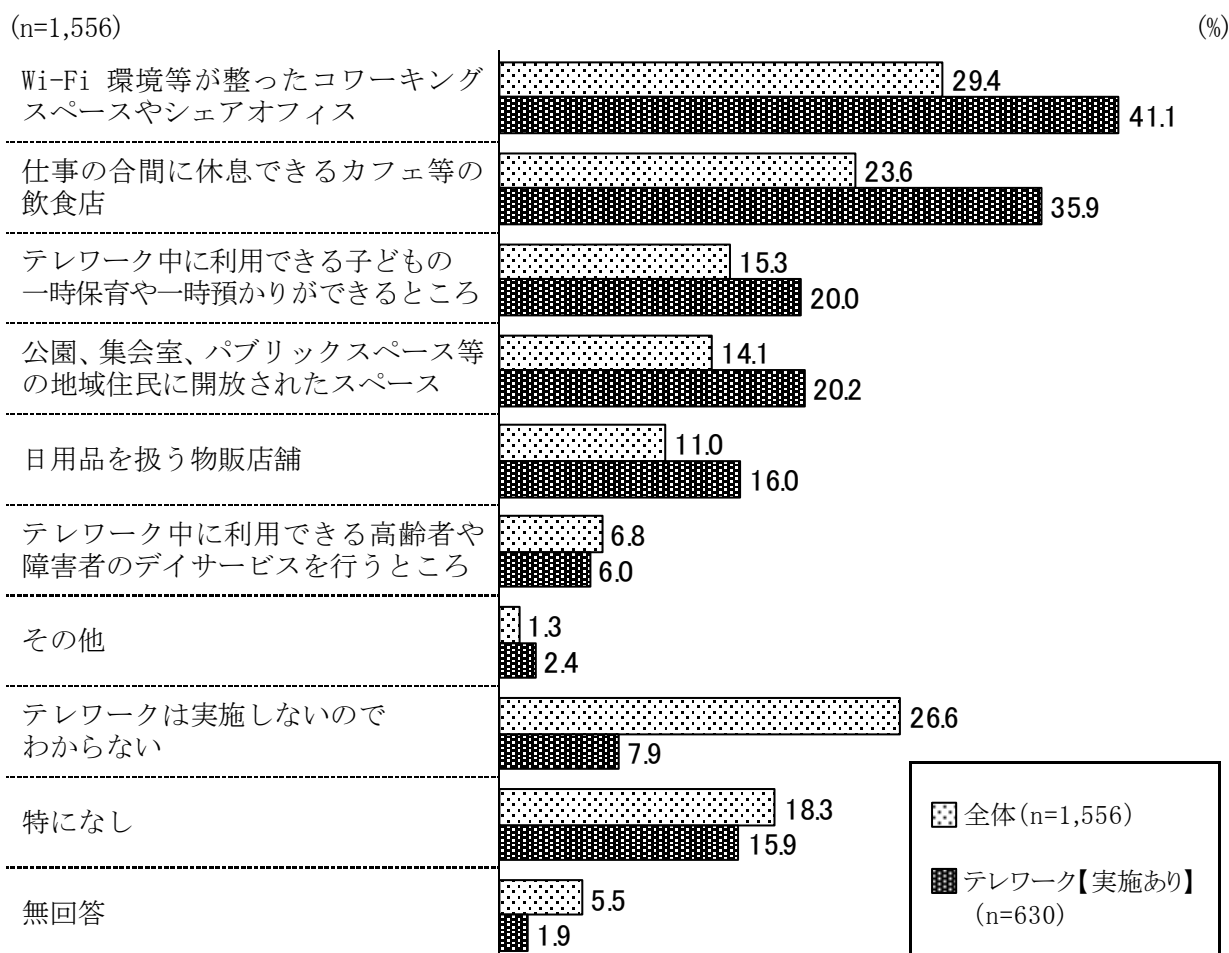
(2) テレワークが定着する中で身近にほしい場所

問 18. テレワークが定着する中で、あなたは住まいの身近なところにどのような場所があることを望みますか。

全体では、「Wi-Fi 環境等が整ったコワーキングスペースやシェアオフィス」が 29.4%と最も多く、次いで「仕事の合間に休息できるカフェ等の飲食店」(23.6%)、「公園、集会室、パブリックスペース等の地域住民に開放されたスペース」(15.3%)と続いている。

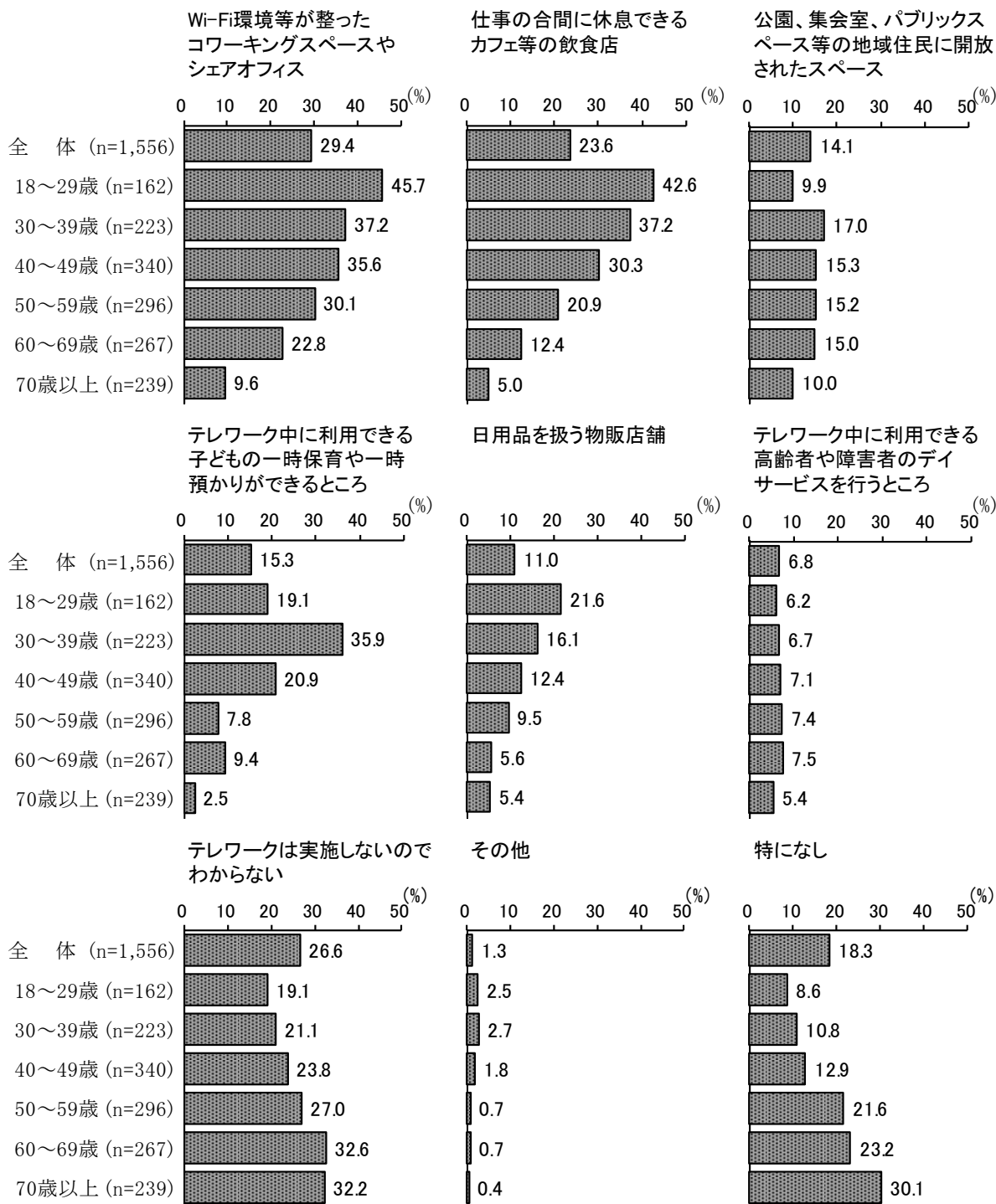
また、問 17 のテレワーク【実施あり】(148 ページ参照) 回答者について見ると、順位は全体とほぼ変わらないが、全体では 4 番目の「公園、集会室、パブリックスペース等の地域住民に開放されたスペース」が僅差ではあるが 3 番目へ順位が上がっている。

【図表 134】 テレワークが定着する中で身近にほしい場所



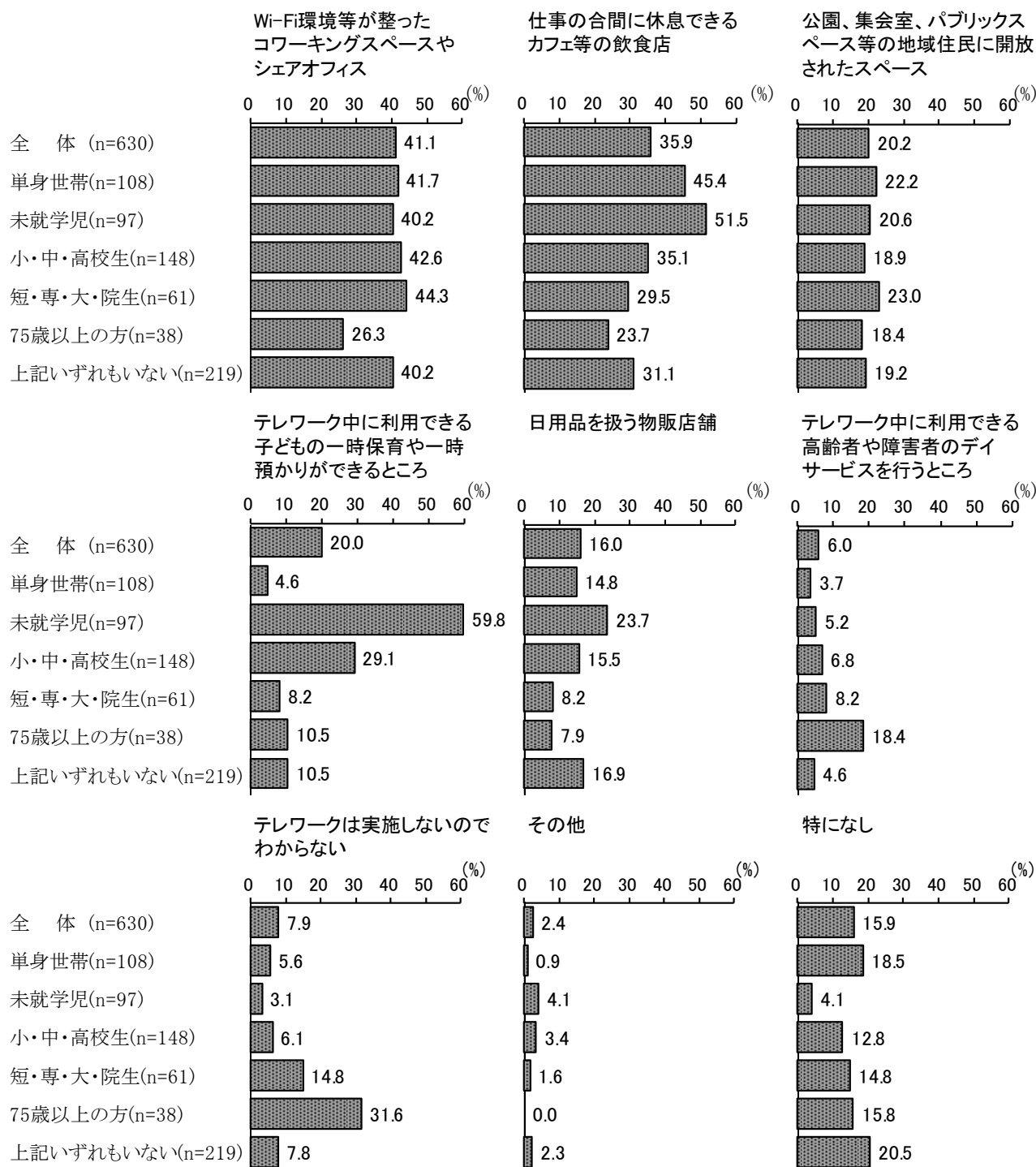
年齢別に見ると、「Wi-Fi環境等が整ったコワーキングスペースやシェアオフィス」、「仕事の合間に休息できるカフェ等の飲食店」、「日用品を扱う物販店舗」の3項目は18～29歳で最も多く、年齢が上がるほど少なくなっている。また、「テレワーク中に利用できる子どもの一時保育や一時預かりができる場所」は30～39歳で最も多い。一方で、「テレワークは実施しないのでわからない」と「特になし」は概ね年齢が上がるほど多くなっている。

【図表 135】テレワークが定着する中で身近にほしい場所（年齢別）



問17のテレワーク【実施あり】(148ページ参照)回答者について同居者別に見ると、「テレワーク中に利用できる子どもの一時保育や一時預かりができるところ」は「未就学児」と同居している人で約6割と多く、「小・中・高校生」と同居している人でも約3割となっている。「テレワーク中に利用できる高齢者や障害者のデイサービスを行うところ」は「75歳以上の方」と同居している人で18.4%と比較的多い。

【図表 136】テレワークが定着する中で身近にほしい場所
(テレワーク【実施あり】回答者/同居者別)



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

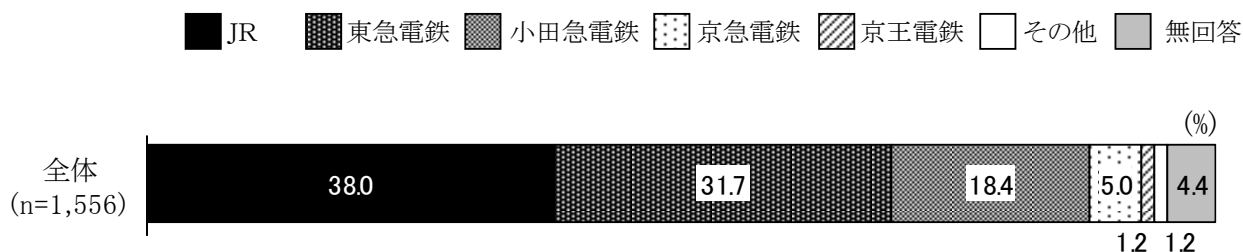
(3) 普段よく使う鉄道の最寄り駅

問 19. あなたが普段よく使う鉄道の最寄り駅はどちらですか。(自由記述)

<鉄道会社>

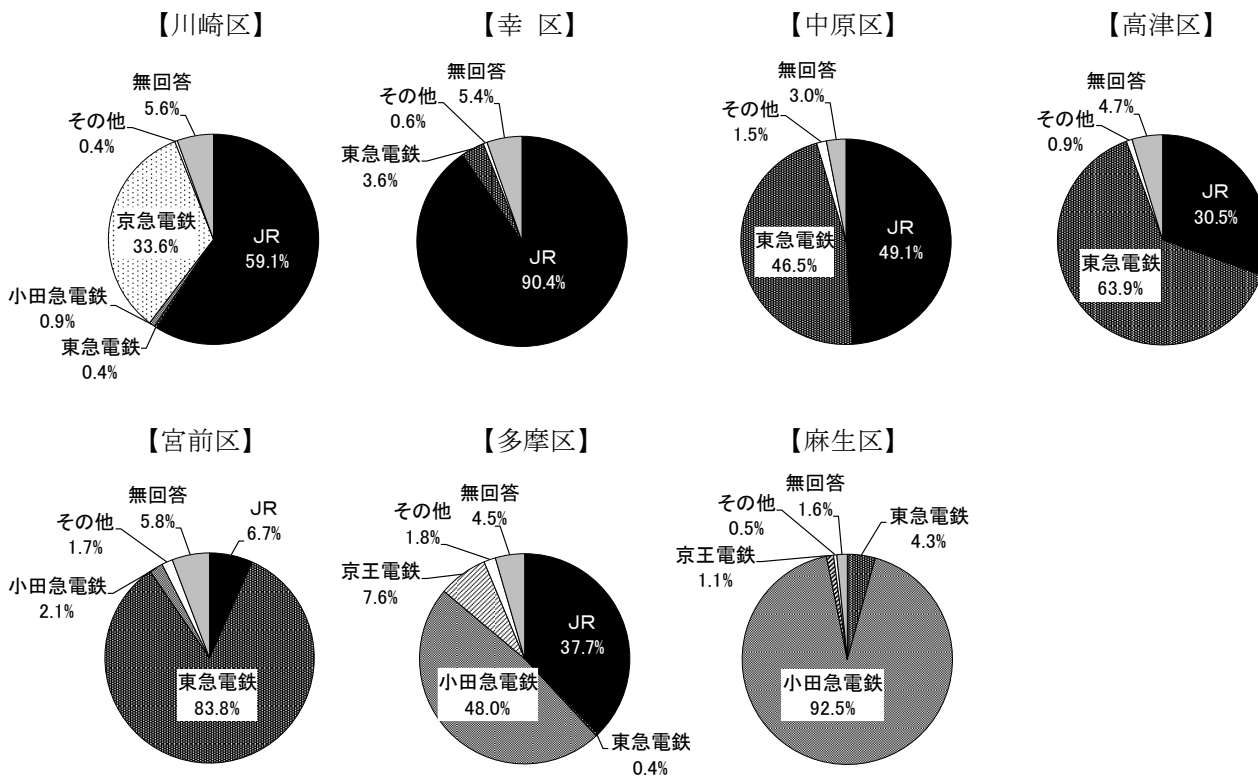
全体では、「JR」が38.0%と最も多く、次いで「東急電鉄」(31.7%)、「小田急電鉄」(18.4%)と続いている。

【図表 137】 普段よく使う鉄道の最寄り駅 <鉄道会社>



居住区別に見ると、川崎区、幸区、中原区では「JR」が最も多く、高津区と宮前区では「東急電鉄」、多摩区と麻生区では「小田急電鉄」が最も多かった。

【図表 138】 普段よく使う鉄道の最寄り駅 <鉄道会社> (居住区別)



<駅名>

駅名については、「川崎駅（JR）」が170人と最も多く、次いで「溝の口（東急電鉄）」が80人と続いており、これらの乗換駅を回答している人が多いが、非乗換駅では「武蔵新城」が73人と最も多い。

【図表 139】 普段よく使う鉄道の最寄り駅 <駅名>

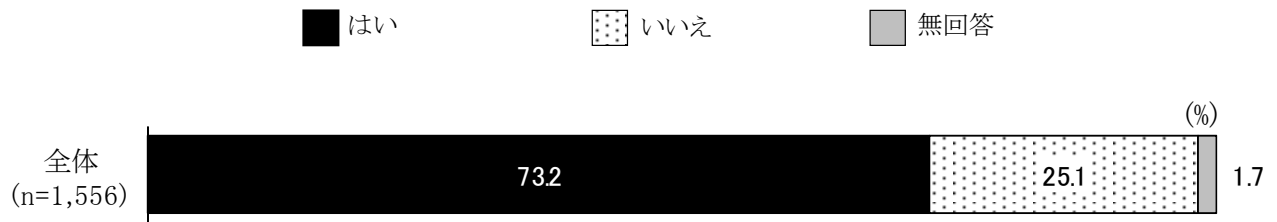
鉄道会社	駅名	回答者数	鉄道会社	駅名	回答者数
京急電鉄	港町	9	京王電鉄	京王稲田堤	16
	鈴木町	5		京王よみうりランド	1
	川崎大師	15		若葉台	1
	東門前	12	J R	川崎	170
	大師橋	6		新川崎	43
	小島新田	7		尻手	2
	京急川崎	14		矢向	20
	八丁畷	8		鹿島田	33
鶴見市場	1	平間		24	
東急電鉄	新丸子	26		向河原	3
	武蔵小杉	49		武蔵小杉	40
	元住吉	59		武蔵中原	48
	日吉	11		武蔵新城	73
	二子新地	20		武蔵溝ノ口	23
	高津	19		津田山	3
	溝の口	80		久地	21
	梶が谷	37		宿河原	13
	宮崎台	51		登戸	11
	宮前平	42		中野島	23
	鷺沼	61		稲田堤	18
	たまプラーザ	21		矢野口	4
	あざみ野	6		川崎新町	2
小田急電鉄	登戸	34	小田栄	6	
	向ヶ丘遊園	36	浜川崎	1	
	生田	29	横浜市営 地下鉄	センター北	2
	読売ランド前	18		あざみ野	1
	百合ヶ丘	25		その他	31
	新百合ヶ丘	71		不明・無回答	88
	鶴川	6			
	柿生	24			
	五月台	12			
	栗平	9			
	黒川	6			
	はるひ野	6			

(4) 徒歩圏について

問 20. あなたの自宅から最寄り駅までは徒歩圏ですか。

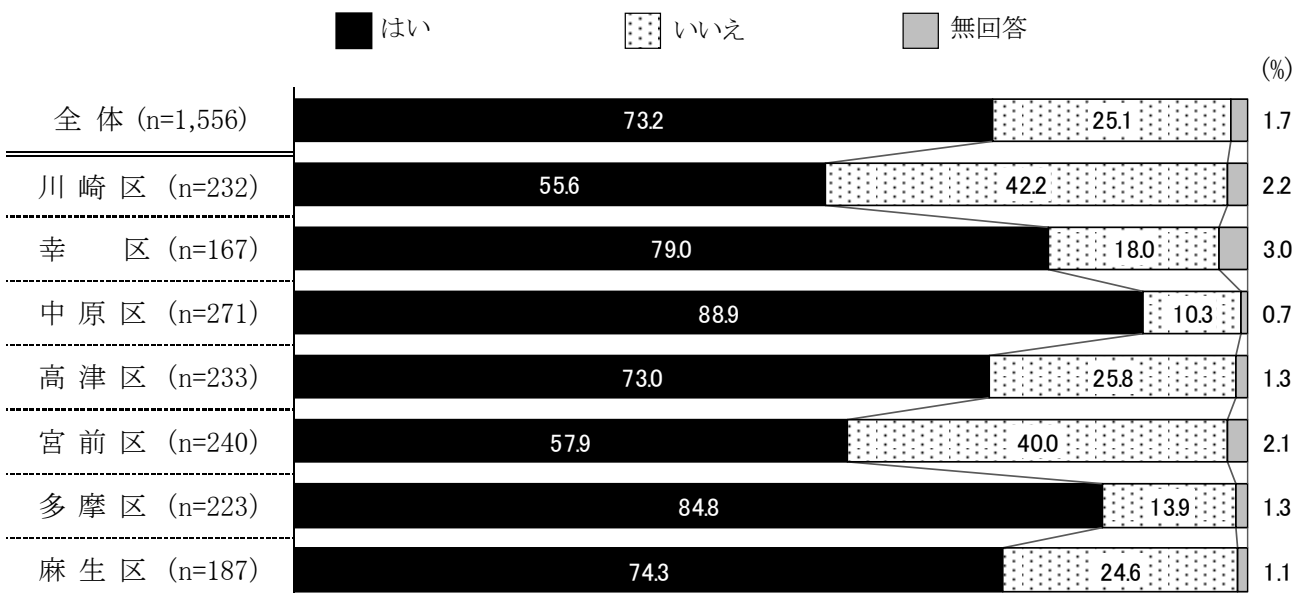
自宅から最寄り駅までは徒歩圏であるかどうかについては、「はい」が73.2%であった。

【図表 140】自宅から最寄り駅までは徒歩圏かどうか



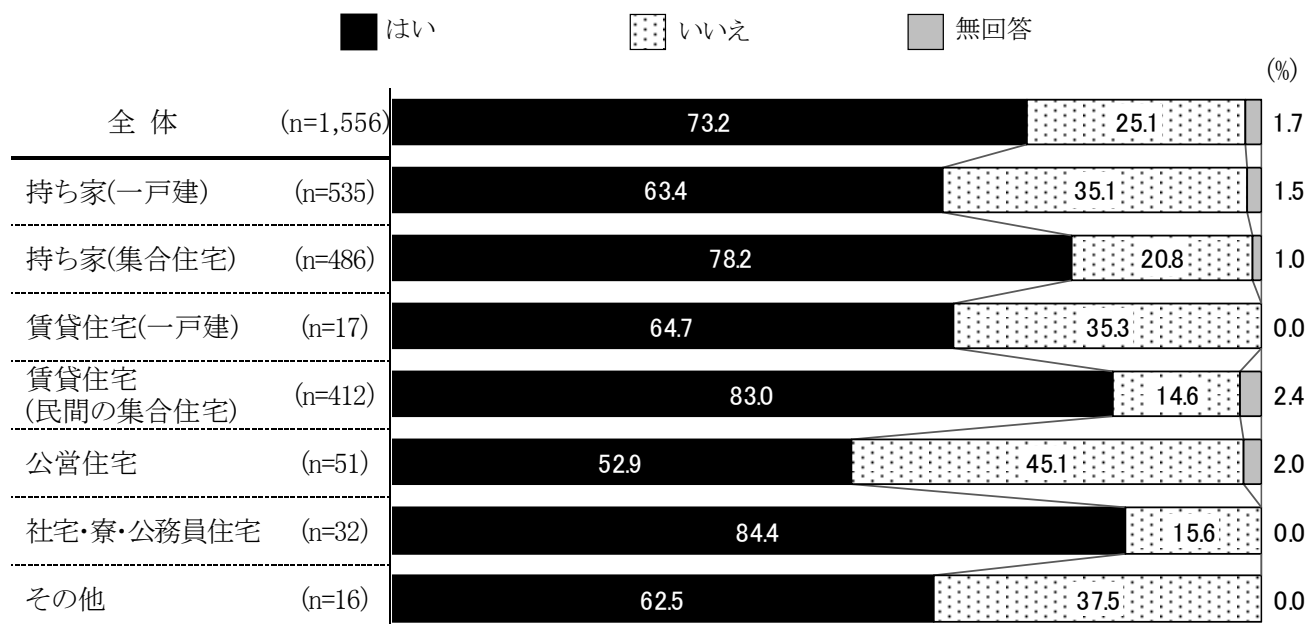
居住区別に見ると、「はい」は中原区(88.9%)と多摩区(84.8%)で8割台であり、幸区(79.0%)、麻生区(74.3%)、高津区(73.0%)が7割台、宮前区(57.9%)と川崎区(55.6%)は5割台であった。

【図表 141】自宅から最寄り駅までは徒歩圏かどうか(居住区別)



住居形態別に見ると、「はい」は「社宅・寮・公務員住宅」(84.4%)と「賃貸住宅(民間の集合住宅)」(83.0%)で8割台であり、「持ち家(集合住宅)」(78.2%)、「持ち家(一戸建)」(63.4%)と続き、「公営住宅」(52.9%)は5割台であった。

【図表 142】自宅から最寄り駅までは徒歩圏かどうか(住居形態別)



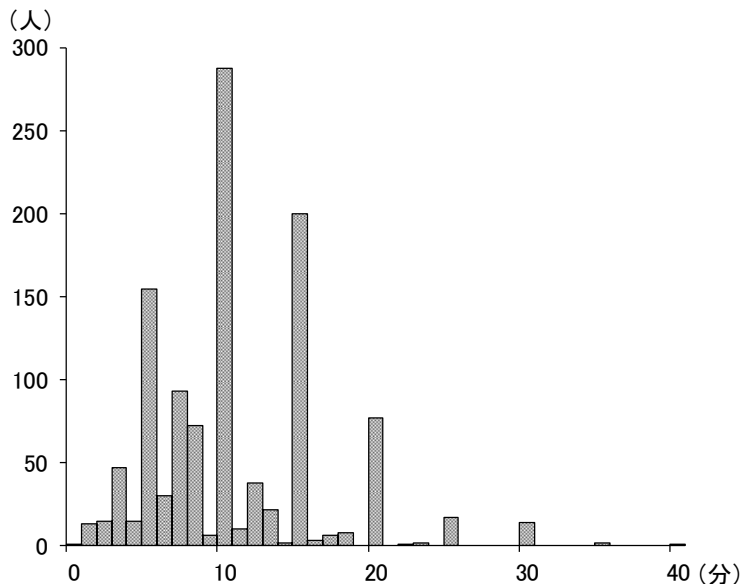
※「賃貸住宅(一戸建)」と「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

徒歩圏の場合の所要時間

徒歩圏であると回答した人に所要時間をたずねたところ、5分以内との回答が21.6%、10分以内が64.5%となっている。平均は10.6分であった。

【図表 143】 自宅から最寄り駅までの所要時間 [徒歩圏の場合]

所要時間(分)	回答数	累積%
0分	1	0.1
1分	13	1.2
2分	15	2.5
3分	47	6.7
4分	15	8.0
5分	155	21.6
6分	30	24.2
7分	93	32.4
8分	72	38.7
9分	6	39.2
10分	288	64.5
11分	10	65.4
12分	38	68.7
13分	22	70.7
14分	2	70.9
15分	200	88.4
16分	3	88.7
17分	6	89.2
18分	8	89.9
19分	0	89.9
20分	77	96.7
21分	0	96.7
22分	1	96.8
23分	2	96.9
24分	0	96.9
25分	17	98.4
26分	0	98.4
27分	0	98.4
28分	0	98.4
29分	0	98.4
30分	14	99.6
31分	0	99.6
32分	0	99.6
33分	0	99.6
34分	0	99.6
35分	2	99.8
36分	0	99.8
37分	0	99.8
38分	0	99.8
39分	0	99.8
40分	1	99.9
無回答	1	100.0
合計	1,139	



(5) 自宅から最寄り駅までの交通手段

問 21. 問 20 で「いいえ」と回答した方にうかがいます。
あなたは自宅から最寄り駅まで主にどのような交通手段をご利用になりますか。

問 20 で「いいえ」(徒歩圏ではない)と回答した人に、自宅から最寄り駅の主な交通手段をたずねたところ、「路線バス」が 65.7%と最も多く、次いで「自転車」(24.6%)、「自家用車(送迎を含む)」(6.1%)と続いている。

【図表 144】自宅から最寄り駅までの交通手段〔徒歩圏でない場合〕



自宅から最寄り駅までの交通手段

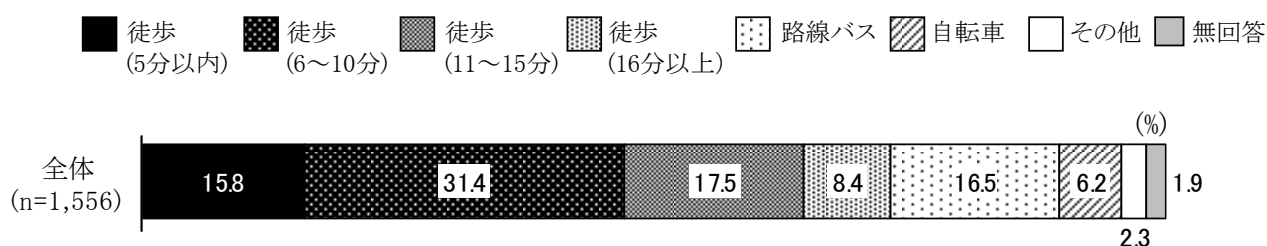
問 20 と問 21 の回答状況から、自宅から最寄り駅までの交通手段を下記のとおり分類した。

問 20	所要時間	問 21
はい (徒歩圏である)	5分以内	
	6～10分	
	11～15分	
	16分以上	
いいえ (徒歩圏ではない)		路線バス
		自転車
		原付・バイク、自家用車(送迎を含む)、其他的手段

※問 20、問 20 の所要時間、問 21 のいずれかに回答していない場合は「無回答」とした。

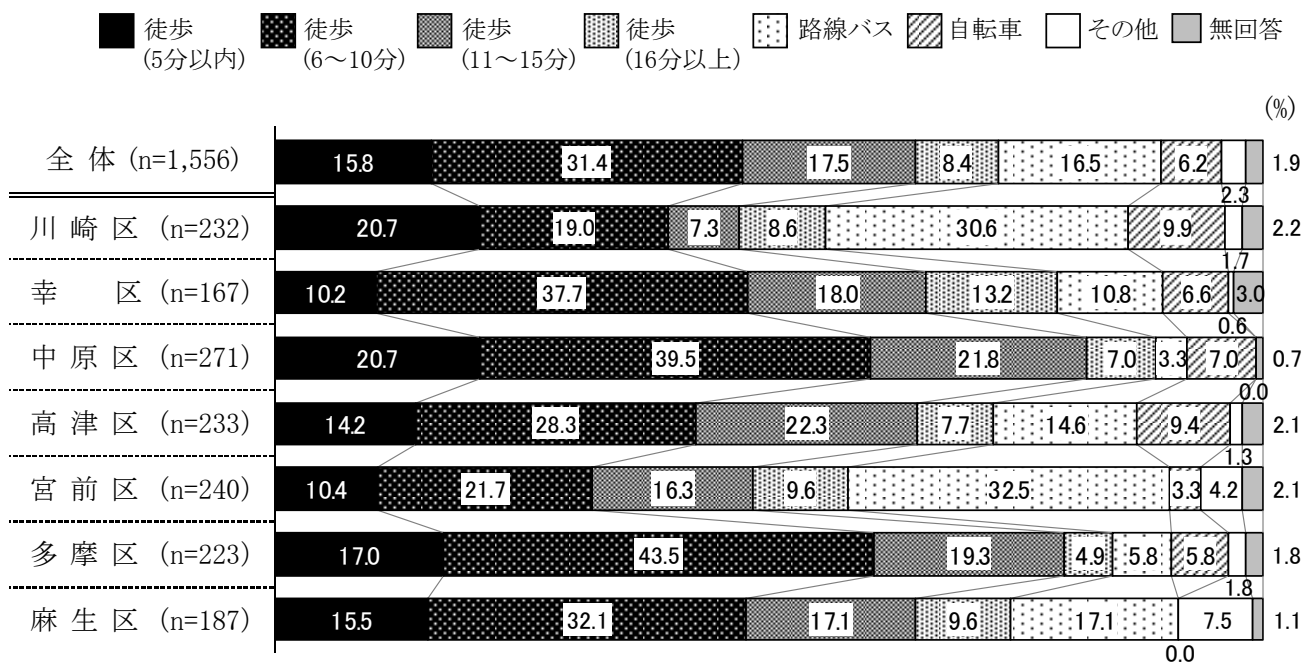
全体では、「徒歩(6～10分)」が 31.4%と最も多く、次いで「徒歩(11～15分)」(17.5%)、「路線バス」(16.5%)、「徒歩(5分以内)」(15.8%)と続いている。

【図表 145】自宅から最寄り駅までの交通手段



居住区別に見ると、川崎区は「徒歩」全体では5割台半ばと他の区と比べて最も少ないが、「徒歩(5分以内)」だけで見ると20.7%と中原区と同率で最も多くなっている。また、「路線バス」は川崎区と宮前区で3割を超えているが、中原区と多摩区では1割を下回っている。

【図表 146】 自宅から最寄り駅までの交通手段 (居住区別)

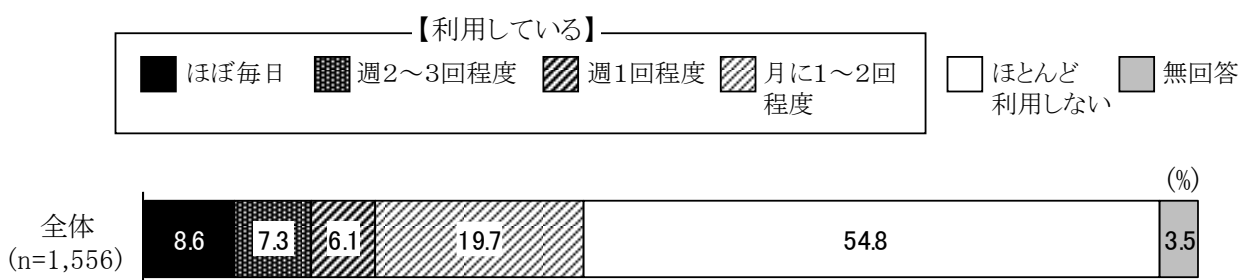


(6) 市内の路線バスの利用頻度

問 22. あなたは普段、どの程度市内の路線バスを利用していますか。(自宅からの利用には限りません)

「ほとんど利用しない」が 54.8%と半数を超えている。【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計)は 41.7%であり、そのうち「月に1～2回程度」(19.7%)が最も多くなっている。

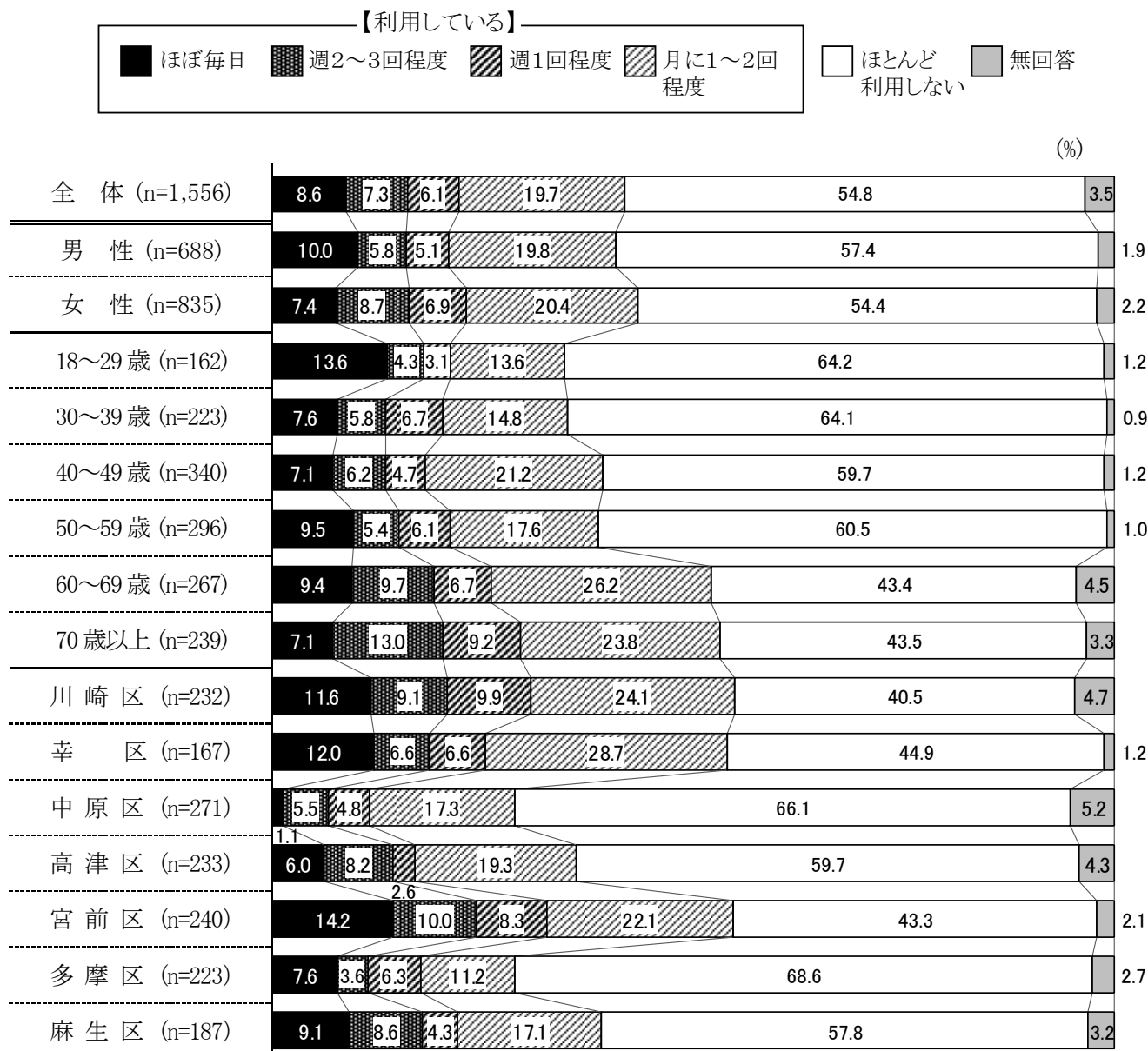
【図表 147】 市内の路線バスの利用頻度



年齢別に見ると、【利用している】は60～69歳(52.1%)と70歳以上(53.1%)では5割を超えて多くなっている。

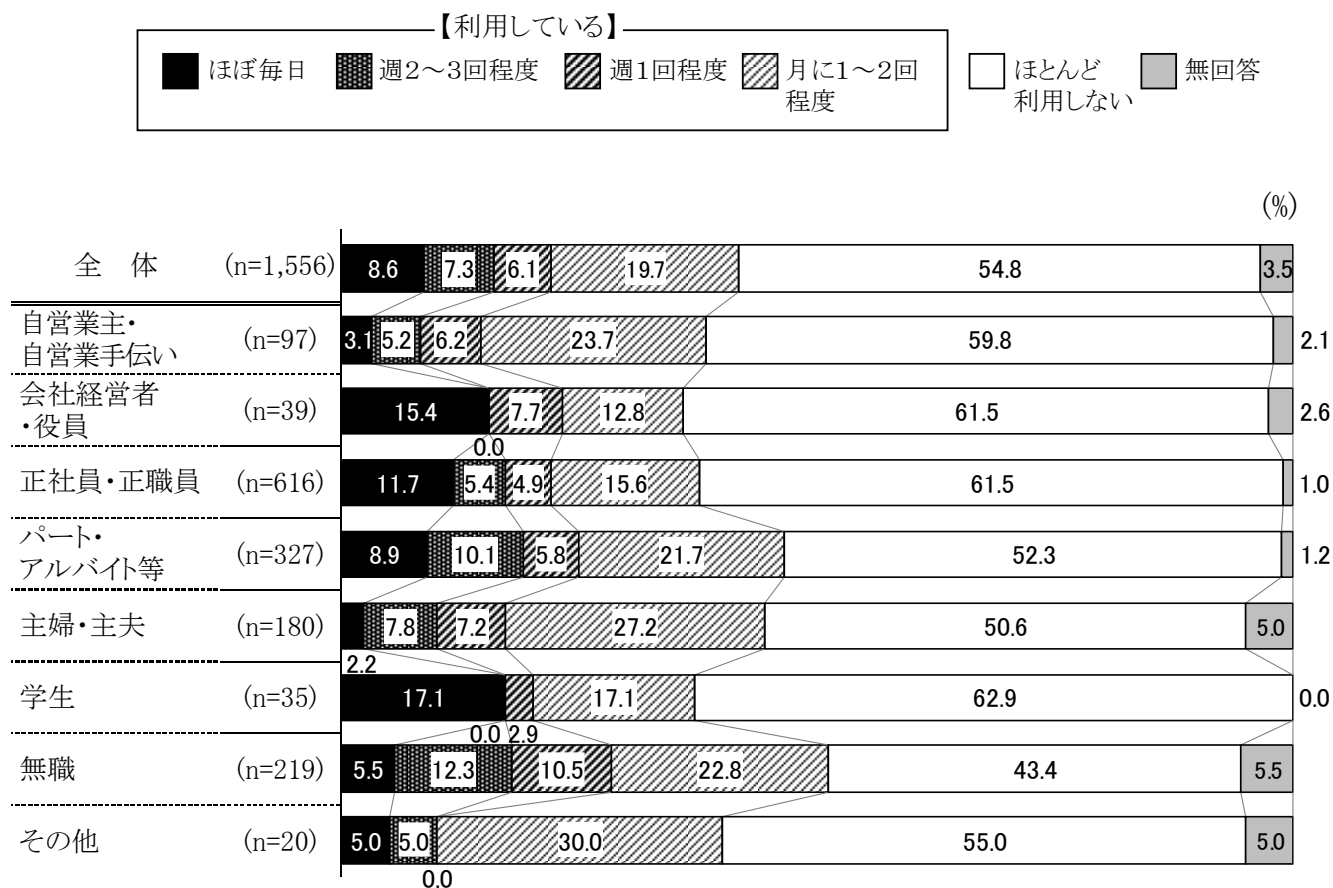
居住区別に見ると、【利用している】は川崎区(54.7%)、宮前区(54.6%)、幸区(53.9%)では5割を超えているが、中原区(28.8%)と多摩区(28.7%)では3割を下回った。

【図表 148】市内の路線バスの利用頻度(性別、年齢別、居住区別)



職業別に見ると、【利用している】は「無職（収入が年金のみの方を含む）」（51.1%）で5割を超えて最も多く、次いで「パート・アルバイト・嘱託社員・派遣社員（正社員・正職員以外）」（46.5%）、「主婦・主夫（家事専業）」（44.4%）と続いている。

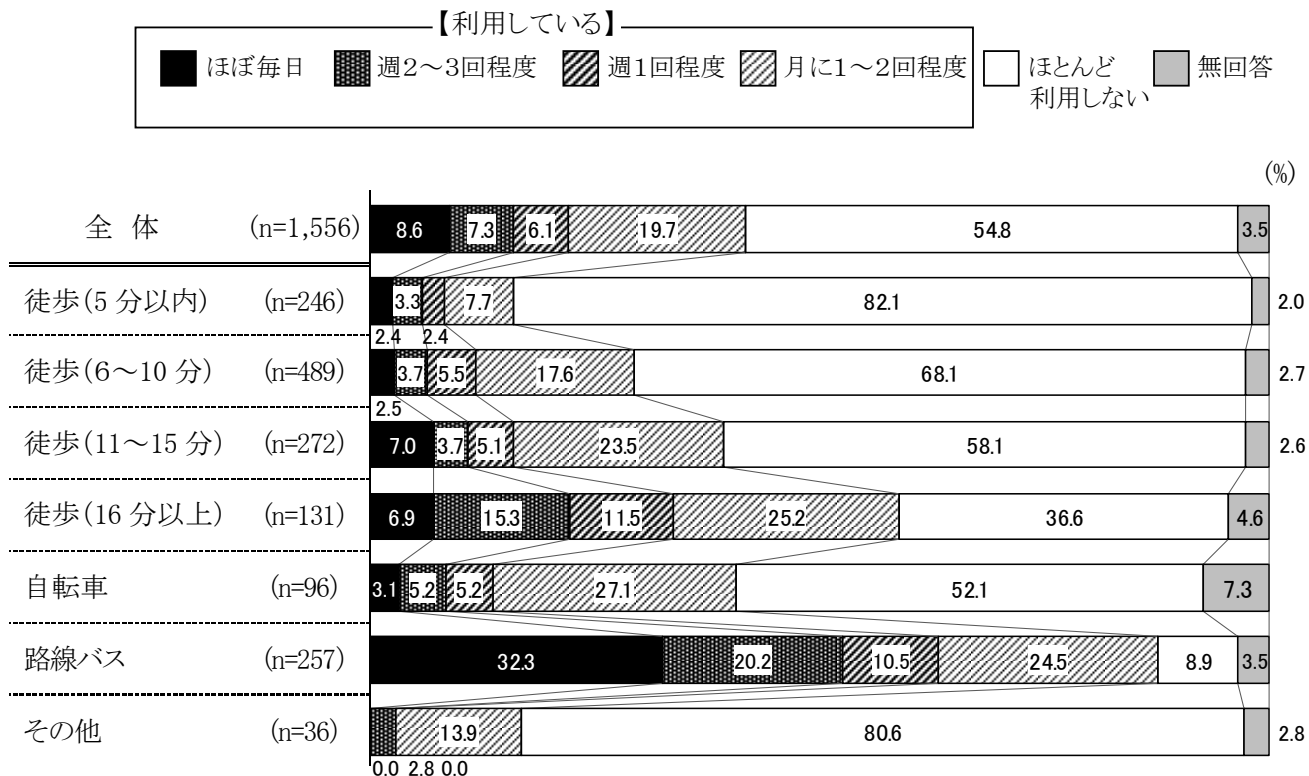
【図表 149】市内の路線バスの利用頻度（職業別）



※「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

自宅から最寄り駅までの移動手段別（159 ページ参照）を見ると、【利用している】は「徒歩5分以内では15.9%であるが、「徒歩（6～10分）」では29.2%、「徒歩（11～15分）」では39.3%と所要時間が長くなるほど多くなり、「徒歩（16分以上）」（58.8%）では6割近くとなっている。

【図表 150】市内の路線バスの利用頻度（自宅から最寄り駅までの移動手段別）



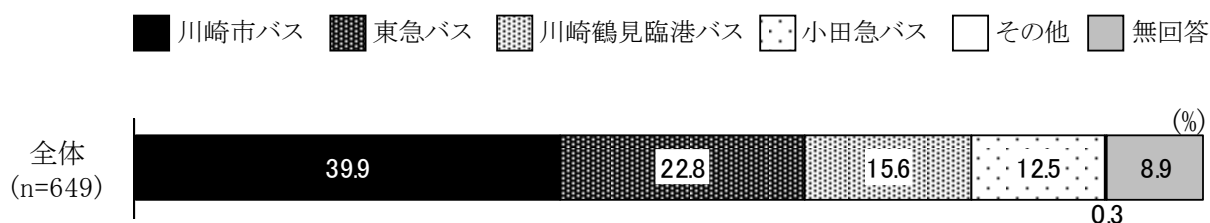
(7) 最もよく利用するバス会社と利用目的

問 23. 問 22 で「1. ほぼ毎日」～「4. 月に1～2回程度」と回答した方にうかがいます。
 あなたが最もよく利用する市内のバス会社とバスを利用する主な目的を教えてください。
 利用頻度の多いケースを想定して、A（バス会社）、B（利用目的）それぞれから最もあてはまるものを1つ選んでください。

① バス会社

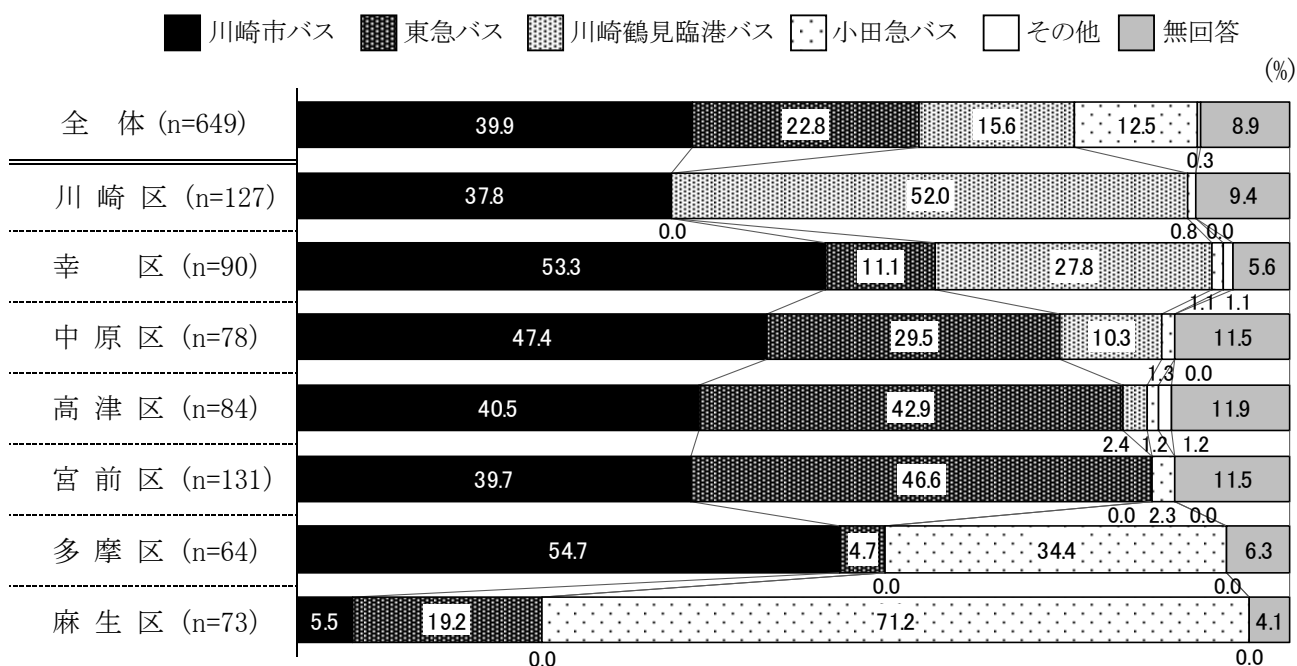
市内の路線バスを【利用している】（「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計）人に、最もよく利用するバス会社についてたずねたところ、「川崎市バス」が39.9%と最も多く、次いで「東急バス」（22.8%）、「川崎鶴見臨港バス」（15.6%）、「小田急バス」（12.5%）と続いている。

【図表 151】最もよく利用する市内のバス会社



居住区別に見ると、幸区、中原区、多摩区は「川崎市バス」が最も多くなっている。宮前区では「東急バス」が最も多く、高津区では「東急バス」と「川崎市バス」がほぼ同程度であった。また、川崎区は「川崎鶴見臨港バス」が5割を超えて最も多く、麻生区では「小田急バス」が7割を超えている。

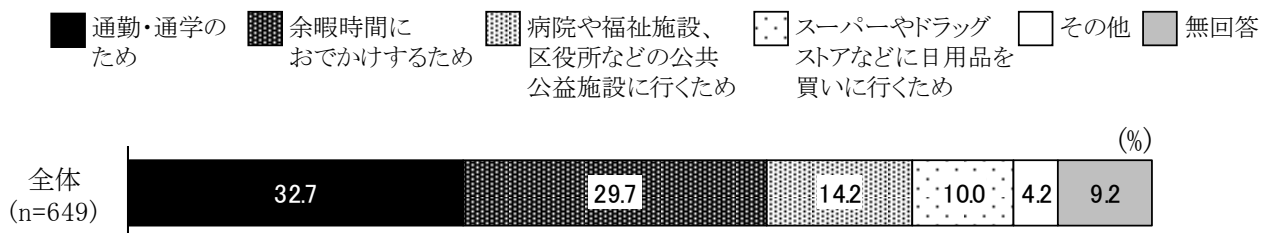
【図表 152】最もよく利用する市内のバス会社（居住区別）



② 利用目的

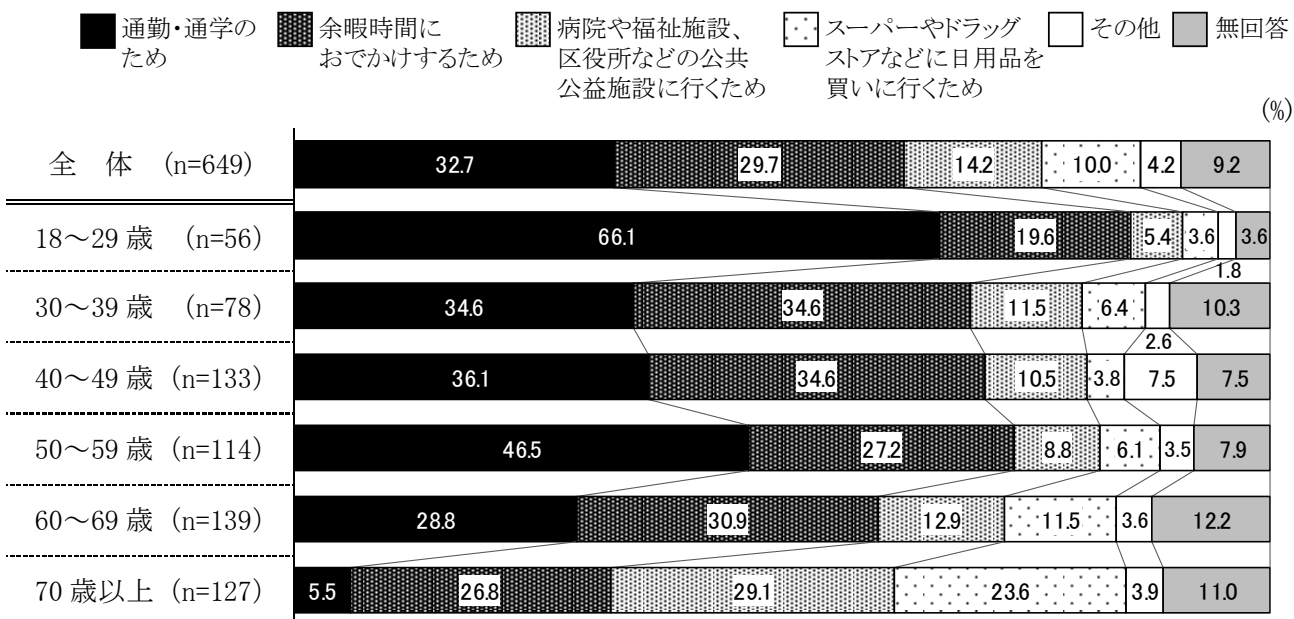
市内の路線バスを【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計) 人に、バスを利用する主な理由についてたずねたところ、「通勤・通学のため」が32.7%と最も多く、次いで「余暇時間におでかけするため」(29.7%)、「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」(14.2%)と続いている。

【図表 153】バスを利用する主な目的



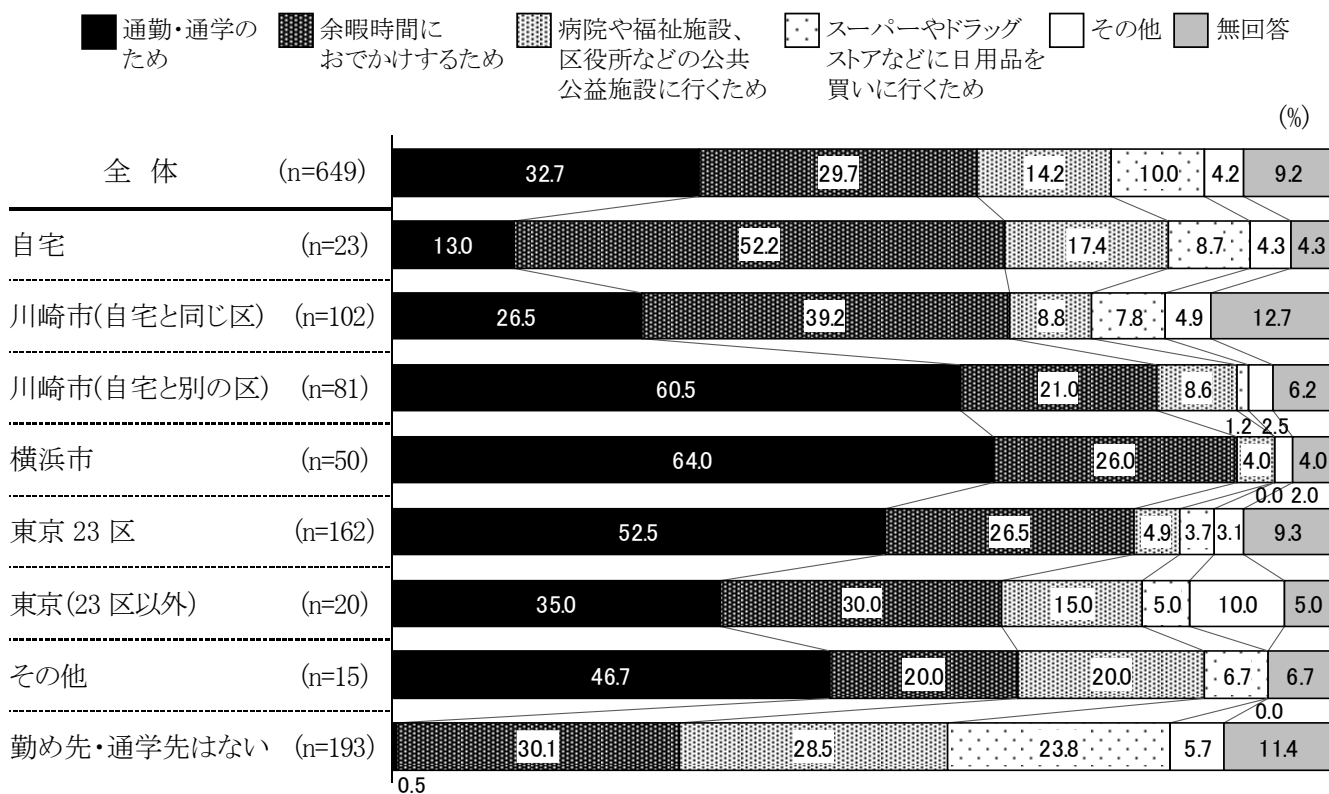
年齢別に見ると、18～29歳と50～59歳は「通勤・通学のため」が最も多くなっており、30～39歳、40～49歳、60～69歳は「通勤・通学のため」と「余暇時間におでかけするため」がほぼ同程度である。70歳以上では、他の年代では1割程度の「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」(29.1%)がほぼ3割で最も多く、また、「スーパーやドラッグストアなどに日用品を買いに行くため」についても2割を超えている。

【図表 154】バスを利用する主な目的 (年齢別)



通勤・通学先の地域別に見ると、「通勤・通学のため」は「横浜市」(64.0%)と「川崎市(自宅と別の区)」(60.5%)の人では6割を超え、「東京23区」(52.5%)の人では5割程度となっているが、「川崎市(自宅と同じ区)」(26.5%)の人では2割台にとどまり、「余暇時間におでかけするため」(39.2%)の方が多くなっている。

【図表 155】バスを利用する主な目的(通勤・通学先の地域別)



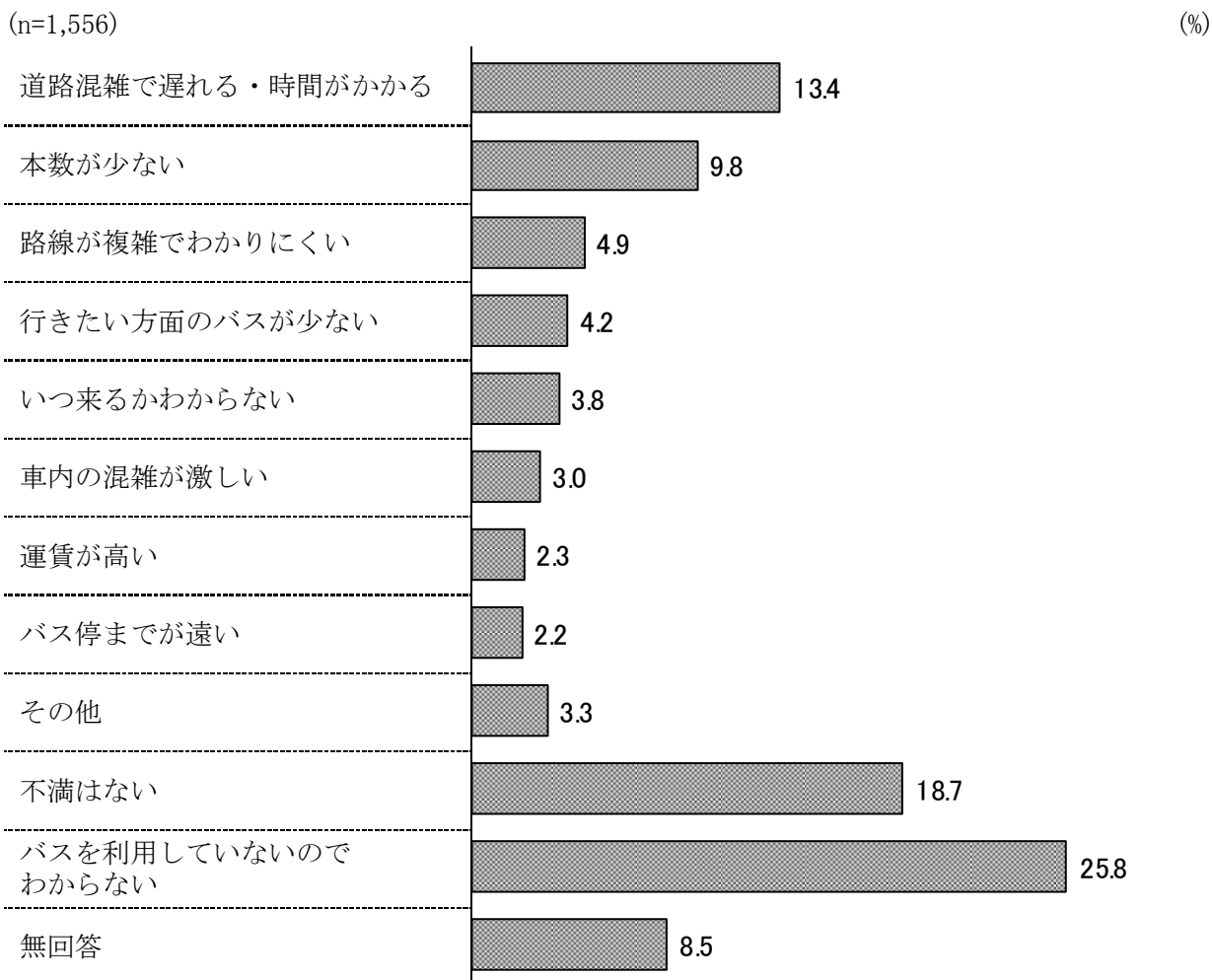
※「自宅」、「東京(23区以外)」、「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

(8) 市内の路線バス利用において不満に感じること

問 24. 市内の路線バス利用において、あなたが最も不満に感じている点は何ですか。

全体では、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」が13.4%と最も多く、次いで「本数が少ない」(9.8%)、「路線が複雑でわかりにくい」(4.9%)と続いている。一方で、2割近くが「不満はない」(18.7%)と回答している。

【図表 156】市内の路線バス利用において最も不満に感じること

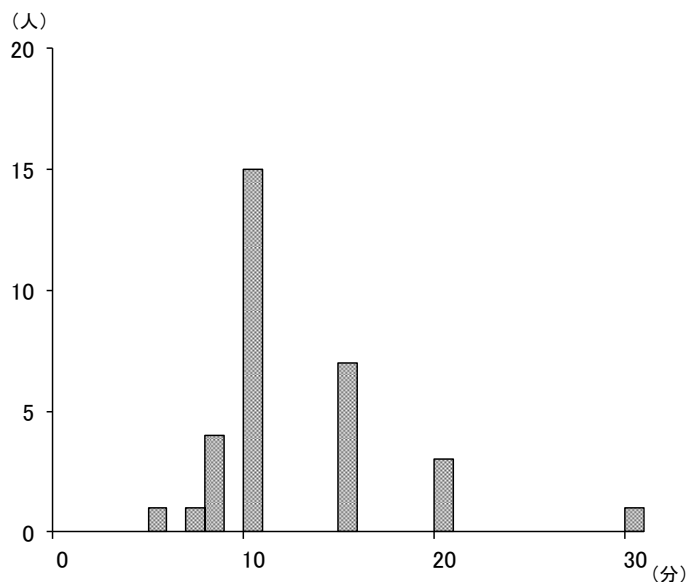


バス停までの所要時間

「バス停までが遠い」と回答した人にバス停までの所要時間をたずねたところ、「10分以内」の回答が60.0%、「15分以内」が80.0%となっている。平均は12.2分であった。

【図表 157】バス停までの所要時間 [「バス停までが遠い」と回答した人]

所要時間(分)	回答数	累積%
1分	0	0.0
2分	0	0.0
3分	0	0.0
4分	0	0.0
5分	1	2.9
6分	0	2.9
7分	1	5.7
8分	4	17.1
9分	0	17.1
10分	15	60.0
11分	0	60.0
12分	0	60.0
13分	0	60.0
14分	0	60.0
15分	7	80.0
16分	0	80.0
17分	0	80.0
18分	0	80.0
19分	0	80.0
20分	3	88.6
21分	0	88.6
22分	0	88.6
23分	0	88.6
24分	0	88.6
25分	0	88.6
26分	0	88.6
27分	0	88.6
28分	0	88.6
29分	0	88.6
30分	1	91.4
無回答	3	100.0
合計	35	

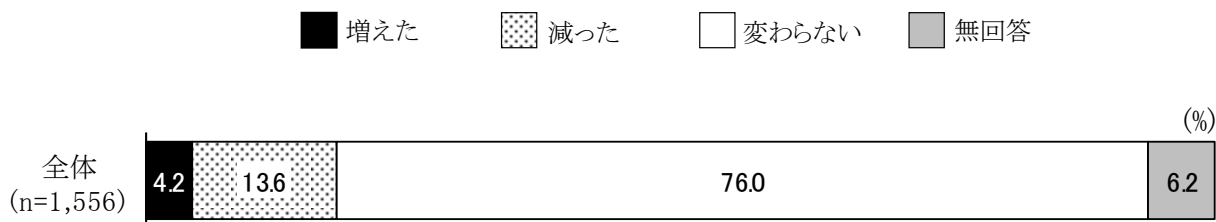


(9) コロナ禍前と比較した路線バス利用頻度の変化について

問 25. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2019(令和元)年11月）と現在（2022(令和4)年11月）を比較して、路線バスの利用頻度は増えましたか。それとも減りましたか。

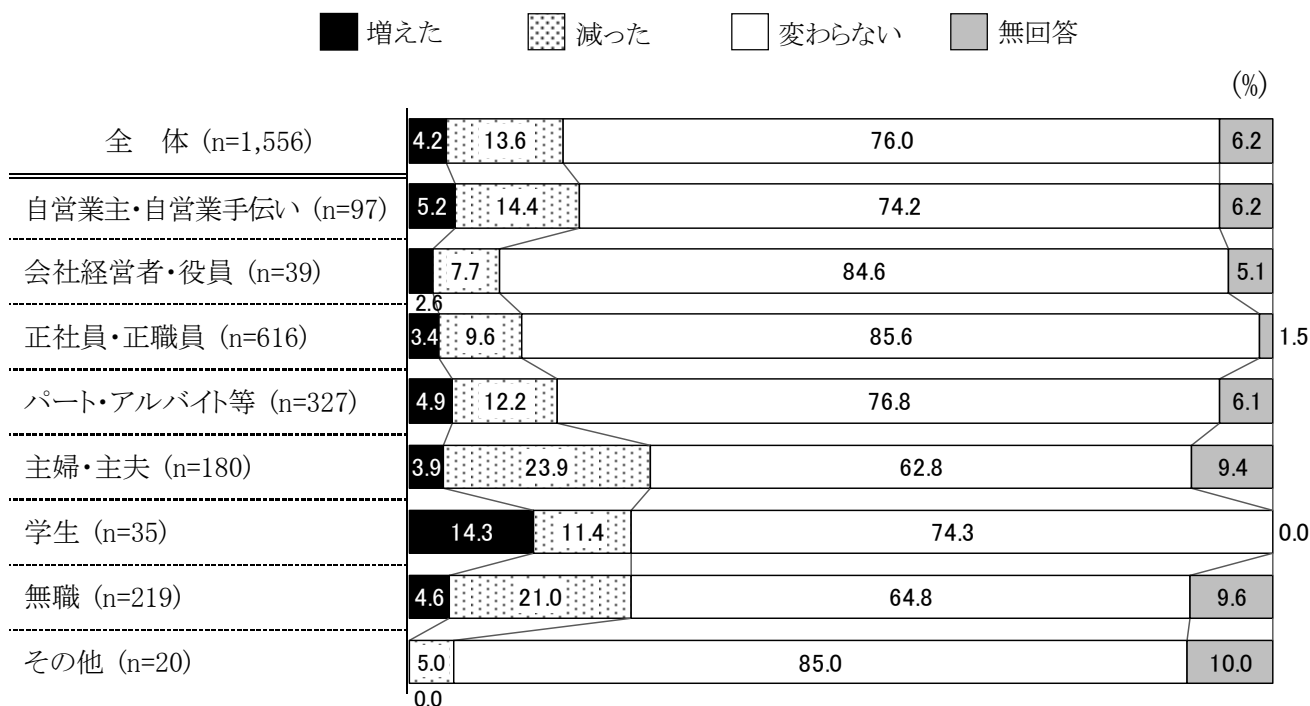
「変わらない」が76.0%を占め、「減った」が13.6%、「増えた」が4.2%であった。

【図表 158】新型コロナウイルス感染拡大前と比較した路線バス利用頻度



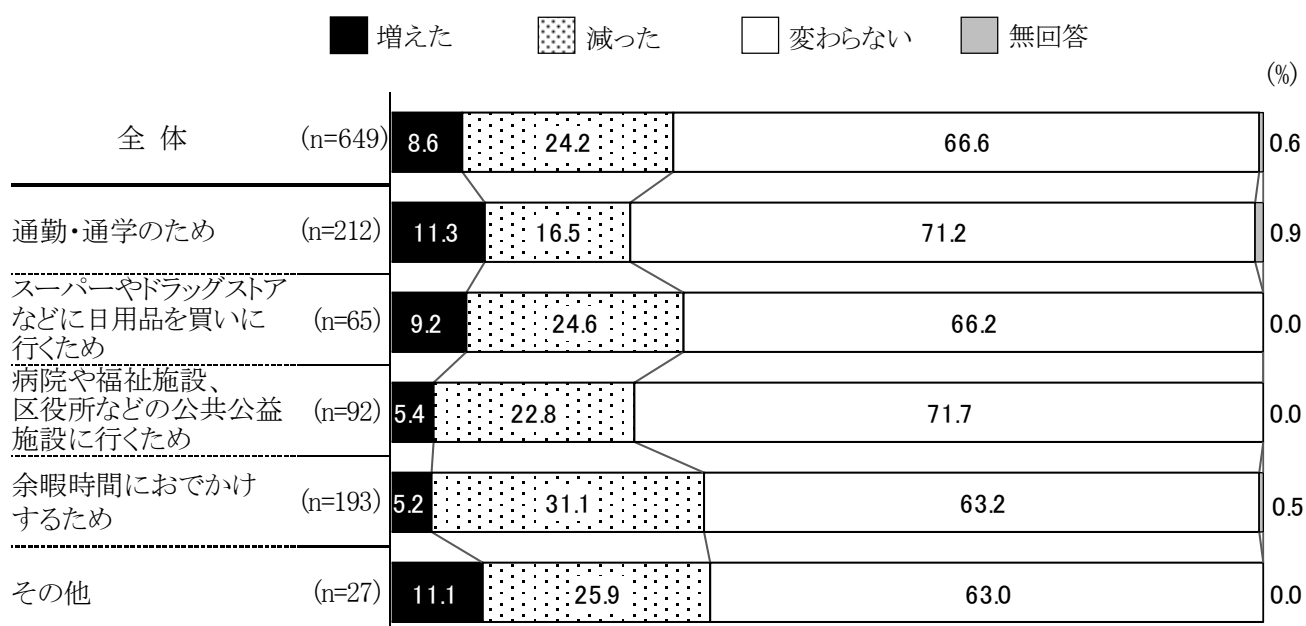
職業別に見ると、「増えた」は「学生」で14.3%と他の職業と比べて多くなっている。また、「減った」は「主婦・主夫」(23.9%)と「無職」(21.0%)で2割を超え、「変わらない」は「会社経営者・役員」(84.6%)と「正社員・正職員」(85.6%)で8割台となっている。

【図表 159】新型コロナウイルス感染拡大前と比較した路線バス利用頻度（職業別）



市内の路線バス利用者について主な利用目的別に見ると、「増えた」は「通勤・通学のため」(11.3%)で比較的多くなっている。また、「減った」は「余暇時間におでかけするため」(31.1%)で3割を超えている。

【図表 160】新型コロナウイルス感染拡大前と比較した路線バス利用頻度
(市内の路線バス利用者／主な利用目的別)



(10) 路線バス利用頻度減少の程度と理由

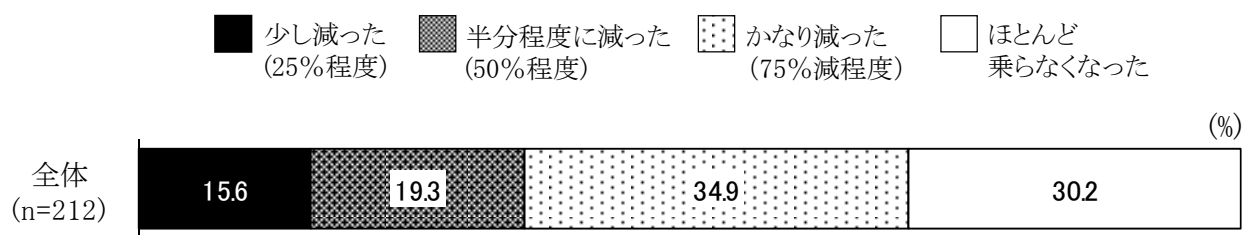
問 26. 路線バスの利用頻度について、(1)・(2)の質問にお答えください。

- (1) 利用頻度はどれくらい減りましたか。
- (2) 利用頻度が減った理由は何ですか。

① 路線バス利用頻度減少の程度

新型コロナウイルスの感染拡大前と比較して路線バスの利用頻度が減った人に、利用頻度減少の程度についてたずねたところ、「かなり減った(75%程度)」が34.9%と最も多く、次いで「ほとんど乗らなくなった」(30.2%)、「半分程度に減った(50%程度)」(19.3%)、「少し減った(25%程度)」(15.6%)と続いている。

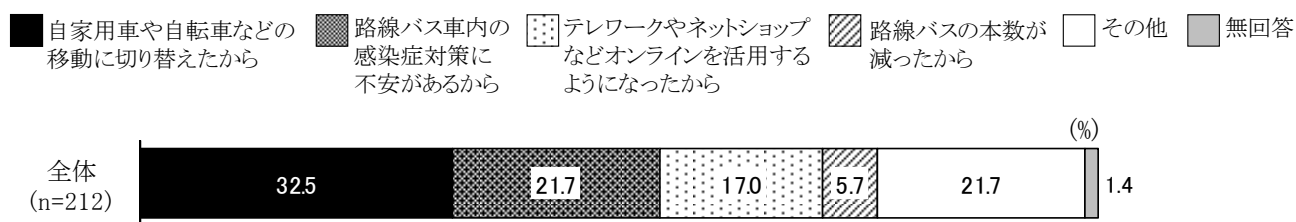
【図表 161】 路線バス利用頻度減少の程度



② 路線バス利用頻度減少の理由

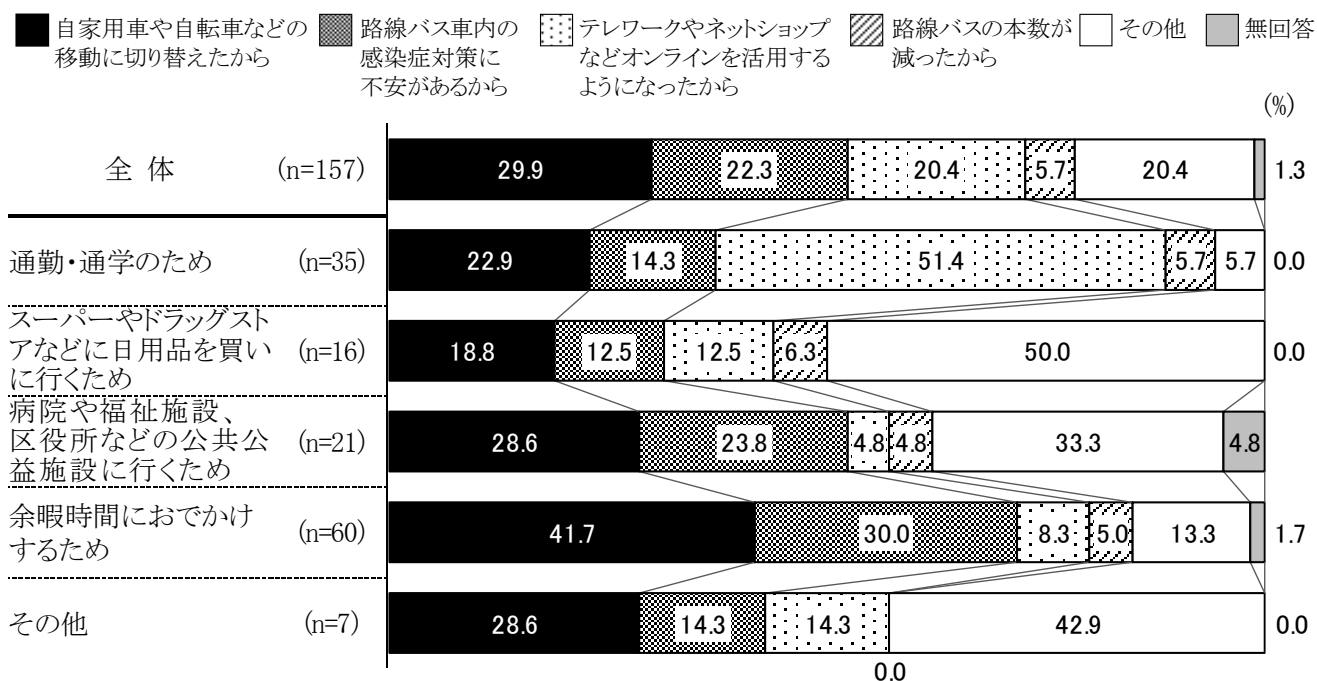
新型コロナウイルスの感染拡大前と比較して路線バスの利用頻度が減った人に、利用頻度減少の理由についてたずねたところ、「自家用車や自転車などの移動に切り替えたから」が32.5%と最も多く、次いで「路線バス車内の感染症対策に不安があるから」「その他」(共に21.7%)、「テレワークやネットショップなどオンラインを活用するようになったから」(17.0%)、「路線バスの本数が減ったから」(5.7%)と続いている。

【図表 162】 路線バス利用頻度減少の理由



主な利用目的別に見ると、「テレワークやネットショップなどオンラインを活用するようになったから」は「通勤・通学のため」(51.4%)で5割を超えて多くなっている。また、「自家用車や自転車などの移動に切り替えたから」は「余暇時間におでかけするため」(41.7%)で4割を超えている。

【図表 163】 路線バス利用頻度減少の理由（主な利用目的別）



※「スーパーやドラッグストアなどに日用品を買いに行くため」、「病院や福祉施設、区役所などの公共公益施設に行くため」、「その他」は回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

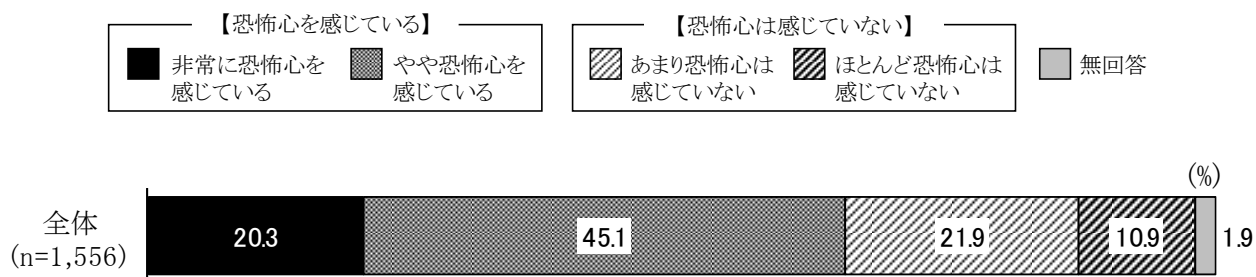
2.7 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心

問 27. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

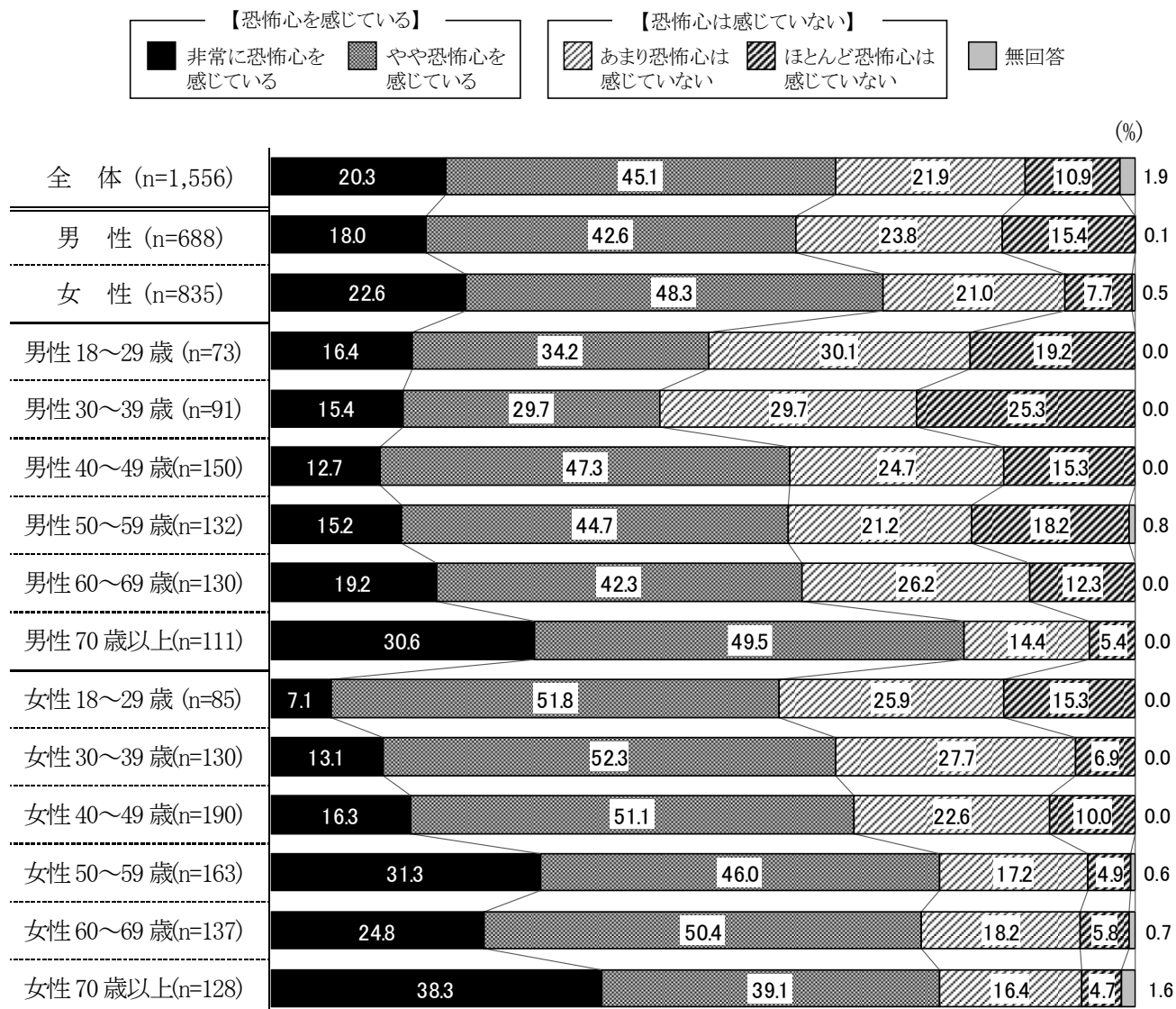
「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は65.4%、「あまり恐怖心は感じていない」と「ほとんど恐怖心は感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は32.8%であった。

【図表 164】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



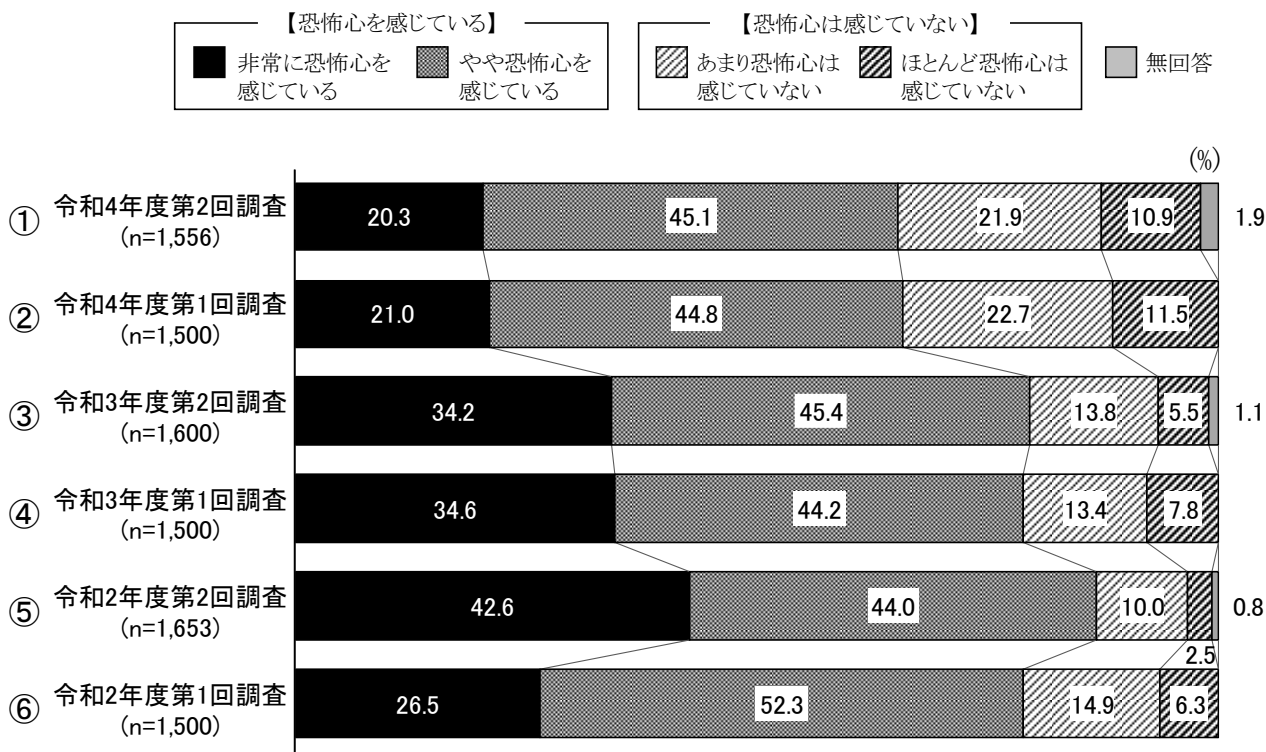
性／年齢別に見ると、【恐怖心を感じている】は男性よりも女性の方が10.3ポイント高くなっている(男性60.6%、女性：70.9%)。また、【恐怖心を感じている】は概ね年齢が上がるほど多くなり、【恐怖心を感じている】については、男性は70歳以上で約8割、女性は50歳代以上で7割台後半となっている。

【図表 165】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心(性／年齢別)



同じ設問を聴取した過去の調査と比較すると、【恐怖心を感じている】は、令和2年度第2回調査の86.6%が最も多かったが、以降、令和3年度第1回・第2回調査はいずれも8割弱、令和4年度第1回・第2回調査はいずれも65%程度と減少傾向となっている。

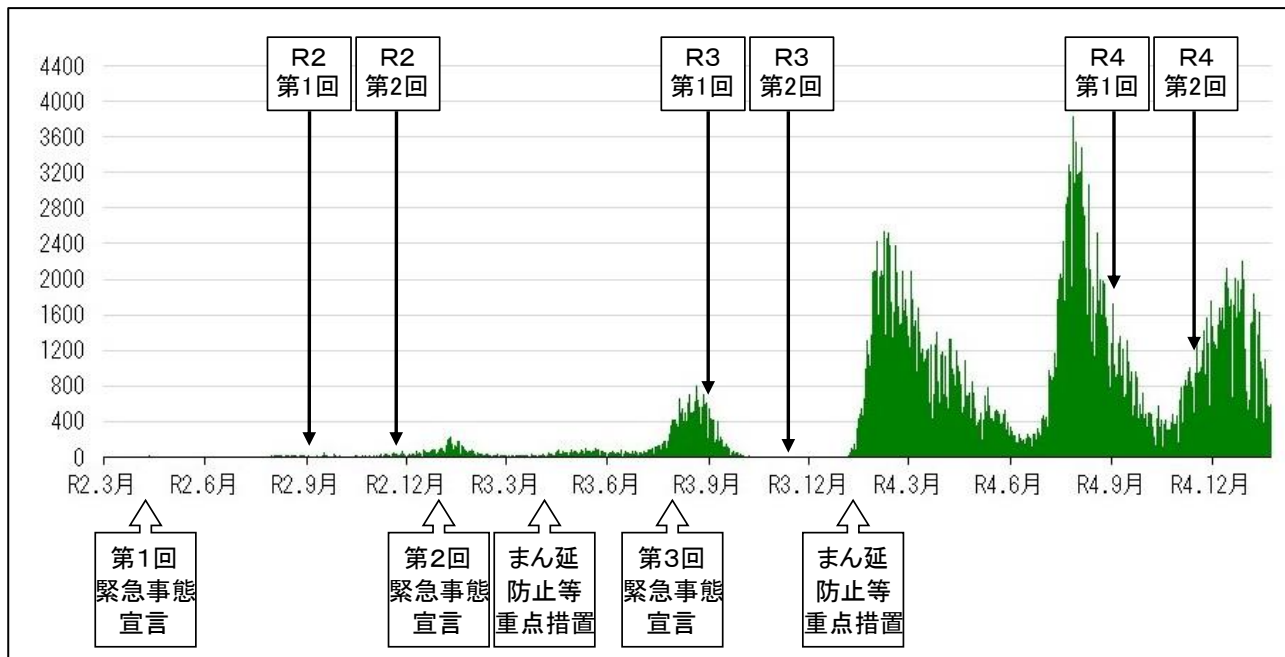
【図表 166】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心
(過去調査との比較)



【参考】各調査の調査概要と調査期間における緊急事態宣言の状況について

	調査期間	調査方法	緊急事態宣言の有無
①	令和4年11月1日～12月9日	郵送	無
②	令和4年8月26日～9月6日	インターネット	無
③	令和3年11月17日～12月24日	郵送	無
④	令和3年9月3日～9月13日	インターネット	有(令和3年8月2日～9月30日)
⑤	令和2年11月18日～12月25日	郵送	無
⑥	令和2年9月4日～9月14日	インターネット	無

【参考】 各調査の実施時期と川崎市の陽性者数推移・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置発出時期



※陽性者数のグラフは川崎市ホームページより転載。

